

キャンパスライフ

24th Tokushima Univ. Campus Life
第24回学生生活実態調査報告書



徳島大学

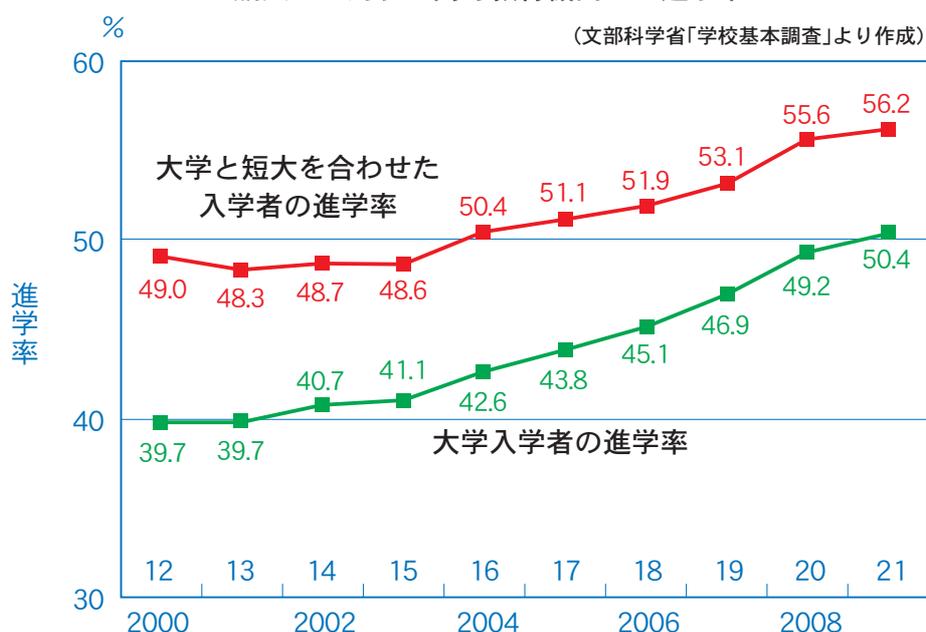
The University of Tokushima

ま え が き

キャンパスライフ―第24回学生生活実態調査報告書―をお届けします。今年度は本学開学60周年の記念の年度でもあり、実態調査がほぼ2年毎に行われていることから考えると、学生生活に関する貴重なデータをお届けできることと確信しております。大学入門講座や各学年のオリエンテーションの際にご活用ください。

折しも、一昨年末からの世界的な不況、この影響による就職の氷河期到来、加えて政治体制の変革とめまぐるしく変化する世界情勢の中で、本学学生の実態を見直して頂きたいと思えます。また、今年度は18歳人口に占める大学入学者の進学率が50%を超えた年でもあり、学生のあらゆる面での多様化が加速することが予想できます。たとえば、授業出席状況はどの学部ともきわめて良いにもかかわらず、勉学の意欲が湧かない、授業に魅力が無いという意見が常にあるのです。このような多様化するニーズに応えるには、一つの授業で各教員が努力をするというよりは複数科目からなる授業クラスターをカリキュラムに導入して複数教員で対応する等のことが必要なのかも知れません。学生のみなさんの気質は多種多様で変化の幅が大きくなっています。本報告書の有効な活用を期待します。

18歳人口に対する高等教育機関への進学率



最後に、本報告書をまとめて頂きました佐野茂樹学生支援センター学生支援室長をはじめとする支援室運営委員の先生方に深くお礼を申し上げるとともに、調査に協力いただいた学生、学務部職員のみなさんに感謝いたします。

平成22年3月

徳島大学理事（教育担当）
学生支援センター長

川 上 博

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「平成21年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	6
第1章 家族・住居，通学について	17
1-1 家庭の年間収入	17
1-2 住居区分	17
1-3 1か月の家賃	18
1-4 住居満足度	18
1-5 住居（部屋）の紹介・斡旋者	19
1-6 通学方法	20
1-7 通学時間	21
1-8 通学中の交通事故	21
第2章 収入・支出について	22
2-1 1か月の平均収入額【自宅外通学者】	22
2-2 保護者等からの援助額【自宅外通学者】	22
2-3 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	23
2-4 1か月の平均の食費【自宅外通学者】	23
2-5 経済状況	24
2-6 奨学金	25
2-7 1週間のアルバイト従事日数	25
2-8 1週間のアルバイト従事時間数	26
2-9 アルバイトと勉学	26
2-10 アルバイトの目的	27
2-11 アルバイトの種類	27
2-12 アルバイト収入	27
2-13 アルバイトの紹介者	28
2-14 アルバイトのトラブル内容	29
2-15 授業料の免除について（年収500万円未満の家庭）	30
2-16 奨学金受給状況（年収500万円未満の家庭）	30
第3章 健康状態について	32
3-1 睡眠時間	32
3-2 気になる症状	33
3-3 主な悩みと不安	34
3-4 相談相手	34
3-5 喫煙について	35
3-6 飲酒について	37

第4章	食事について	39
4-1	朝食	39
4-2	昼食と夕食	40
4-3	昼食の利用場所	40
4-4	弁当を食べる場所	41
4-5	学生食堂について感じる事	41
第5章	学生生活上の問題点	43
5-1	大学生活の意義	43
5-2	迷惑行為	44
5-3	教職員・友人との交流	50
5-4	大学事務室の対応への満足度	53
5-5	盗難等犯罪被害	54
第6章	修学状況について	57
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	57
6-2	単位取得状況と授業出席状況	58
6-3	授業の満足度	59
6-4	授業予習復習時間とカンニング経験	60
6-5	オフィスアワーの利用状況	61
6-6	図書館の利用状況	63
第7章	課外活動について	64
7-1	サークル加入状況	64
7-2	活動状況	66
7-3	加入の動機	67
7-4	サークルに加入していない理由	68
7-5	学生行事	70
7-6	大学祭への参加状況	72
7-7	ボランティア活動	73
7-8	まとめと今後の課題	74
第8章	進路・就職について	76
8-1	進路情報入手手段	76
8-2	就職・進学希望について	76
8-3	就職先選択で重視するもの	77
8-4	希望する職種	77
8-5	就職セミナーへの参加	78
8-6	就職支援室の利用状況	78
8-7	就職情報の入手方法	79
第9章	学部の現状と課題	80
9-1	総合科学部	80
9-2	医学部	81
9-3	歯学部	82
9-4	薬学部	84
9-5	工学部	85
第10章	総括と提言	87
あとがき		89

※ 資料編はCDに収録する

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学学生委員会及び学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり、調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	佐 野 茂 樹	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	大 淵 朗	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
委 員	近 藤 正	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	吉 田 秀 夫	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	福 井 裕 行	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	海江田 義 也	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	井 崎 ゆみ子	保 健 管 理 セ ン タ ー	准 教 授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授
委 員	石 原 国 彦	全 学 共 通 教 育 セ ン タ ー	副センター長
委 員	本 仲 純 子	学 生 相 談 室	室 長
委 員	平 井 松 午	就 職 支 援 室	室 長

3 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,879 人（平成 21 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し、回答用紙(マークシート)を回収した。

4 調査の時期

この調査は、平成 21 年 11 月 2 日から 11 月 10 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 13 日までとした。

5 調査の内容

調査項目については、調査の継続性も考慮しながら必要な見直しを行い、調査項目を前回の 80 問より多くならないように精選するとともに、収入・支出については、前回までは自宅通学者と自宅外通学者が混在したまま調査対象としていたものを昨今の経済情勢の悪化を強く受けていると思われる自宅外通学者に焦点を絞ったこと、年収 500 万円未満の家庭に対する授業料免除申請・結果の状況や奨学金の受給状況を新たに加えたこと、また学生の健康状態については、前回調査後の要望事項として挙げられていた喫煙及び飲酒の状況に関する設問を新たに追加する等の変更を加えた。

6 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端数処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

工学部昼間コース → 工学部昼間

工学部夜間主コース → 工学部夜間

平成16年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査

平成18年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,879人のうち回答数は3,198人で、回収率は54.4%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

平成21年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学部	学科	対象者数	回収数	回収率(%)
総合科学部	人間文化学科	106	11	10.4
	社会創生学科	110	64	58.2
	総合理数学科	67	20	29.9
	人間社会学科	554	182	32.9
	自然システム学科	272	94	34.6
	計	1,109	371	33.5
医学部	医学科	586	496	84.6
	栄養学科	204	180	88.2
	保健学科	535	366	68.4
	計	1,325	1,042	78.6
歯学部	歯学科	287	179	62.4
	口腔保健学科	47	45	95.7
	計	334	224	67.1
薬学部	薬学部共通学科	160	83	51.9
	薬学科	89	43	48.3
	創製薬科学科	80	40	50.0
	計	329	166	50.5
工学部	建設工学科	429	177	41.3
	機械工学科	558	270	48.4
	化学応用工学科	377	277	73.5
	生物工学科	281	100	35.6
	電気電子工学科	499	217	43.5
	知能情報工学科	418	222	53.1
	光応用工学科	220	132	60.0
	計	2,782	1,395	50.1
合計		5,879	3,198	54.4

<学年別>

学年	対象者数	回収数	回収率
1年	1,387	679	49.0
2年	1,379	754	54.7
3年	1,423	770	54.1
4年	1,395	787	56.4
5年	146	117	80.1
6年	149	91	61.1
計	5,879	3,198	54.4

<男女別>

学部	回収率		
	男	女	計
総合科学部	32.0	34.4	33.5
医学部	77.2	79.9	78.6
歯学部	51.4	85.2	67.1
薬学部	45.5	57.1	50.5
工学部	49.0	58.4	50.1
計	51.5	59.9	54.4

平成21年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

平成21年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成21年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入していただき、他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月2日～11月10日]

回答用紙(マークカード)の提出期限は、11月13日(金)です。
所属学部の学務(教務)係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成21年11月1日現在で記入して下さい。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、問31については気になる具体的症状を、問45についてはその具体的内容を、また学生生活全般について気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。
- 5 *は、前回からの継続調査項目です。

学 生 生 活 実 態 調 査 票

A. 基本事項について

1 * 【全員】 国籍・性別はどれですか。	1. 日本人男 2. 日本人女 3. 留学生男 4. 留学生女
2 * 【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部 2. 医学部 3. 歯学部 4. 薬学部 5. 工学部(昼間コース) 6. 工学部(夜間主コース)
3 * 【全員】 学科はどこですか。	総合科学部 〔 1. 人間社会学科 2. 自然システム学科 〕 〔 3. 人間文化学科 4. 社会創生学科 〕 〔 5. 総合理数学科 〕 医 学 部 〔 1. 医学科 2. 栄養学科 3. 保健学科 〕 歯 学 部 〔 1. 歯学科 2. 口腔保健学科 〕 薬 学 部 〔 1. 薬学科 2. 製薬化学科 3. 創製薬科学科 〕 (薬学部1～2年生については、〔1. 薬学科 3. 創製薬科学科〕の選択は不要) 工 学 部 〔 1. 建設工学科 2. 機械工学科 〕 〔 3. 化学応用工学科 4. 生物工学科 〕 〔 5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科 〕 〔 7. 光応用工学科 〕
4 * 【全員】 何年生ですか。	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

B. 家族・住居、通学について

5 * 【全員】 あなたの家庭の年収(税込み)はどれくらいですか。	1. 250万円未満 2. 250～500万円未満 3. 500～750万円未満 4. 750～1,000万円未満 5. 1,000～1,500万円未満 6. 1,500万円以上
6 * 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1. 自宅(家族と同居) 2. アパート・マンション(家族と別居) 3. 学生寮 4. 間借り(下宿) 5. 親戚・知人宅 6. 国際交流会館・日亜会館 7. その他
7 * 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃(電気代、ガス代等諸費用を除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満 4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満 6. 7万円～8万円未満 7. 8万円以上

8 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1. 満足している 3. どちらともいえない 5. 不満足である	2. ほぼ満足している 4. やや不満足である
9	【問8で「4」、「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 (複数回答可)	1. 狭い 3. 通学に不便 5. 周りの環境が良くない	2. 家賃が高い 4. 日常生活に不便 6. その他
10 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 住居(部屋)の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
11 *	【全員】 あなたの主な通学方法は 何ですか。	1. 徒歩 3. バイク(原付自転車・自動二輪) 4. 自動車	2. 自転車 5. バス・JR
12 *	【全員】 通学時間はどのくらいで すか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満 5. 2時間以上	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満
13 *	【全員】 通学中に交通事故をおこ したことはまたは交通事 故の被害にあったことがあ りますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

14 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均収 入額(保護者等からの援 助を含む)はいくらです か。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
15 *	【自宅外通学者】 保護者等からの援助はい くらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
16 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均支 出額(授業料支出は除く) はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満

17	【自宅外通学者】 * 1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
18	【全員】 * 現在の経済状況について	1. ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ） 2. 普通（あまり不自由を感じない） 3. やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる） 4. 大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）	
19	【全員】 * 奨学金を受けることを希望しますか。	1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する 2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する 3. 現在受給中であるが、次は希望しない 4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する 5. 現在受給していないし、希望もしない	
20	【全員】 * 現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上
21	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 * 1週間の従事時間は合計何時間ですか。（移動に要する時間も含む）	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
22	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
23	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトは主にどのような目的でしていますか。（複数回答可）	1. 生活費や学費のため 2. レジャー・旅行費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品（自動車・パソコン等）購入のため 5. 課外活動費のため 6. 社会体験のため 7. その他	
24	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 * どのようなアルバイトをしていますか。（複数回答可）	1. 家庭教師・学習塾講師等 2. 会場設営・撤収、搬入搬出 3. 受付・接客 4. イベントスタッフ補助 5. 商品販売 6. 商品等整理・包装 7. 飲食店等手伝い 8. 駐車場整理員 9. 引越しスタッフ 10. その他	
25	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 * あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上

26 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 そのアルバイトはどこで（誰に）紹介してもらいましたか。（複数回答可）	1. 学務部 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 4. 教員 6. 自分で開拓	2. 友人・先輩 5. 家族 7. その他
27 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）	1. ない 3. 給料が契約より低かった 5. 解雇 7. 事故・ケガ	2. 給料の不払い 4. 客とのトラブル 6. 雇用者との意見の不一致 8. その他
28	【問5で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭）】 授業料免除についてお尋ねします。（直近のものでお答えください。）	1. 授業料免除は知っているが申請していない 2. 全額免除を受けている 3. 半額免除を受けている 4. 申請したが不許可だった 5. 授業料免除制度を知らなかった	
29	【問5で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭）】 奨学金は受けていますか。	1. 受けていない 2. 受けている（月額3万円未満） 3. 受けている（月額3～5万円未満） 4. 受けている（月額5～7万円未満） 5. 受けている（月額7～10万円未満） 6. 受けている（月額10～15万円未満） 7. 受けている（月額15万円以上）	

D. 健康状態について

30 *	【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
31 *	【全員】 現在気になる症状は何ですか。 （複数回答可）	1. 頭痛・めまい 3. 不眠 5. 下痢・便秘 7. 生理痛・生理不順 9. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください）	2. アトピー・アレルギー 4. 動悸・不整脈 6. 咳・痰 8. 特にない
32 *	【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 （複数回答可）	1. ない 3. 勉学 5. 身体的不調 7. 自分の性格 9. 生き甲斐や目標	2. 経済状態 4. 交友・異性関係 6. 家族関係 8. 就職や進路 10. その他
33 *	【全員】 悩み事は誰に相談しますか。 （複数回答可）	1. 友人 3. 教員 5. 学務（教務）係 7. 誰にもしない	2. 家族 4. 学生相談室 6. その他

34	【全員】 喫煙について	1. 喫煙したことはない 2. とくとき喫煙している 3. 毎日喫煙している 4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない 5. その他
35	【全員】 飲酒について	1. 飲酒はしない 2. たまに飲酒する 3. 1週間に1～2日飲酒している 4. 1週間に3～4日飲酒している 5. 1週間に5日以上飲酒している
36	【問35で「4」～「5」 を選んだ方】 1回に飲む量はどのくら いですか。 (日本酒ならコップ1杯 (180ml)、ビールなら 中瓶1本(500ml)を1 合としてお答えくださ い。)	1. 1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満 5. 4合以上5合未満 6. 5合以上

E. 食事について

37 *	【全員】 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
38 *	【全員】 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
39 *	【全員】 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
40 *	【全員】 昼食は主にどこを利用し ていますか。	1. 常三島第1食堂(生協)を利用 2. 常三島第2食堂(工学部構内)を利用 3. 蔵本会館食堂を利用 4. 弁当を購入 5. 自宅(下宿) 6. その他
41 *	【問40で「4」を選ん だ方】 どこで食べていますか。	1. 教室 2. 建物外 3. 自宅(下宿) 4. その他
42 *	【全員】 学生食堂について感じて いることはどれですか。 (複数回答可)	1. メニューが少ない 2. 昼食時の混雑がひどい 3. 値段が高い 4. 開店時間が短い 5. 場所が不便 6. 特にな 7. その他

F. 学生生活上の問題点

43 *	【全員】 あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 勉強や研究</td> <td style="width: 50%;">2. サークル活動</td> </tr> <tr> <td>3. 趣味・娯楽</td> <td>4. 豊かな人間関係を結ぶこと</td> </tr> <tr> <td>5. 将来を考えた資格等の取得</td> <td>6. アルバイト</td> </tr> <tr> <td>7. 特に重点もなく程々に</td> <td>8. ただ何となく</td> </tr> <tr> <td>9. その他</td> <td></td> </tr> </table>	1. 勉強や研究	2. サークル活動	3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと	5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト	7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく	9. その他	
1. 勉強や研究	2. サークル活動											
3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと											
5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト											
7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく											
9. その他												
44 *	【全員】 あなたは、クーリング・オフの制度について知っていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. はい</td> <td style="width: 50%;">2. いいえ</td> </tr> </table> <p>※クーリング・オフとは 普通、一度成立した契約は一方的に解消できないが、分割払いの割賦販売、セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ、つい不要なものの購入契約をした消費者が、一定の期間(通常8日間)内なら違約金無しに契約の解除(契約申し込みの解除)ができるという制度。</p>	1. はい	2. いいえ								
1. はい	2. いいえ											
45 *	【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 受けたことはない</td> <td style="width: 50%;">2. 悪徳商法に引っかかった</td> </tr> <tr> <td>3. いたずら電話を受けた</td> <td>4. ストーカーにあった</td> </tr> <tr> <td>5. 大学内でセクハラを受けた</td> <td>6. 大学内でアカハラを受けた</td> </tr> <tr> <td>7. その他</td> <td></td> </tr> </table> <p>(※「2」～「7」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記述欄に具体的内容を書いてください)</p> <p>※アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは 大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。</p>	1. 受けたことはない	2. 悪徳商法に引っかかった	3. いたずら電話を受けた	4. ストーカーにあった	5. 大学内でセクハラを受けた	6. 大学内でアカハラを受けた	7. その他			
1. 受けたことはない	2. 悪徳商法に引っかかった											
3. いたずら電話を受けた	4. ストーカーにあった											
5. 大学内でセクハラを受けた	6. 大学内でアカハラを受けた											
7. その他												
46 *	【問45で「5」又は「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 友人</td> <td style="width: 50%;">2. 家族</td> </tr> <tr> <td>3. 教員</td> <td>4. 学生相談室</td> </tr> <tr> <td>5. 学務(教務)係</td> <td>6. その他</td> </tr> <tr> <td>7. 誰にもしない</td> <td></td> </tr> </table>	1. 友人	2. 家族	3. 教員	4. 学生相談室	5. 学務(教務)係	6. その他	7. 誰にもしない			
1. 友人	2. 家族											
3. 教員	4. 学生相談室											
5. 学務(教務)係	6. その他											
7. 誰にもしない												
47 *	【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 利用したことがある</td> <td style="width: 33%;">2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない</td> <td style="width: 33%;">3. 学生相談室があるのを知らない</td> </tr> </table>	1. 利用したことがある	2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない	3. 学生相談室があるのを知らない							
1. 利用したことがある	2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない	3. 学生相談室があるのを知らない										
48 *	【全員】 あなたは、今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">1. 全くない</td> <td style="width: 20%;">2. 1回はある</td> <td style="width: 20%;">3. 2～3回程度したことがある</td> <td style="width: 20%;">4. 4～6回程度したことがある</td> <td style="width: 20%;">5. 7回以上したことがある</td> </tr> </table>	1. 全くない	2. 1回はある	3. 2～3回程度したことがある	4. 4～6回程度したことがある	5. 7回以上したことがある					
1. 全くない	2. 1回はある	3. 2～3回程度したことがある	4. 4～6回程度したことがある	5. 7回以上したことがある								
49 *	【全員】 あなたには、親しい教職員や親しい友人はいますか。(複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 親しい教職員がいる</td> <td style="width: 33%;">2. 親しい友人がいる</td> <td style="width: 33%;">3. 親しい教職員も親しい友人もない</td> </tr> </table>	1. 親しい教職員がいる	2. 親しい友人がいる	3. 親しい教職員も親しい友人もない							
1. 親しい教職員がいる	2. 親しい友人がいる	3. 親しい教職員も親しい友人もない										
50 *	【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 満足している</td> <td style="width: 50%;">2. ほぼ満足している</td> </tr> <tr> <td>3. どちらともいえない</td> <td>4. やや不満足である</td> </tr> <tr> <td>5. 不満足である</td> <td></td> </tr> </table>	1. 満足している	2. ほぼ満足している	3. どちらともいえない	4. やや不満足である	5. 不満足である					
1. 満足している	2. ほぼ満足している											
3. どちらともいえない	4. やや不満足である											
5. 不満足である												

51 *	【全員】 あなたは、入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 〈複数回答可〉	1. 被害に遭ったことはない 2. 盗難（盗み） 3. 強盗 4. 傷害 5. 痴漢 6. その他
52 *	【問51で「2」～「6」を選んだ方】 あなたは、どこで被害に遭いましたか。 〈複数回答可〉	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. 路上 4. その他

G. 修学状況について

53 *	【全員】 あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
54 *	【全員】 あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. やや満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
55 *	【全員】 これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
56 *	【全員】 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかったりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
57 *	【問56で「3」～「5」を選んだ方】 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 〈複数回答可〉	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他

58 *	【問57で「3」を選んだ方】 あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 (複数回答可)	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
59 *	【全員】 あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. やや満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
60 *	【問59で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 (複数回答可)	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
61 *	【全員】 あなたは、1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。 ただし、試験期間中は除いて下さい。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上
62 *	【全員】 あなたは、カンニングをしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
63 *	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
64 *	【問63で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
65 *	【全員】 図書館を利用していますか。	1. 毎日 2. 週2, 3回程度 3. 週1回程度 4. 月2, 3回程度 5. 月1回程度 6. 利用しない 7. その他

66 *	【全員】 図書館について感じていることはどれですか。 (複数回答可)	1. 蔵書の種類や数に満足 3. 図書館案内が充実している 5. 開館時間が短い 7. 特になし	2. 貸し出し・返却が容易 4. 図書館員にたずねやすい 6. 資料のコピーがとりやすい 8. その他
---------	--	---	--

H. 課外活動について

67 *	【全員】 学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系及び体育系サークルの両方に加入している人は、主として活動している方に回答してください）	1. 学内の文化系サークルに加入している 2. 学内の体育系サークルに加入している 3. 学外の文化系サークルに加入している 4. 学外の体育系サークルに加入している 5. 以前加入していたが現在は加入していない 6. 加入したことがない
68 *	【問67で「1」～「4」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	1. かなり熱心に活動している 2. まあまあ熱心に活動している 3. どちらともいえない 4. あまり活動していない 5. ほとんど活動していない 6. その他
69 *	【問67で「1」～「4」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	1. サークルの活動内容に魅力があったから 2. 集団活動に魅力があったから 3. 友人を得るため 4. 先輩・友人に勧められたから 5. 学生生活を豊かにするため 6. 健康増進のため 7. 自分の特技を伸ばすため 8. 自分の短所を補うため 9. その他
70 *	【問67で「5」、「6」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	1. 学業の妨げとなる 2. 練習がいやである 3. 活動するための体力・能力に自信がない 4. 個人の自由が束縛される恐れがある 5. 集団生活についていけない 6. アルバイトをしているので時間的余裕がない 7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8. 個人の金銭的負担が多すぎる 9. 魅力的なサークルがない 10. 特に理由はないが何となく
71 *	【全員】 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。	1. 必要だと考えており積極的に参加している 2. 必要だと思うがあまり参加していない 3. どちらでもいい 4. なくてもいい

72 *	【全員】 あなたは今年の大学祭に参加しますか。	1. はい 2. いいえ
73 *	【全員】 あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	1. 個人でしたことがある 2. 団体（組織）に入っていたことがある 3. ない

1. 進路・就職について

74 *	【全員】 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 指導教員 3. 先輩・知人 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 7. 大学内資料 9. 就職支援室情報	2. 就職担当教員 4. 直接会社に照会 6. 家族等 8. インターネット 10. その他
75	【全員】 就職希望ですか。進学希望ですか。	1. 就職 2. 進学 3. その他	
76 *	【問75で「1」を選んだ方】 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1. 収入 2. 就職先の将来性・安定性 3. 就職先の社会的評価 4. 能力を発揮できること 5. 勤務地の地理的条件 6. 研究評価をしてもらえるところ 7. 先端技術を駆使しているところ 8. 人間関係の良いこと 9. その他	
77 *	【問75で「1」を選んだ方】 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 大学・官公庁の教育・研究職 3. 技術職 5. 総合職・営業職 7. 教育職 9. マスコミ関係	2. 1以外の公務員 4. 企業等の研究職 6. 事務職 8. 専門職(医師・看護師等) 10. その他
78 *	【全員】 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1. 参加する 2. 時間があれば参加する 3. 参加しない	
79 *	【全員】 本学の就職支援室を利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない	
80 *	【学部卒業予定者のうち、就職希望者の方】 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1. 就職担当教員 3. 新聞・就職情報誌 5. ダイレクトメール 7. 会社等説明会 9. 親・親戚	2. 就職支援室の情報・就職の手引き 4. インターネット 6. 直接会社等に照会 8. 先輩・知人 10. その他

ご協力ありがとうございました

第1章 家族・住居，通学について

1-1 家庭の年間収入 (図1-1)

前回より，授業料免除や奨学金貸与の参考資料とするために，年収の低いグループ（年収500万円未満のグループ）について細かく分析しており，今回も前回同様250万円未満と250～500万円未満と細かい項目に分けて調査を行った。

家庭の年間収入について，大学全体では250万円未満（11%），250～500万円（21%）と500～750万円（28%）までで60%を占め，次いで750～1000万円（19%），1000～1500万円（10%），1500万円以上（4%）である。前回の調査時に比べて，750万円以上はほとんど変化していないが，750万円未満が2%増加している。これらのことは，予想した程の変化ではないが，この数年間の日本全体の景気が依然として厳しい状況であることを反映したものと考えられる。

なお，この設問においては，学生が家庭の年収をどの程度まで正確に把握しているかという問題点もあることを念頭に置いておく必要があるが，大まかにはその分布が反映されていると思われる。

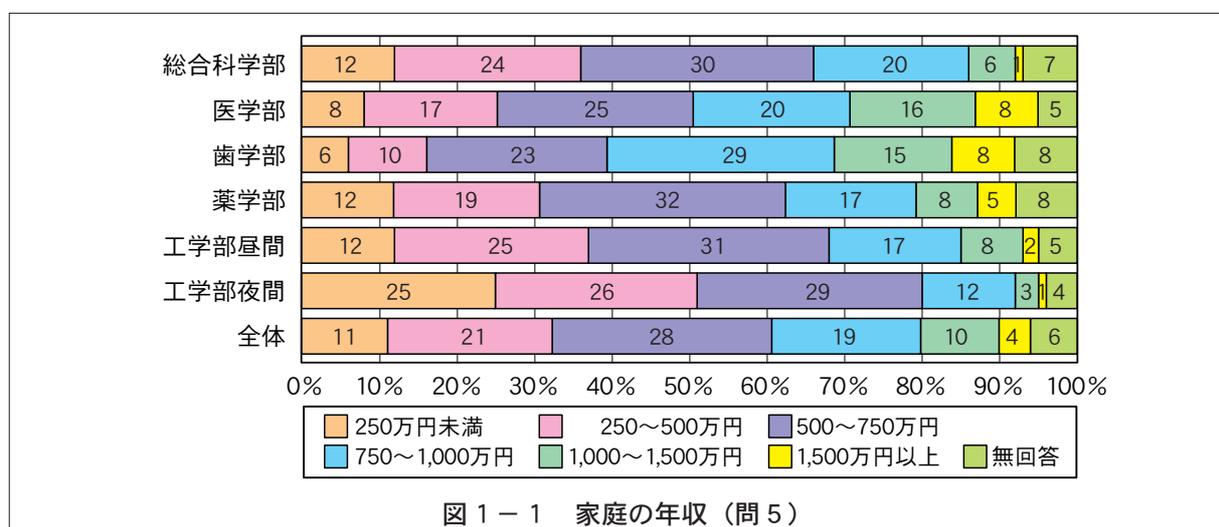


図1-1 家庭の年収 (問5)

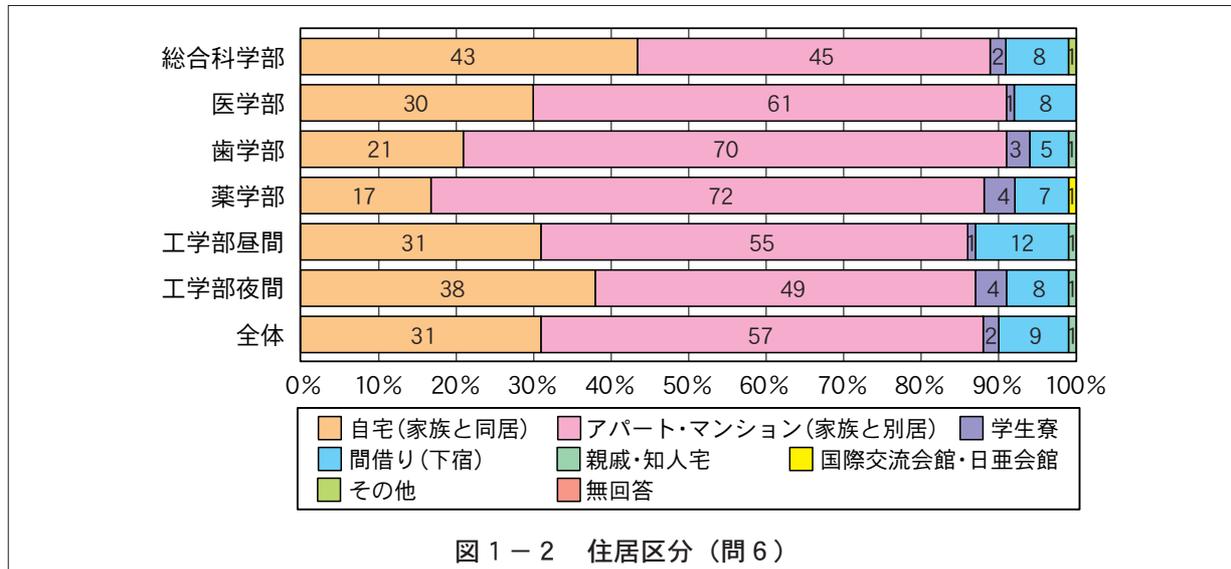
学部別に見ると，歯学部は高収入であるが，それでも年収250万円未満の学生が6%，年収250～500万円の学生が10%ある。さらに，工学部夜間では年収250万円未満がほぼ25%と前回に比べ8%増加しており，年収500万円未満で全体の51%を占める。これらは前回の調査よりやや悪化している。年収250万円未満の学生は11%，実数で355名で，年収250～500万円の21%，実数672人と併せて実に1027人になる。次の2章で出てくる「経済状況」において「大変苦しい」と答えている学生の多くは，年収500万円未満のグループに属すると考えられる。授業料免除や奨学金貸与を受けることができたのかなど，他の項目とも関連させて，この実態調査を検討していく必要がある。

1-2 住居区分 (図1-2)

全体では，最も多いのがアパートとマンション（57%），次いで自宅（31%）となっている。学生寮に住んでいるのは2%である。間借り（下宿）は9%，親戚・知人宅は1%ほどである。前回調査結果と比べると，自宅の比率が若干増加しており，それに反してアパートとマンションの居住者の比率が減っている。

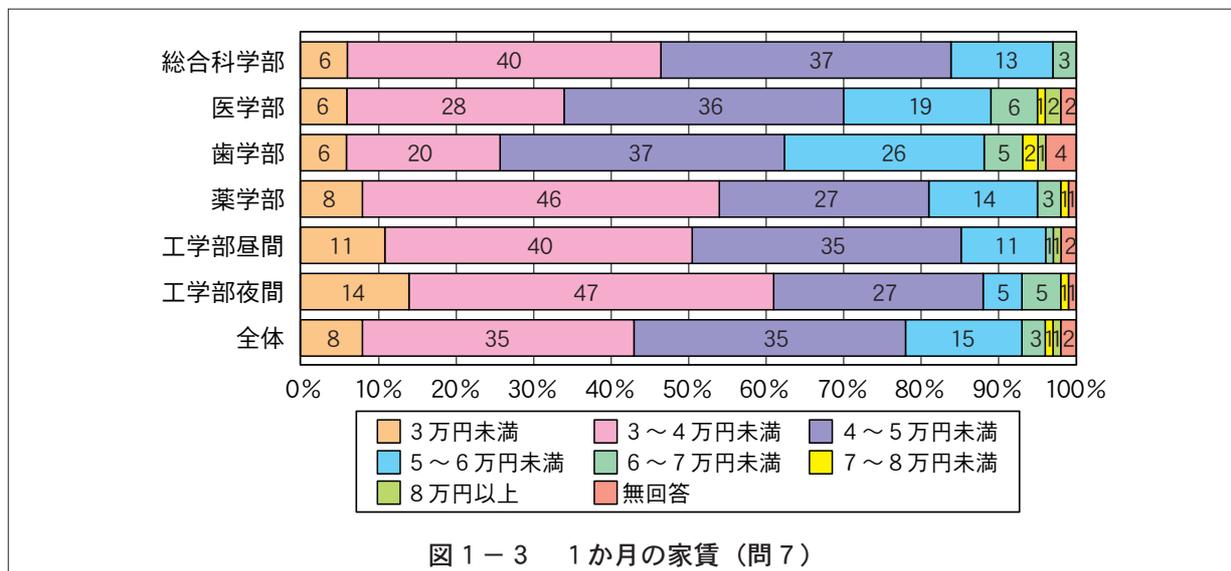
学部別に見ると，前回の調査と比べて，自宅の比率はどの学部に於いても微増の傾向にあるが，その中で特に工学部夜間は32%から38%と6ポイントの増加になっている。これは工学部夜間では家庭の

年収250万円未満が前回に比べ8ポイント増加したことにも関係すると考えられなくもない。総合科学部生も自宅の割合は43%であり、かなり高いが、年収との因果関係はそれほど認められない。また、アパートとマンションの比率が歯学部生で70%、薬学部生で72%と著しく高く、医学部でも61%と高い。これは前回の傾向と同じであり、他県から入学する学生が多いからであると考えられる。



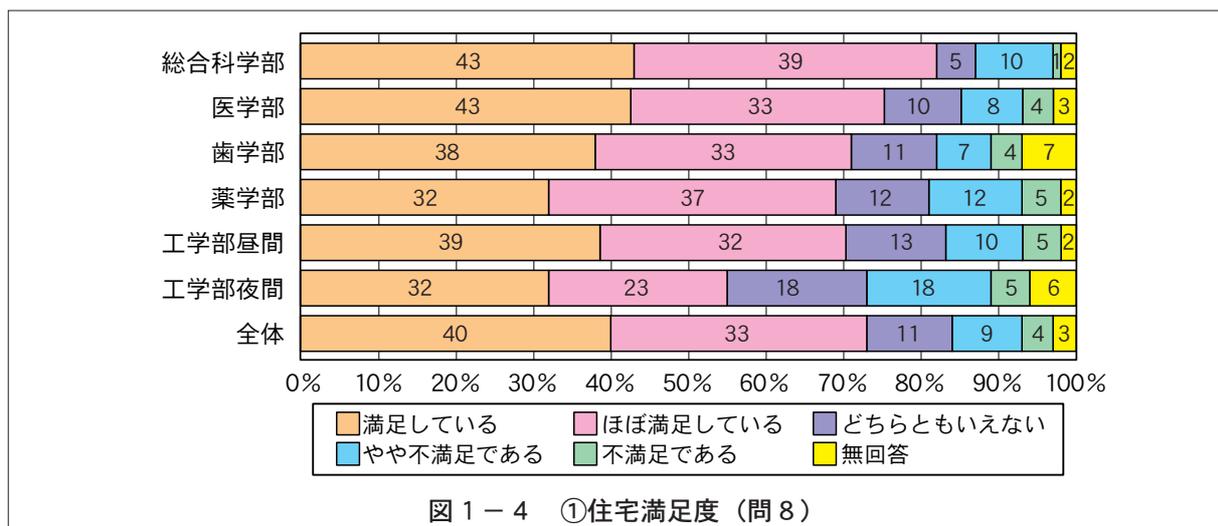
1-3 1か月の家賃 (電気代, ガス代の諸経費を除く) (図 1-3)

3~4万円未満が35%, 4~5万円未満が35%と両者で7割を占めている。3万未満の学生が8%である。グラフを見ると年収との因果関係があるようにも考えられる。

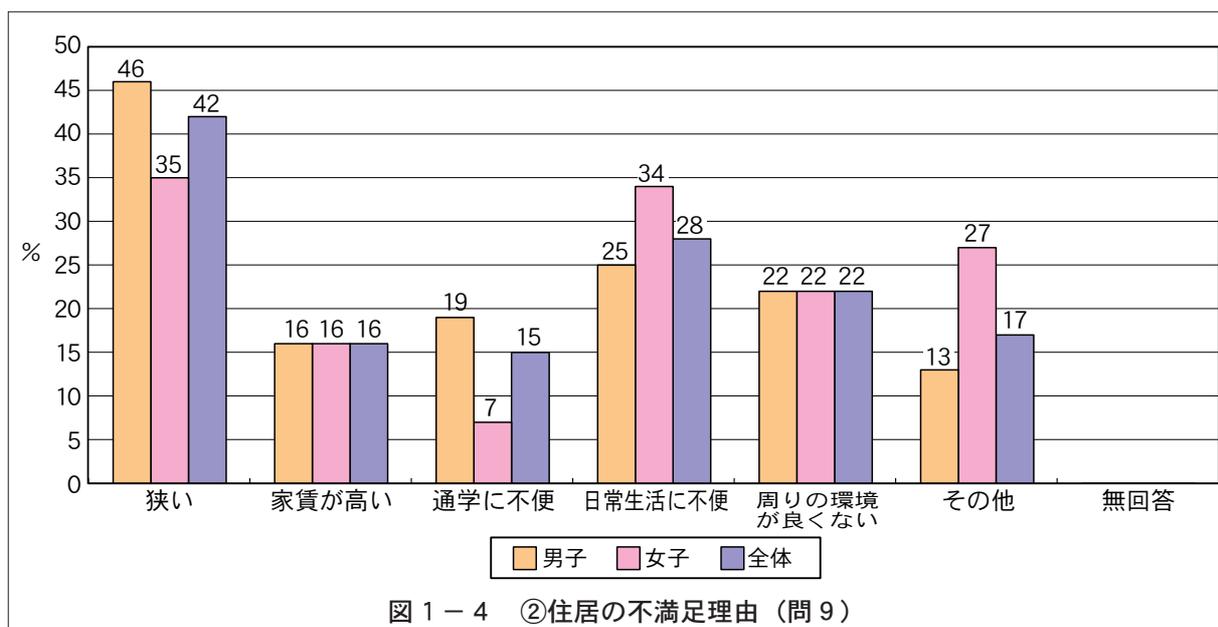


1-4 住居満足度 (図 1-4 ①, 図 1-4 ②)

自宅や学生寮等以外のアパート等に住んでいる自宅外通学者に対する住宅満足度では、「満足している」が40%あり、やや満足しているが33%で両者あわせると73%である。残りの27%のうち、「どちらともいえない」が11%なので、無回答の3%を除くと何らかの理由で不満を持ち我慢している学生は全体13%といえる。



「やや不満足」と「不満足」と答えた学生の理由として、全体で最も多いのは「狭い (42%)」、続いて「日常生活に不便 (28%)」、「周りの環境が良くない (22%)」、「家賃が高い (16%)」、「通学に不便 (15%)」となっている。これは前回と同様、男女の間でもほぼ同じ傾向である。学生支援の一環として、これらの不満足理由を少しでも解消するため、この調査結果を徳大生協にも提供し、学生への住宅紹介・斡旋の参考としてもらうようにすれば、少しは学生の不満解消に役立てられるのではと考える。

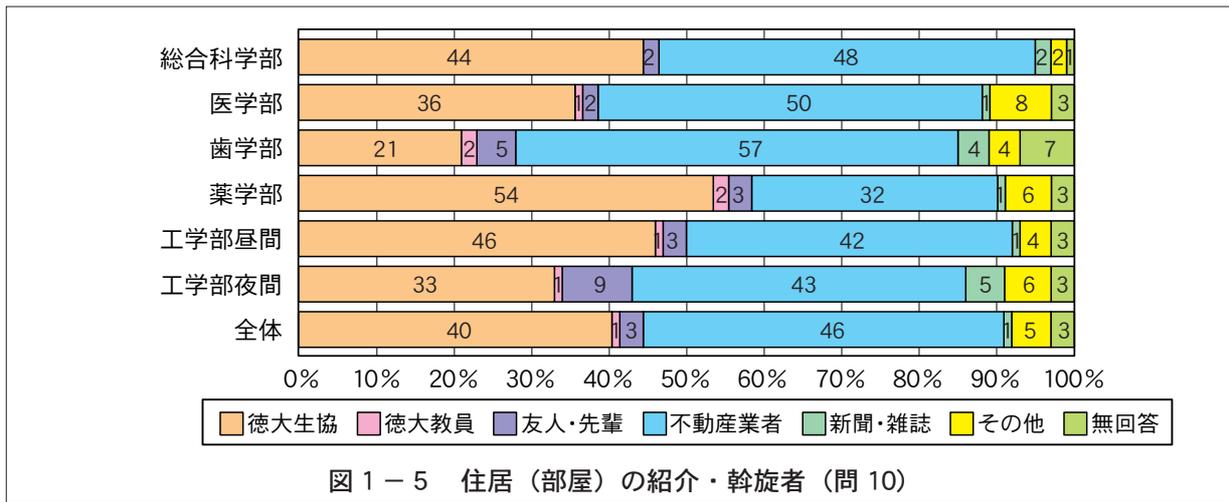


(※問 9 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

1-5 住居 (部屋) の紹介・斡旋者 (図 1-5)

学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋者としては、不動産業者 46%と徳大生協 40%で全体の 86%で、前々回、前回の調査時より若干減少気味である。不動産業者が徳大生協をやや上回っている点も前々回、前回と同じである。

学部別では医学部、歯学部で不動産業者による斡旋の比率が高い (それぞれ 50%と 57%)。特に歯学部は前回より 7 ポイントも上昇している。これは、徳大生協が斡旋できる住宅が蔵本地区に少ないことと関係しているのかもしれないが、薬学部では逆に徳大生協の斡旋が 54%と高く、この傾向は前回と同様である。家庭の年収との関連もあるのかもしれない。

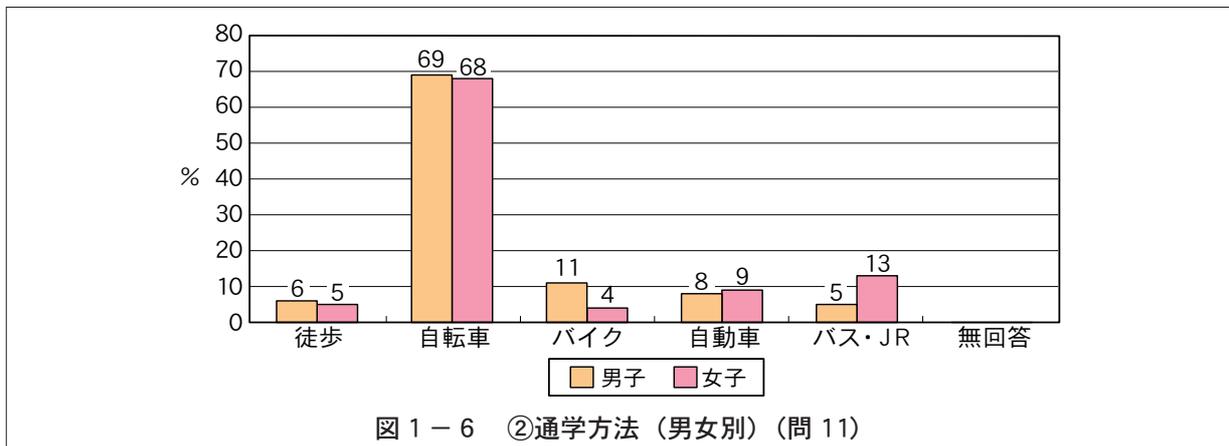
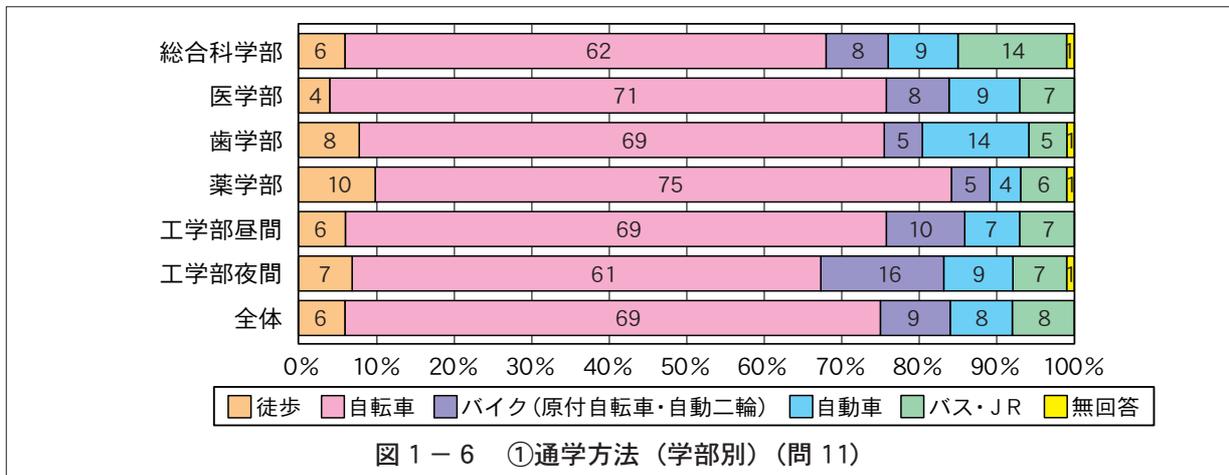


1-6 通学方法 (図 1-6①, 図 1-6②)

自転車通学が69%で最も多い。次いで、バイクが9%、自動車が8%、JR、バスなどの公共交通機関を利用する者が8%、徒歩6%である。

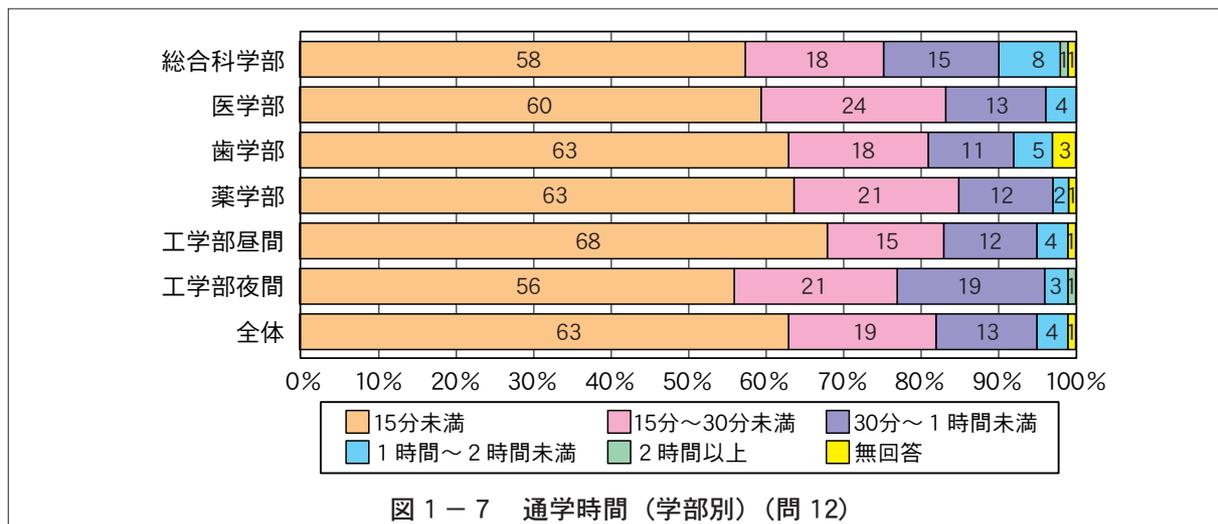
男女とも自転車通学が最多だが、男子ではバイク、自動車、徒歩と続くが、女子はJR、バスなどの公共交通機関、自動車、徒歩の順である。前々回、前回の調査時と同様、自転車通学の割合が高く、アパート等を大学の近くに借りている学生や徳島市内に自宅がある学生が多いことが考えられる。

自転車通学の学生が、常三島、蔵本両キャンパスとも7割前後を占めることから、両キャンパスにおける駐輪場の確保が重要であると考えられる。



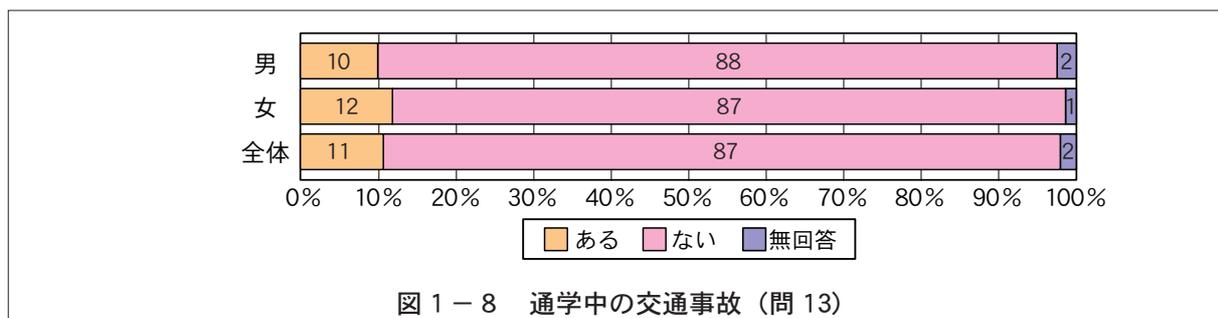
1-7 通学時間 (図1-7)

通学時間15分未満が63%と最も多く、15分～30分未満をあわせると82%とほとんどの学生は通学時間が30分未満と短い。これは男女問わず同じ傾向である。これもやはり、大学近くにアパートを借りている学生や自宅が徳島市内にある学生が多いためと考えられる。



1-8 通学中の交通事故 (図1-8)

通学中の交通事故について調べると、短い通学時間ではあるが、通学中に交通事故を起こしたり被害に遭った学生が11%にも上る。交通事故には相手があり、避けられないケースもあると思われるが、学生に雨天時の自転車の傘さし運転や夜間の無灯火運転をやめさせるなどの安全に対する自覚を促すことが必要と思われる。



第2章 収入・支出について

2-1 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(図2-1)

全体では、自宅外通学者の1か月の平均収入（保護者等からの援助を含む）の最も多い区分は10～15万円未満の26%で、続いて7～10万円未満の25%、5～7万円未満の20%となり、この3つの区分（5～15万円未満）で71%を占めている。また、5万円以下の区分は23%、15万円以上の区分は7%である。前回の調査結果では、自宅通学者も含めた全員の1か月の平均収入額であるが、5～15万円未満の区分が60%、5万円以下の区分が33%、15万円以上の区分が6%であった。今回の調査では、自宅外通学者のみを対象にしたので、前回の調査と比較して1か月の収入額が増加している。

学部別では、医学部と歯学部で、10万円以上の区分の割合が合計で40%を超えて他の学部の学生より平均収入が多くなっている。また、工学部（昼間と夜間）で5万円以下の割合が20%を超えて平均収入がやや少なくなっている。

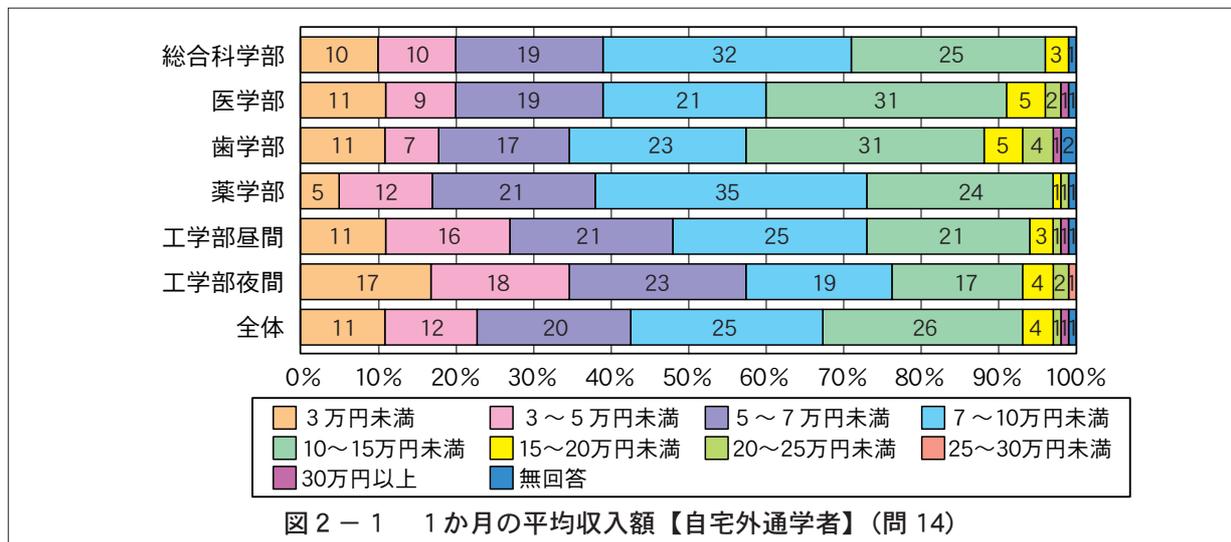


図2-1 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(問14)

2-2 保護者等からの援助額【自宅外通学者】(図2-2)

今回の調査では自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、保護者からの援助額で最も多い

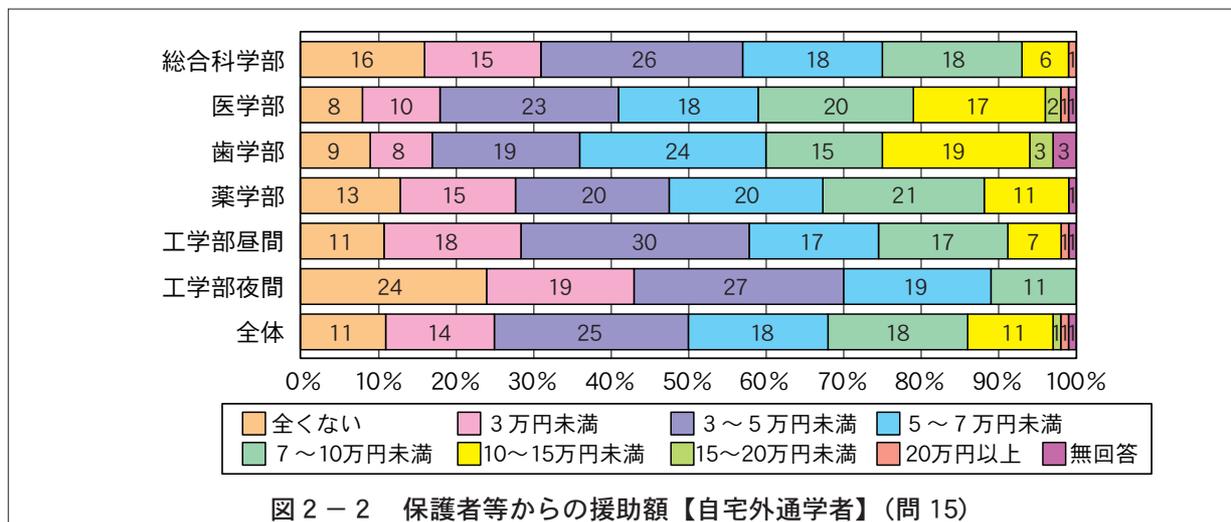


図2-2 保護者等からの援助額【自宅外通学者】(問15)

区分は3～5万円未満の25%である。続いて5～7万円未満の18%と7～10万円未満の18%になっている。また、「援助が全くない」学生が11%おり、10万円以上援助を受けている学生は約13%いる。

学部別では、7万円以上保護者から援助を受けている学生が、医学部と歯学部では40%を超えている。工学部の夜間では、3万円未満の区分が19%で、「全く援助を受けていない」の24%と合わせると3万円以下の援助を受けている学生が40%を超えている。これは、仕事やアルバイトなどにより収入がある学生が多いためと思われる。

2-3 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-3)

この項目でも自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、1か月の平均支出額（授業料支出は除く）で最も多い区分は3～5万円未満の26%で、続いて5～7万円未満の25%、7～10万円未満の24%になっている。これらの3つの区分を合わせた場合（3～10万円未満）では75%になる。また、10万円以上の区分が13%で、3万円以下の区分が9%となっている。

学部別では、医学部、歯学部、薬学部で、1か月に7万円以上支出している学生が40%を超えているが、総合科学部と工学部（昼間と夜間）では30～35%で、やや割合が少なくなっている。また、自宅外通学者で3万円未満の平均支出額の学生が、学部によって異なるが6～13%おり、このことから学生の約1割は、支出を切り詰めていることが分かる。これらの学生への援助が必要と思われる。

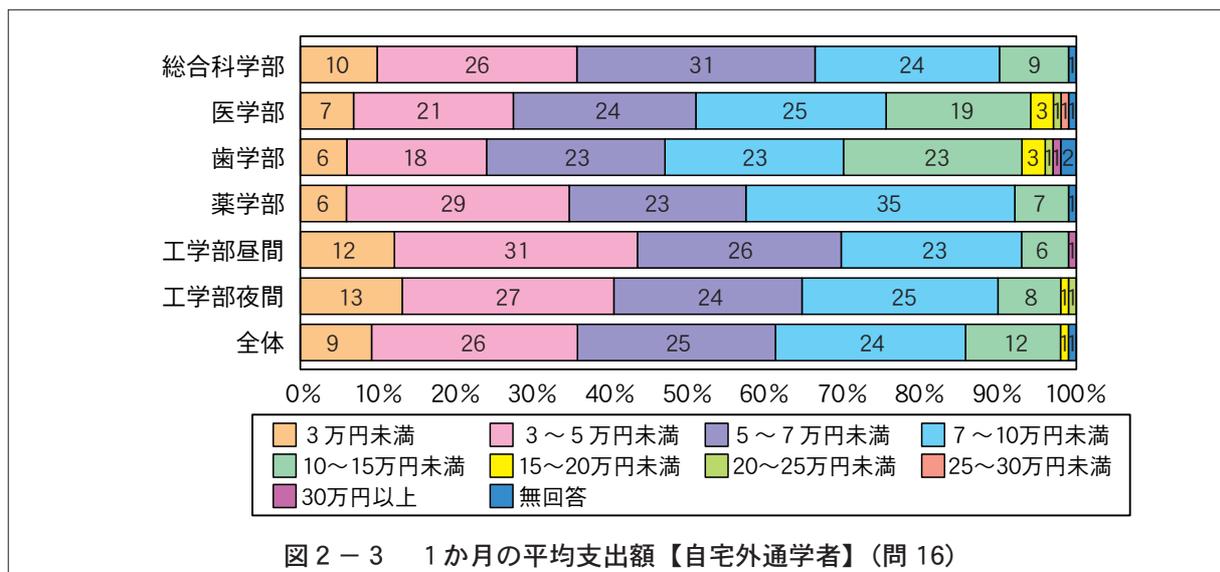


図2-3 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(問16)

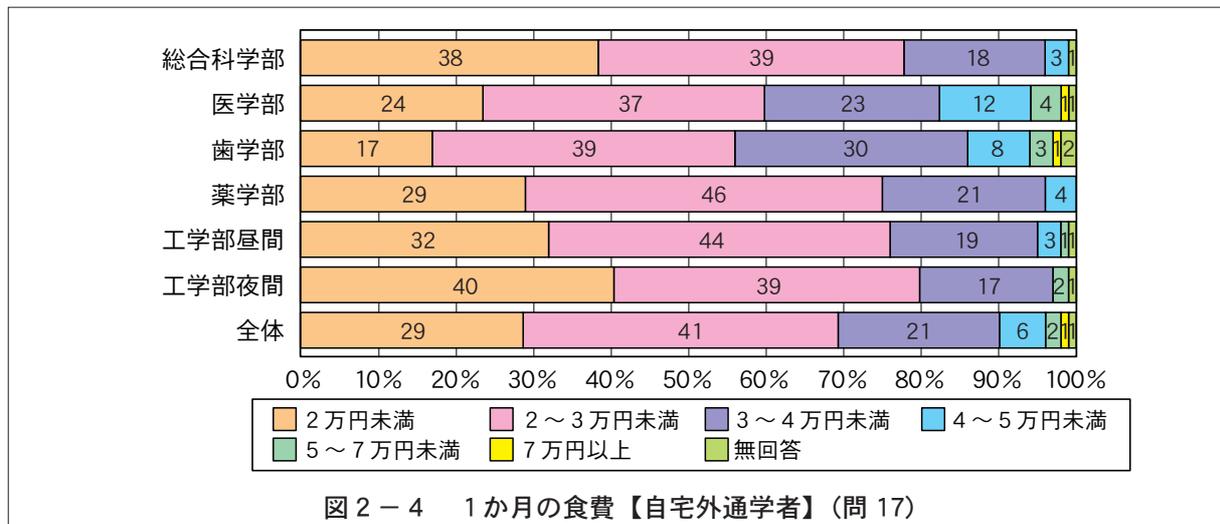
2-4 1か月の平均の食費【自宅外通学者】(図2-4)

次に、1か月の平均の食費についてであるが、この項目も自宅外通学者を対象にしている。大学全体では、2～3万円未満の区分が41%で最も多く、2万円未満が29%、3～4万円未満が21%と続いている。これらの3つの区分を合わせると、4万円未満の区分となり約90%になる。また、逆に3万円以上の区分を合計すると約30%になる。

前回の調査では、全員（自宅通学者を含める）を対象としたので、今回の自宅外通学者のみの場合と比較が難しいが、前回の調査では2万円未満が39%で最も多く、2～3万円未満が36%、3～4万円未満が18%、4～5万円未満が5%であった。

学部別では、医学部と歯学部では3万円以上が合計で40%以上になっており、他学部と比較すると食費を多く支出していることが分かる。

最近は、朝食をとらない学生が増えてきており、また、栄養食品に頼る学生も増加している。健康な学生生活を過ごすためには、食事をきちんととることが必要であり、食費の変化は今後とも注意していく必要がある。

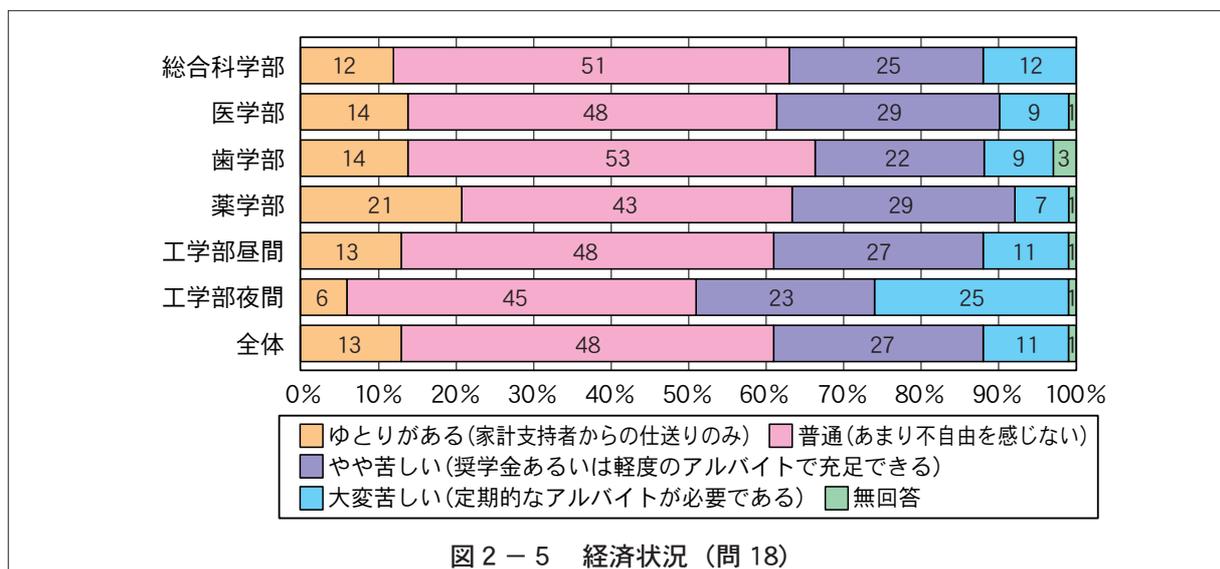


2-5 経済状況 (図 2-5)

次に、現在の経済状況についてであるが、この項目からは自宅通学者も含めて全員が回答している。大学全体では、「普通 (あまり不自由を感じない)」の区分が最も多く 48% となった。続いて、「やや苦しい」の区分が 27%、「ゆとりがある (家計支持者からの仕送りのみ)」が 13% となっている。また、「大変苦しい (定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が 11% おり、経済的に困っている学生が約 1 割いることが分かる。これは、2-3 の 1 か月の平均支出額の設問で、支出を切り詰めている学生の割合 (約 1 割) と一致する。

前回の調査では、全体で「普通 (あまり不自由を感じない)」の区分が 50%、「やや苦しい」の区分が 27%、「ゆとりがある (家計支持者からの仕送りのみ)」が 14%、「大変苦しい (定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が 9% で、今回の調査とほぼ同じ割合であった。

学部別では、薬学部で「ゆとりがある」と回答した学生が 21% でやや多く、また、工学部夜間で「大変苦しい」と回答した学生が 25% で多い。



2-6 奨学金 (図2-6)

大学全体では、「現在受給中であり、受給の継続を希望する」が38%あり、「現在受給中であるが、更に増額を希望する」3%と「現在受給していないが、新たに受給を希望する」9%を加えると、合計で50%になり、2人に1人は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では、工学部（昼間と夜間）で、他学部と比べて希望者がやや多くなっており、歯学部ではやや少なくなっている。

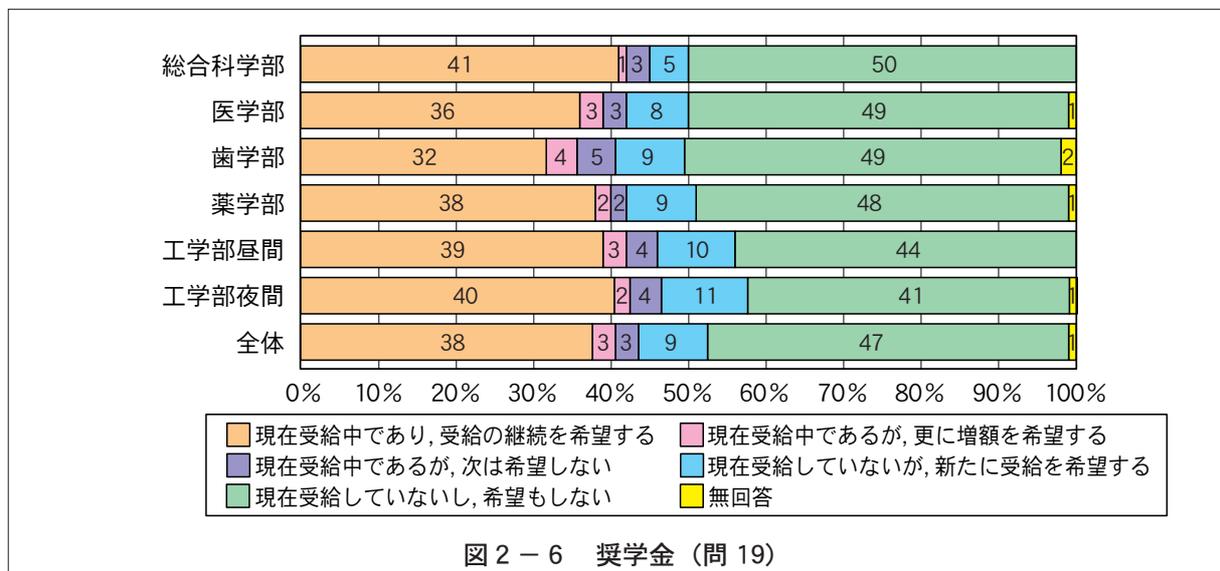


図2-6 奨学金 (問19)

2-7 1週間のアルバイト従事日数 (図2-7)

アルバイトの1週間の平均従事日数についてであるが、大学全体では、アルバイトをしていない学生の割合は44%で、アルバイトをしている学生の割合は、3日している割合が17%、2日している割合が16%、1日している割合が10%、4日している割合が7%で、5日以上が4%となった。アルバイトをしている学生の割合は合計で約54%になり、半数以上の学生がアルバイトをしていることが分かる。

前回の調査では、アルバイトをしていない学生の割合は41%、アルバイトをしている学生の割合は57%であった。今回の調査では、アルバイトをしていない学生の割合が少し増えている。

学部別では、アルバイトをしていない学生の割合が、薬学部で62%とかなり多く、工学部夜間と総合科学部では40%以下でやや少なくなっている。

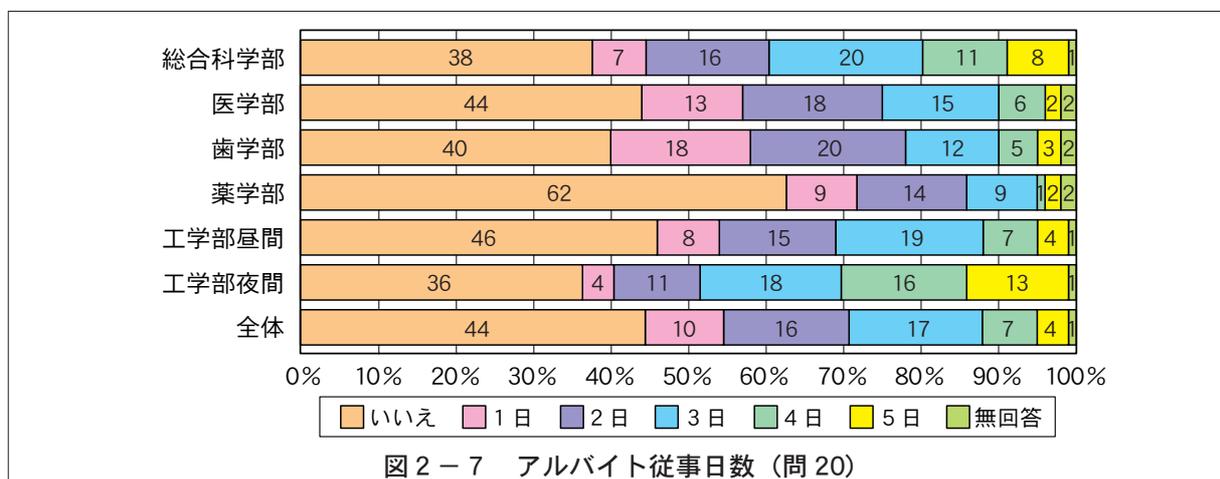


図2-7 アルバイト従事日数 (問20)

2-8 1週間のアルバイト従事時間数 (図2-8)

問20で、アルバイトをしていると回答した学生の1週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）についてであるが、大学全体では、5～10時間未満の割合が28%で最も多く、次いで5時間未満24%、10～15時間未満19%、15～20時間未満15%、20～25時間未満8%、25時間以上5%となった。1週間に5時間以上している割合を合計すると75%になり、アルバイトをしている学生の4人に3人が、平均して一日当たり1時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

学部別では、工学部夜間で25時間以上が19%と多くなっているが、このコースの性格によるものと思われる。薬学部では、5時間未満が48%あり、他学部と比較してアルバイトをしている時間数が少なくなっている。

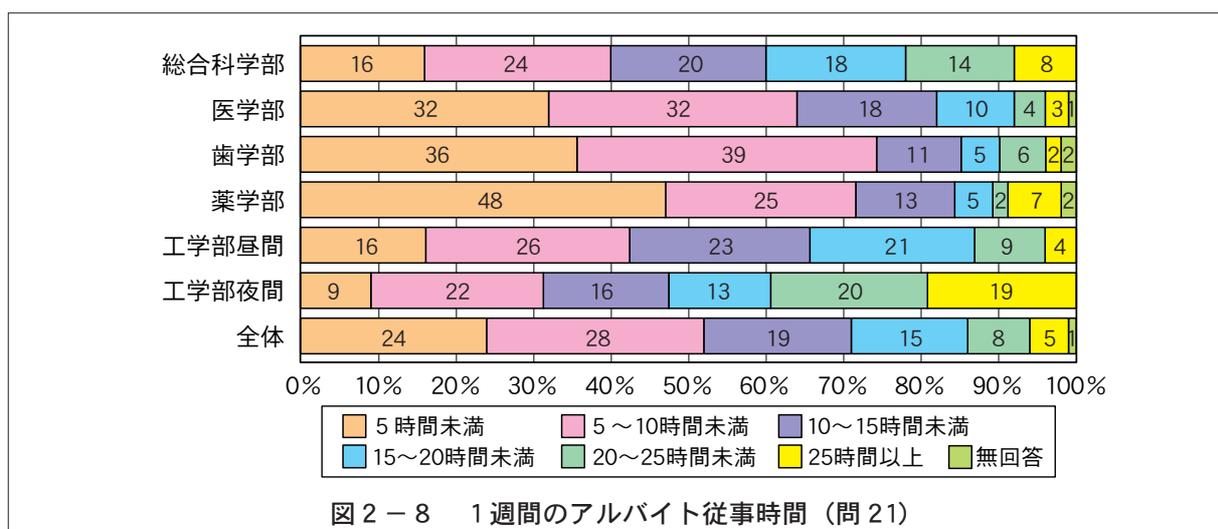


図2-8 1週間のアルバイト従事時間 (問21)

2-9 アルバイトと勉学 (図2-9)

アルバイトによって勉学に支障が生じているかを設問した結果である。大学全体では、「支障は生じていない」と答えた学生が77%で、「支障が生じている」と答えた学生は18%であった。

前回の調査では、「支障を生じていない」が74%で、「支障が生じている」が22%であった。今回の調査で「支障を生じていない」が3%ほど増えている。

学部別では、工学部夜間で、「支障が生じている」と答えた学生が33%おり、他学部と比較して多くなっている。これはコースの特殊性により、夜間にアルバイトを行うと勉学に支障が出ることが考えられる。

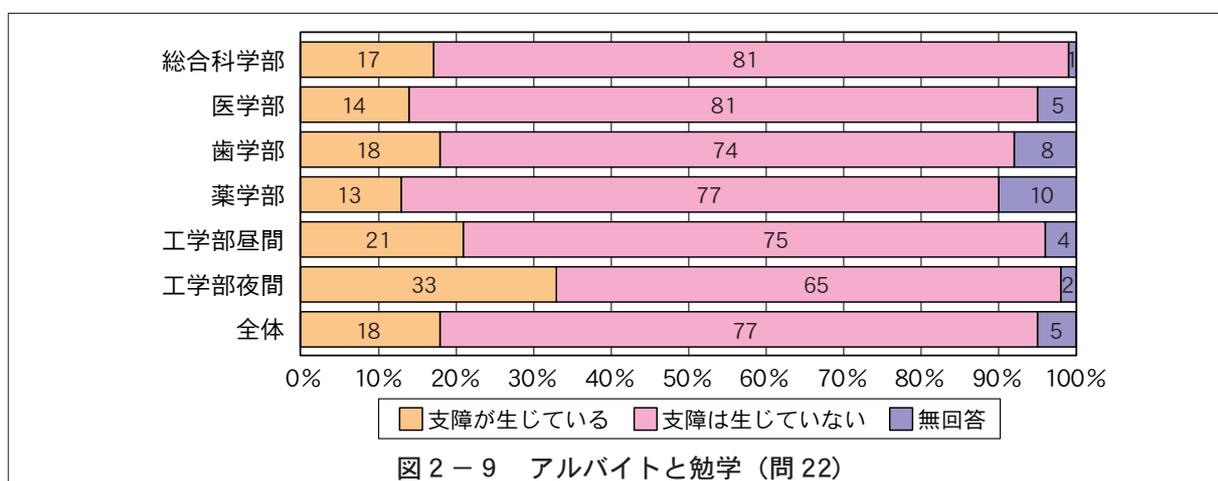


図2-9 アルバイトと勉学 (問22)

2-10 アルバイトの目的 (図2-10)

アルバイトの目的について、複数回答可能で設問をした結果である。男女を合わせた全体では、「日常の娯楽・嗜好品等のため」が30%、「生活費や学資のため」が29%で、この2つの割合を合わせると59%になる。その他は、「レジャー・旅行費のため」が14%、「社会体験のため」が11%などが目的としてあがっている。これらの割合は、前回の調査とほぼ同じである。また、今回の調査で「生活費や学資のため」が全体で29%の割合になっており、2-5の経済状態に関する設問で、「やや苦しい」27%と「大変苦しい」11%を合わせた合計38%の割合と、関連しているものと思われる。

男女の違いでは、女子では「レジャー・旅行費のため」が18%と「社会体験のため」が14%で割合が少し多くなっており、男子では「生活費や学資のため」が34%で割合が少し多くなっている。

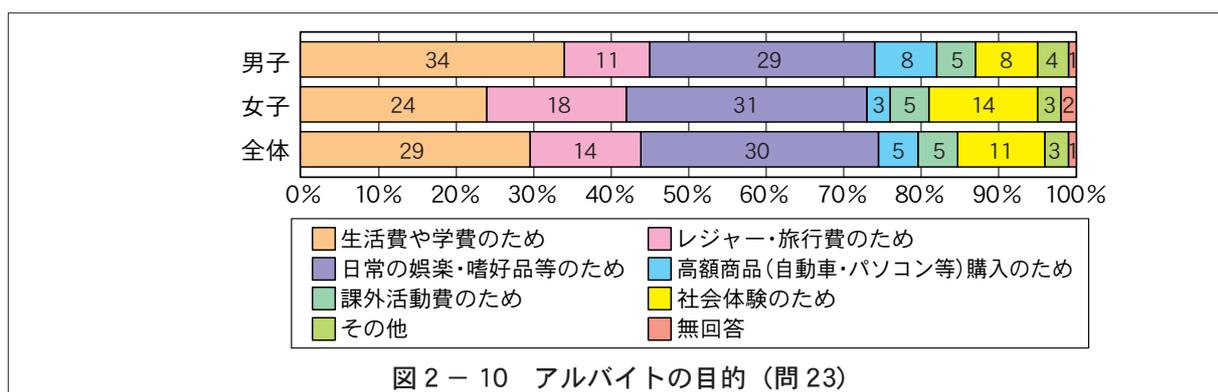


図2-10 アルバイトの目的 (問23)

2-11 アルバイトの種類 (図2-11)

アルバイトの種類としては、全体では「家庭教師・学習塾講師等」が32%で最も多く、続いて「飲食店手伝い」が27%、「受付・接客」が16%となっている。男女別でもほぼ同じ傾向で、この3つのアルバイトで割合が70%を超えている。

前回の調査では、全体で「家庭教師・学習塾講師等」が33%、「飲食店手伝い」が25%、「受付・接客」が17%で、今回の調査は前回の調査とほぼ同じ割合であった。

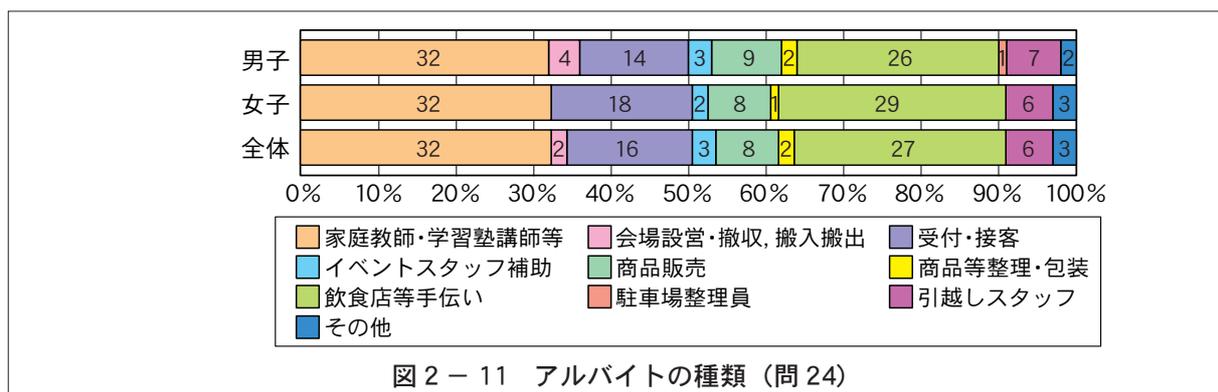


図2-11 アルバイトの種類 (問24)

2-12 アルバイト収入 (図2-12①, 図2-12②)

アルバイトを行っている学生の1ヶ月間の平均収入について、大学全体では、3~5万円未満が34%で最も多く、次いで3万円未満33%、5~7万円未満18%、7~10万円未満9%となっている。10万円以上も3%ほどの割合になっている。

学部別では、工学部夜間でアルバイトをしている学生の約半数が5万円以上の収入を得ており、これはコースの特性によるものと思われる。一方、薬学部では3万円未満が57%で、アルバイトによる収入が少ない。また、3万円未満は医学部が37%、歯学部が47%で、これらの学部でもアルバイトによる収入は少ない。男女間で比較すると、女子は3万円未満で割合が多くなっており、男子は5万円以上の区間で女子に比べて割合が多くなっている。これは、男子は、2-10のアルバイトの目的で「生活費や学費のため」の割合が34%と、女子の24%と比較して多いことに関連して、収入が多いアルバイトをしていることによるものと思われる。

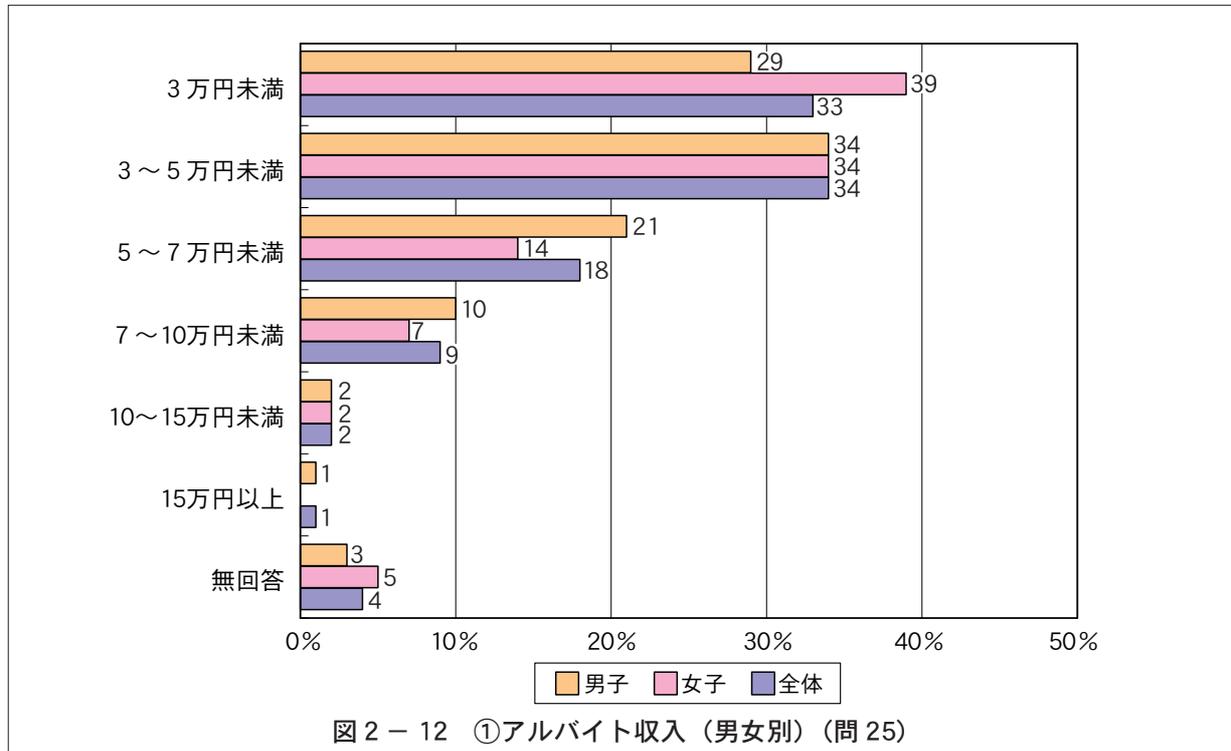


図 2 - 12 ①アルバイト収入 (男女別) (問 25)

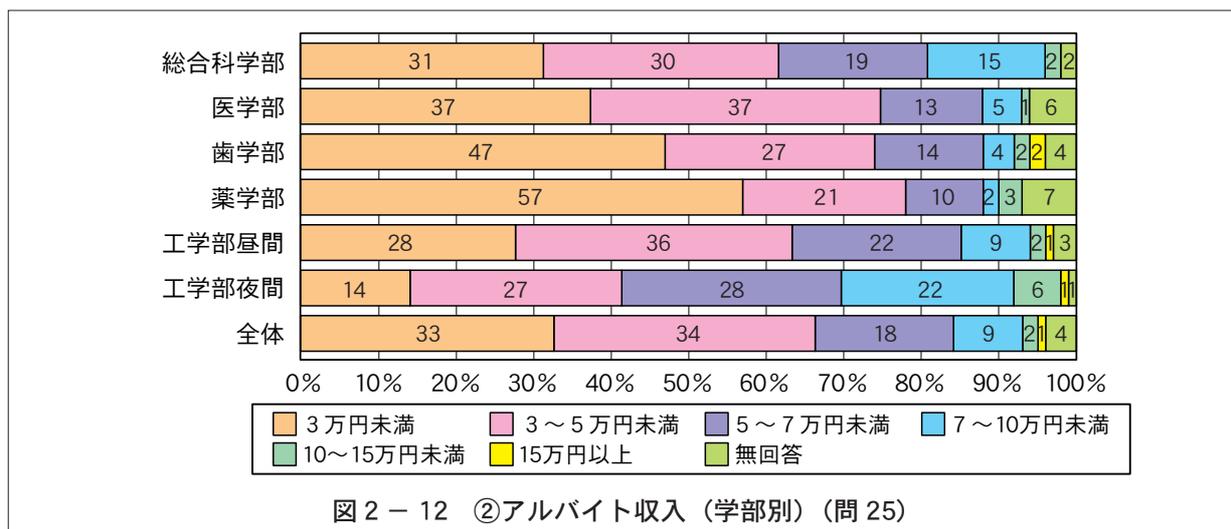


図 2 - 12 ②アルバイト収入 (学部別) (問 25)

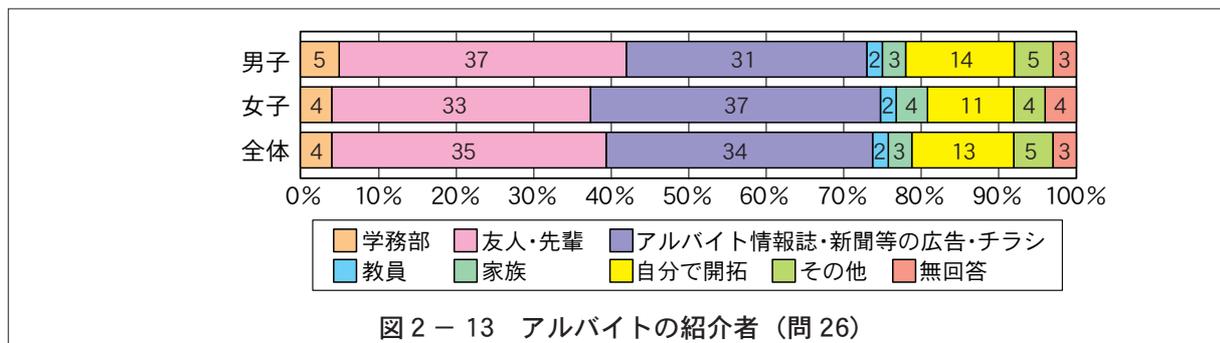
2-13 アルバイトの紹介者 (図 2-13)

アルバイトの紹介者は、大学全体では「友人・先輩」が最も多く35%で、次いで「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」で34%である。「自分で開拓」も13%ある。

前回の調査では、「友人・先輩」が36%、「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」が36%、「自

分で開拓」が10%であった。「学務部」は、前回の調査では8%で、今回の調査が4%となり減少しており、非常に低い割合である。「学務部」の割合は少なくとも20%以上に引き上げることが望ましいと思われる。

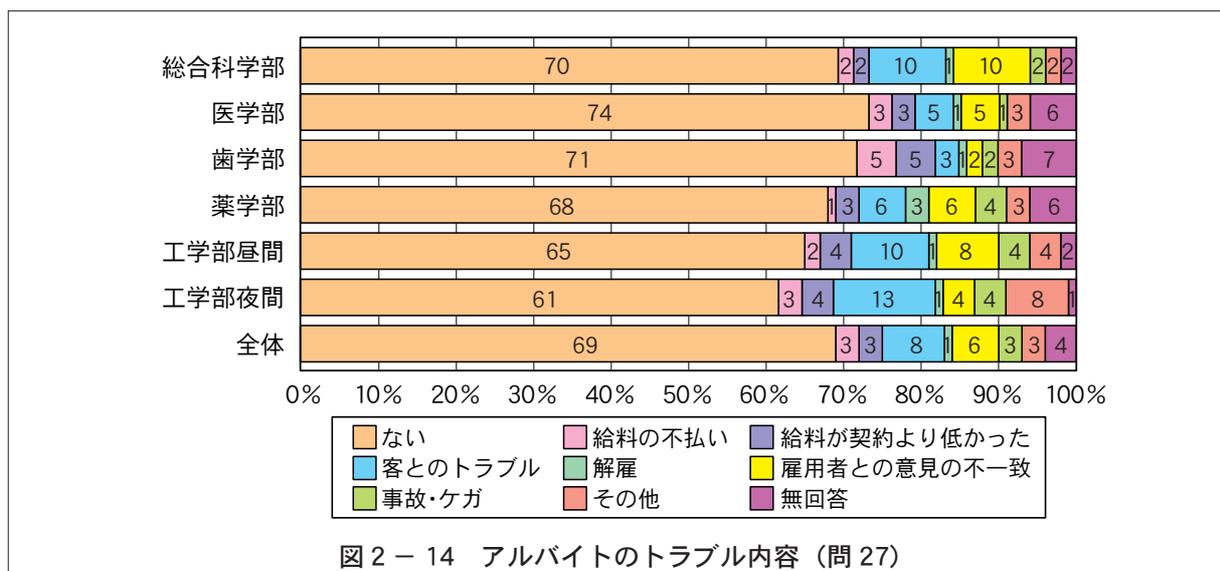
男女間では、男子が「友人・先輩」の割合がやや多くて37%、女子では「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」の割合がやや多く37%になっている。



2-14 アルバイトのトラブル内容 (図 2-14)

アルバイトのトラブル内容については、大学全体で、トラブルは「ない」と回答した割合が69%であった。前回の調査では、トラブルが「ない」と回答した学生の割合が66%であったので、今回の調査はほぼ同じ割合である。次に、トラブルがあった場合は「客とのトラブル」が8%、「雇用者との意見の不一致」が6%などである。トラブルの発生割合は合計すると27%になった。この割合は、アルバイトをしている学生の4人に1人はトラブルを経験していることになり、かなり高い割合と考えられる。学生がアルバイトで事件や事故に巻き込まれないように、トラブルの内容を具体的に把握して対応する必要がある。

学部別では、工学部夜間でアルバイトの従事時間が多いために、トラブルの発生割合が多くなっている。その他の学部では医学部が20%と発生割合がやや少ない。これは、アルバイトの従事時間が少ないためと思われる。



2-15 授業料の免除について(年収500万円未満の家庭) (図2-15①, 図2-15②)

授業料の免除状況について、年収が250～500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が56%で、「授業料免除制度を知らなかった」が15%あり、授業料免除を申請していない割合が合計で71%になっている。これに対して、「全額免除を受けている」が5%、「半額免除を受けている」9%で、授業料免除を受けている割合は合計で14%である。また、「申請したが不許可だった」が8%であった。年収が250万円未満の家庭では、授業料申請をしていない割合が合計で52%で減少して、授業料免除を受けている割合が合計で33%になり増加している。また、「申請したが不許可だった」が12%であった。

学部別では、歯学部で「授業料免除は知っているが申請していない」の割合が43%で、大学全体の52%と比較して少なくなっている。薬学部は、「全額免除を受けている」の割合が19%で、大学全体の11%と比較して多くなっている。

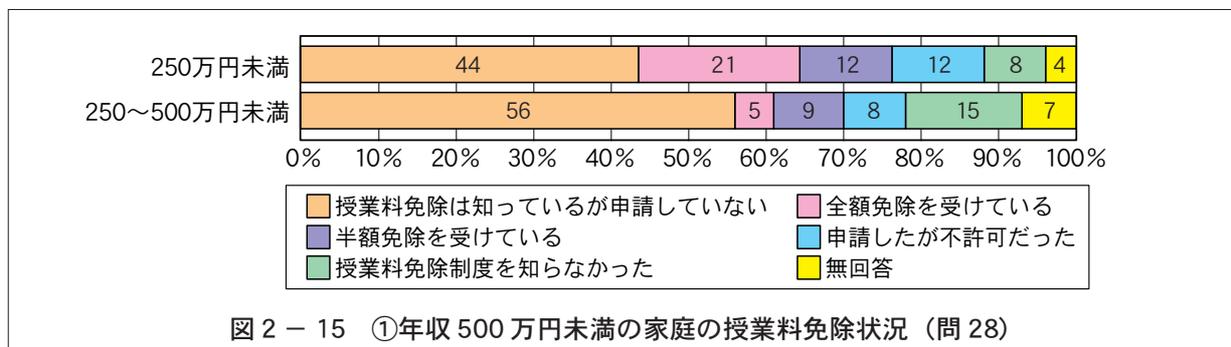


図2-15 ①年収500万円未満の家庭の授業料免除状況(問28)

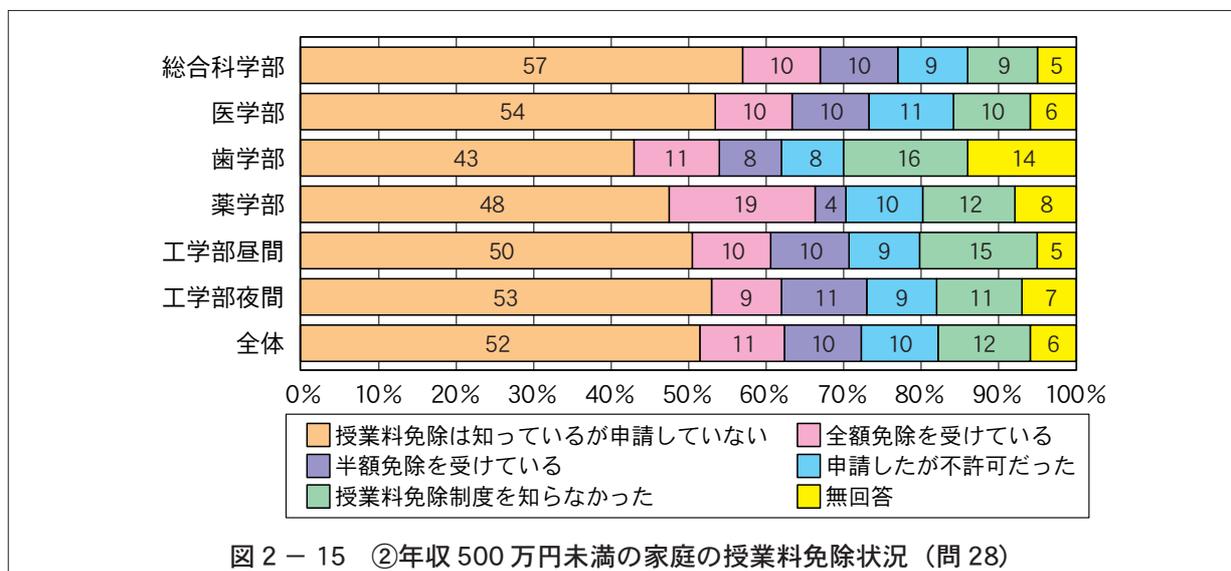


図2-15 ②年収500万円未満の家庭の授業料免除状況(問28)

2-16 奨学金受給状況(年収500万円未満の家庭) (図2-16①, 図2-16②)

奨学金の受給状況では、年収250～500万円未満の家庭で、「受けていない」の割合が38%である。一方、奨学金を受けている家庭の受給額では、「月額3～5万円未満」が22%で最も多く、次に「月額5～7万円未満」が13%、「月額7～10万円未満」が8%、「月額10～15万円未満」が7%、「月額3万円未満」が5%、「月額15万円以上」が1%となった。奨学金を受けている家庭の割合は合計で56%であった。年収250万円未満の家庭では、「受けていない」の割合が32%で減少している。一方、奨学金を受けている家庭の割合を合計すると63%になり割合が増加している。

学部別では、工学部（昼間と夜間）と歯学部で「受けていない」と回答した学生の割合が約40%で、大学全体の36%と比較して奨学金を受けていない学生の割合が多くなっている。これに対して、薬学部では「受けていない」と回答した学生の割合は29%、医学部は30%、総合科学部は32%で大学全体の36%と比較して少なくなっている。

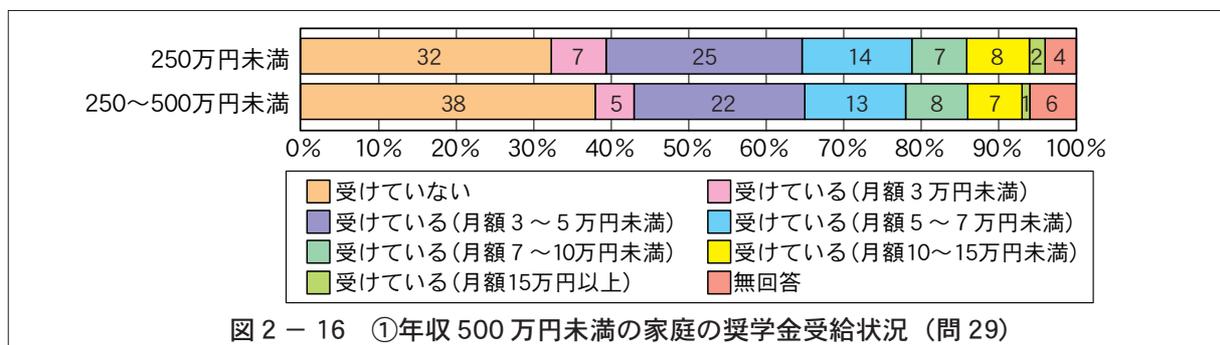


図2-16 ①年収500万円未満の家庭の奨学金受給状況（問29）

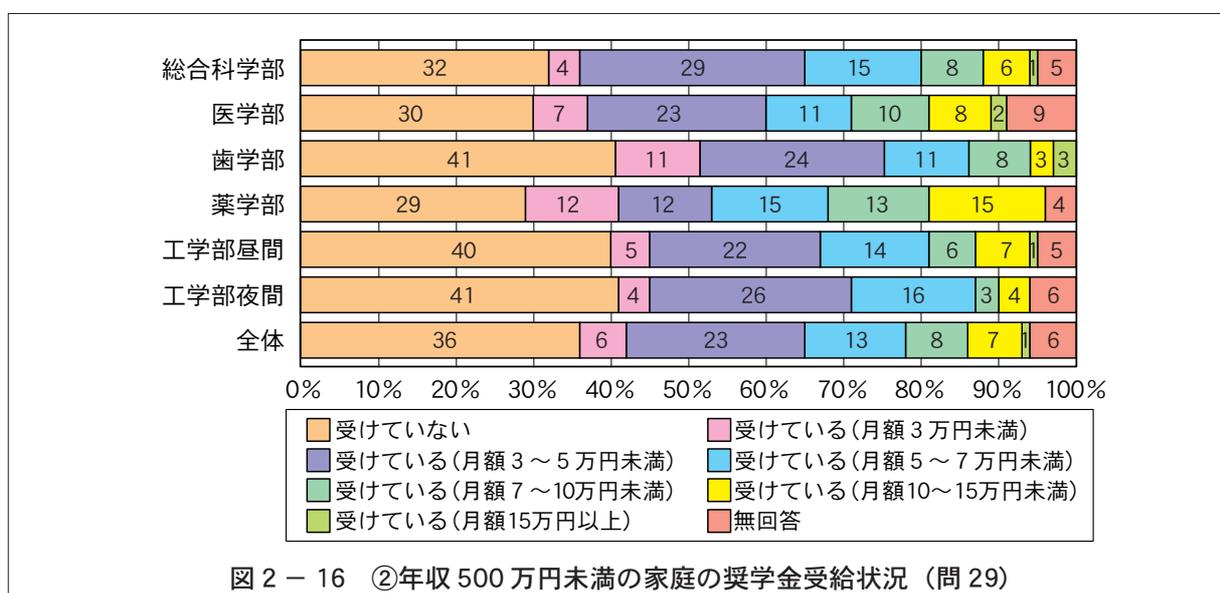


図2-16 ②年収500万円未満の家庭の奨学金受給状況（問29）

第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 図3-1②)

睡眠時間は健康的な睡眠時間である「6～8時間」が50%と最多であるが、40%（男子38%、女子44%）で「4～6時間」と睡眠不足、さらに3%は「4時間未満」で過度の睡眠不足がみられ、前回調査とはほぼ同じ傾向であった。学部別では薬学部の男女において「4～6時間」の割合が、「6～8時間」より10～20%多い状況がみられる。睡眠不足の蓄積は、活動性の低下や注意力・集中力の低下、および心身の変調を引き起こしやすいため、学業・心身の健康両面にとって睡眠時間を確保することの重要性を学生に認識させることが必要と考える。

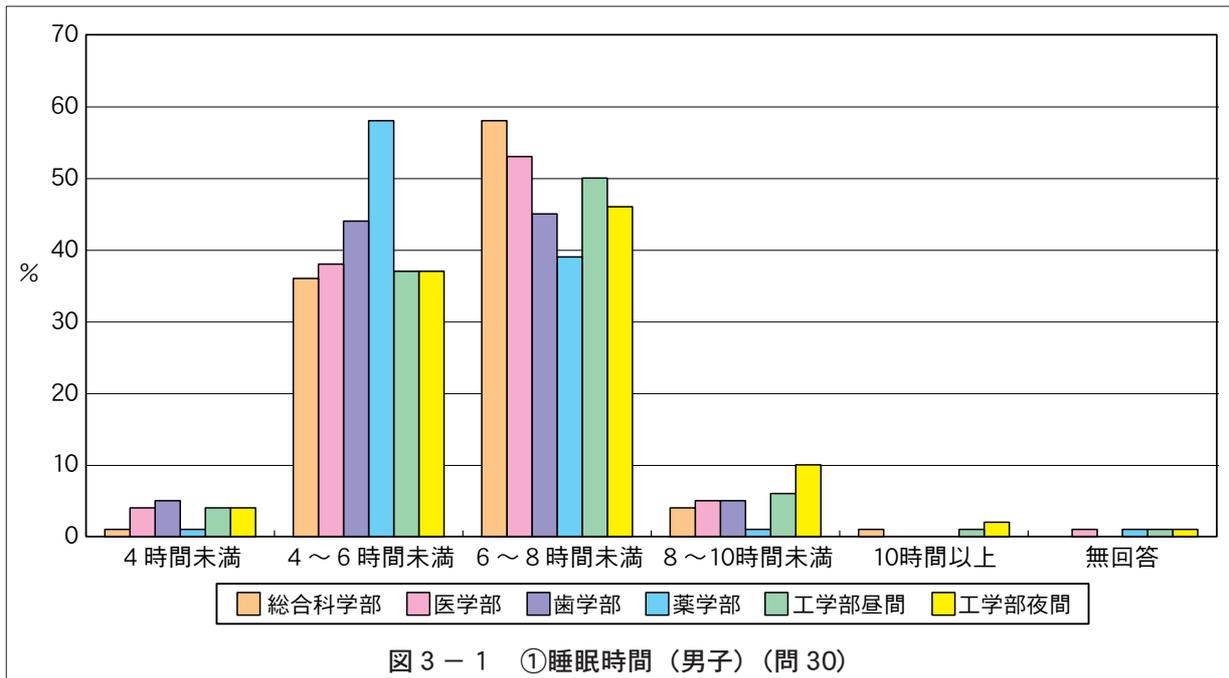


図3-1 ①睡眠時間 (男子) (問30)

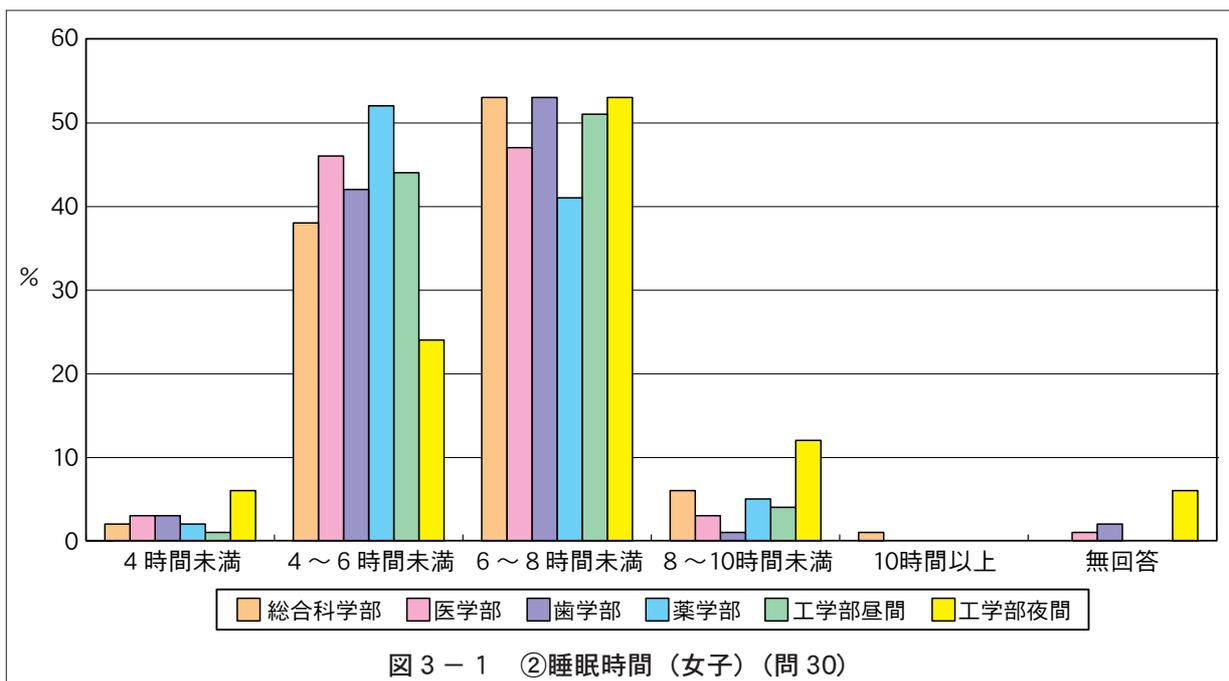
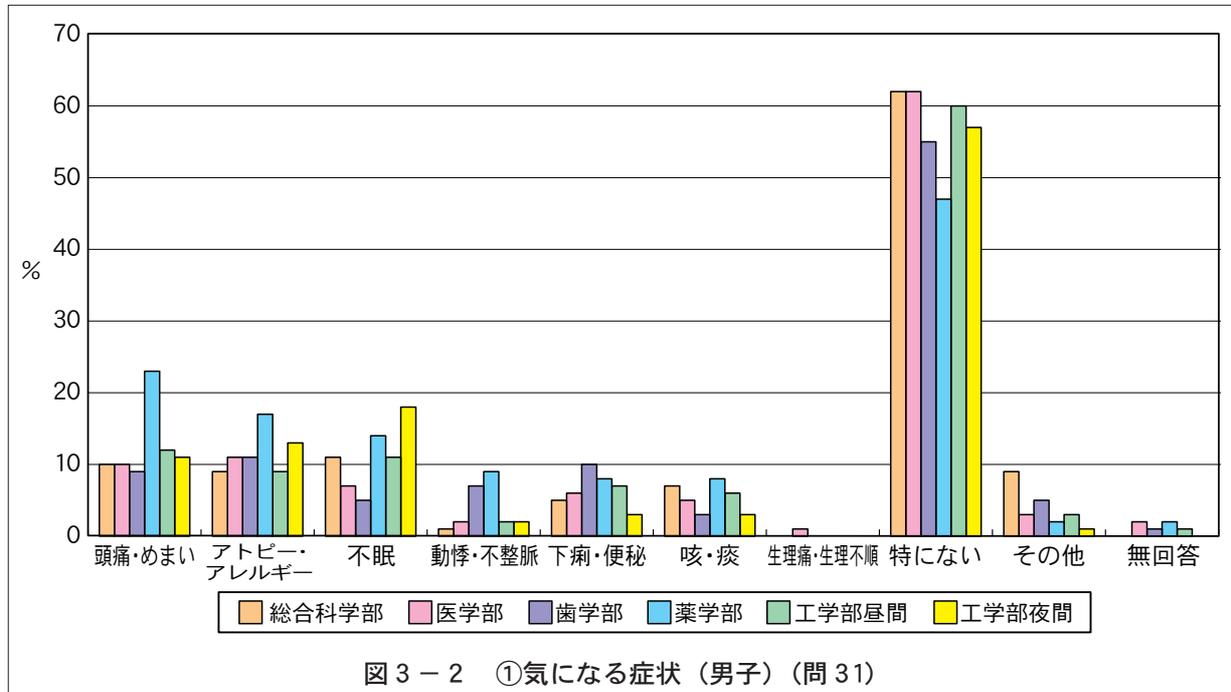


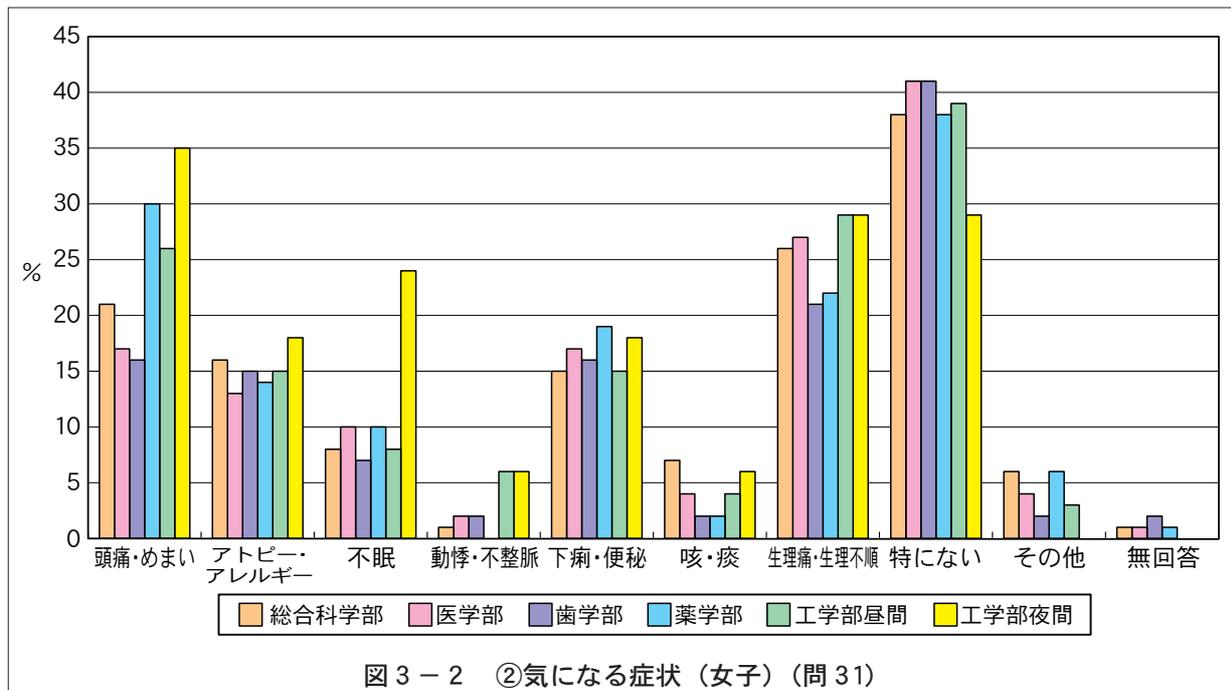
図3-1 ②睡眠時間 (女子) (問30)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

何らかの気になる症状がある学生が、男子で40%、女子で59%と、前回調査(男子48%、女子67%)と比較すると減少しているものの、女子が何らかの不調を多く抱えている傾向は同様である。症状の内容は男女とも前回調査と同様で、男子では「頭痛・めまい」「アトピー・アレルギー」「不眠」がそれぞれ10%認められ、女子では「生理痛・生理不順」が4人に1人、「頭痛・めまい」が5人に1人に認められ、高率となっている。症状への対処とともに、生活面の指導なども必要であると思われる。



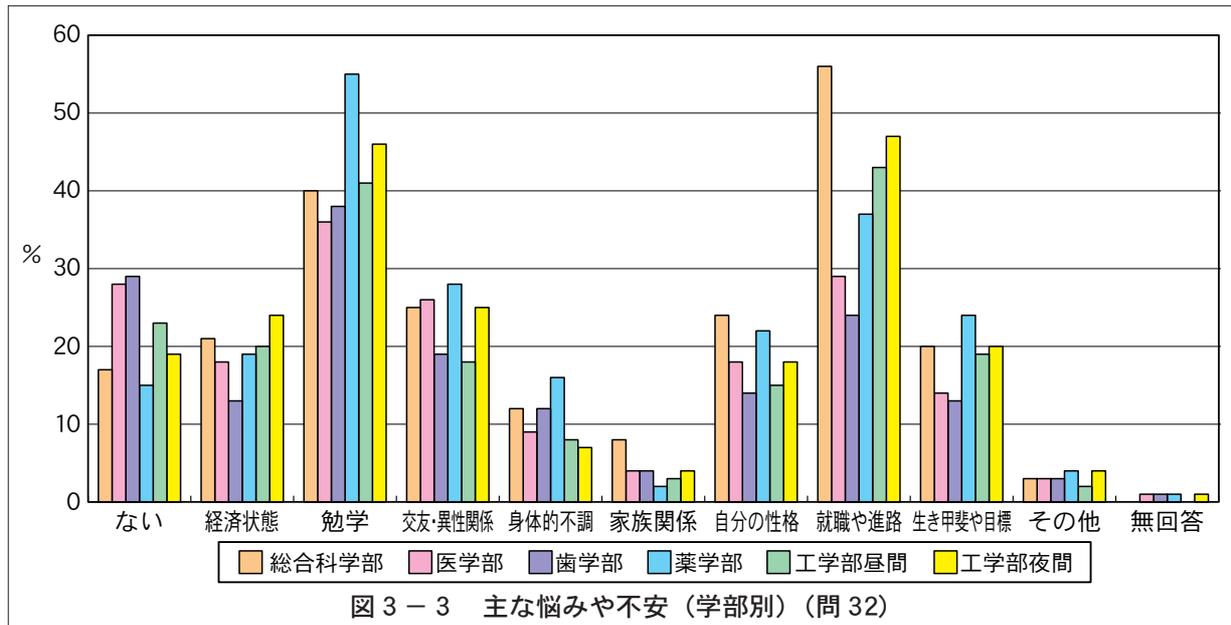
(※問31は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問31は複数回答のため合計は100%にはならない。)

3-3 主な悩みと不安 (図3-3)

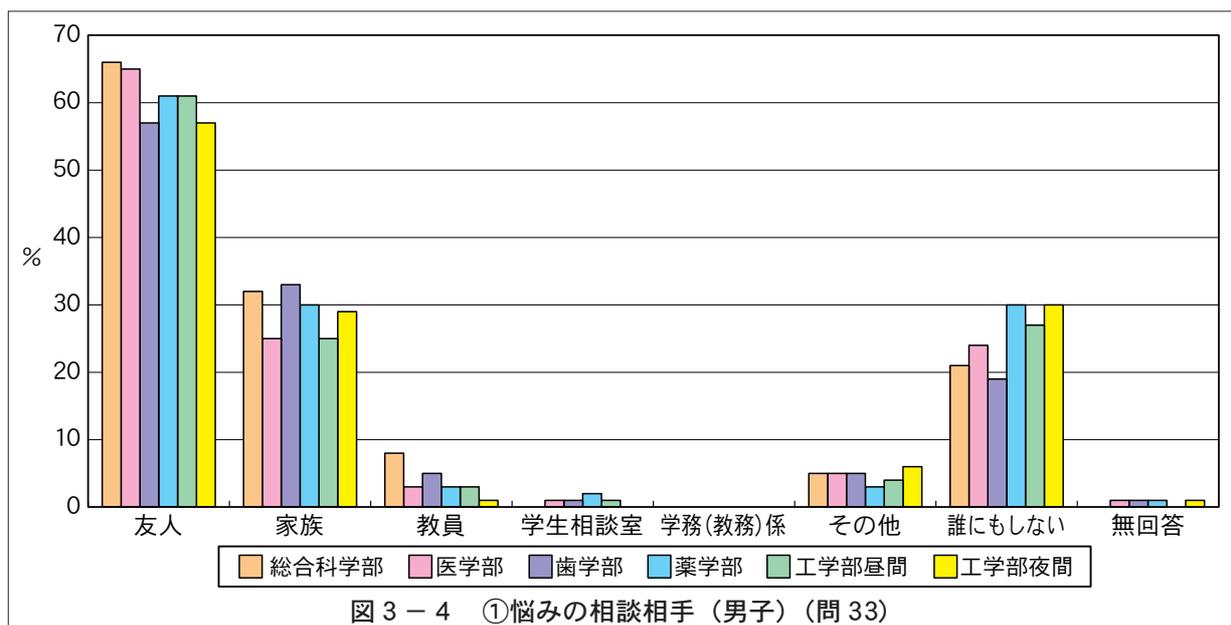
悩みや不安としては、各学部また男女ともに共通して「勉学」「就職や進路」が多く、これは学生特有の問題に関する悩みであり、妥当な結果と考えられる。約20%に「交友・異性関係」、「経済状態」「自分の性格」といった悩みがみられており、前回調査と同様な結果となっている。また、「身体的不調」については前項「気になる症状」があるとしている学生の比率よりかなり低く、症状を悩んでいる学生は少ないことがわかる。全体として学年による特徴は見いだせなかったが、総合科学部の「就職や進路」を選んだ学生の約4割が3年生、薬学部では「勉学」を選んだ学生の3割強が1年生という傾向がみられた。進路選択の節目やカリキュラムと関連している可能性がある。



(※問32は複数回答のため合計は100%にはならない。)

3-4 相談相手 (図3-4①, 図3-4②)

悩みごとは、主に「友人」もしくは「家族」に相談するとしており、身近な人が相談相手である学生



(※問33は複数回答のため合計は100%にはならない。)

が多い。教員、相談室に相談するとの回答もあり、割合は低いものの、友人家族とは違った相談相手として重要であると考えられる。一方、悩みを誰にも相談しないとの回答は、全体の21%（男子26%、女子13%）みられた。前回調査（男子19%、女子28%）と男女の割合は違うものの、20%程度の学生が信頼できる相談相手を持ち得ていないか、相談を悩みの対処行動として選択していない傾向がみられる。このような場合、自分だけで解決しえない状況にさらされた場合に抱え込んでしまい、対処行動がとりにくいことが危惧される。

学生相談室や保健管理センターの「心の相談室」の活用が有効であると思われるが、そのためにはこれまで以上に学生への広報、周知に努めることが望まれる。

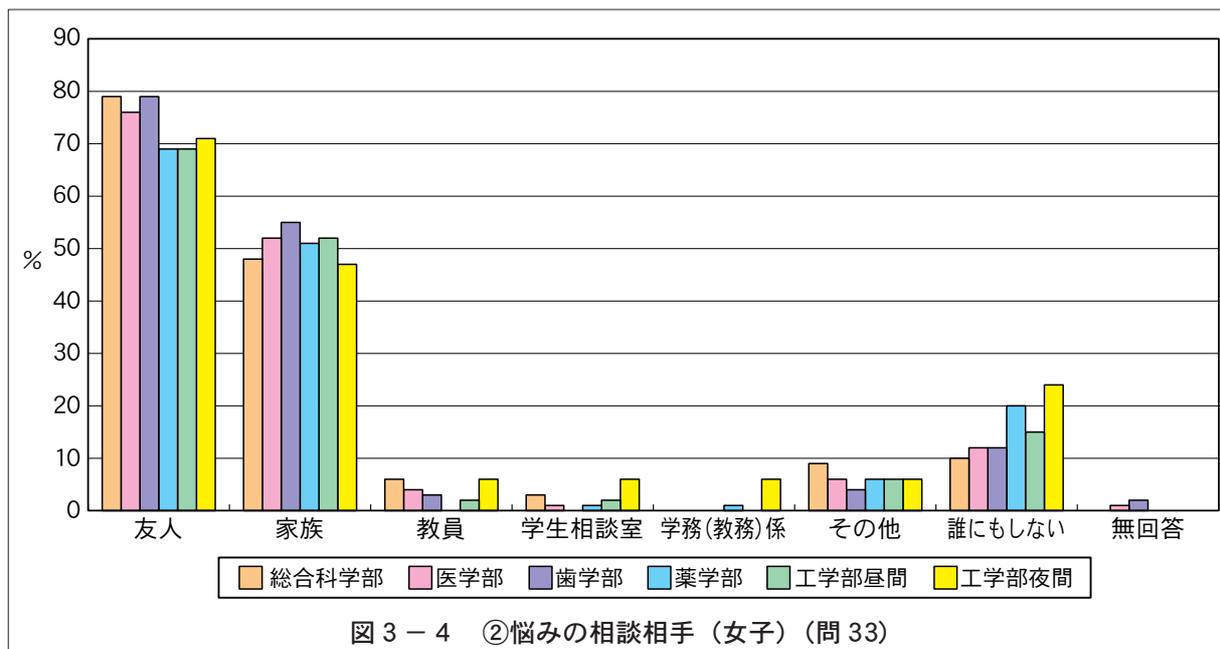


図3-4 ②悩みの相談相手（女子）（問33）

（※問33は複数回答のため合計は100%にはならない。）

3-5 喫煙について（図3-5①～図3-5③）

「喫煙したことがない」学生は男子で72%、女子で92%、また、「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生をあわせると、男子で78%、女子で95%が喫煙していないという結果となった。「ときどき、もしくは毎日喫煙している」学生は男子で18%、女子で4%であり、男子で喫煙率が高くなっている。日本人の喫煙率21.8%（男性36.8%女性9.1%）と比較して喫煙率が低いことはよい傾向であると言える。学部別の比較では、男子で最も喫煙率が低い薬学部の9%と比べて、歯学部が31%と高くなっており、また工学部夜間は男女ともに毎日喫煙する率が高くなっている。学年別でみると、1年生では97%が非喫煙だが、4、5年生では81%と非喫煙率が下がっており、学年が上がるとう喫煙者が増える傾向がある。長期間の喫煙習慣が様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を習慣づけないことが望ましい。

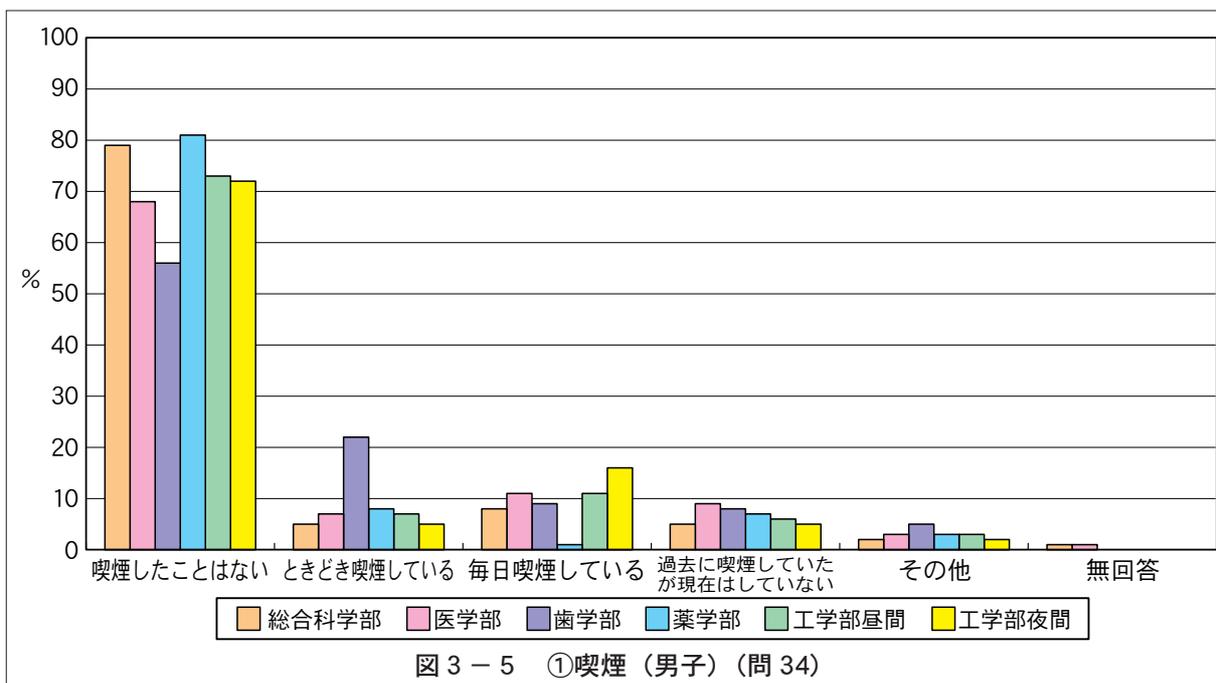


図 3-5 ①喫煙 (男子) (問 34)

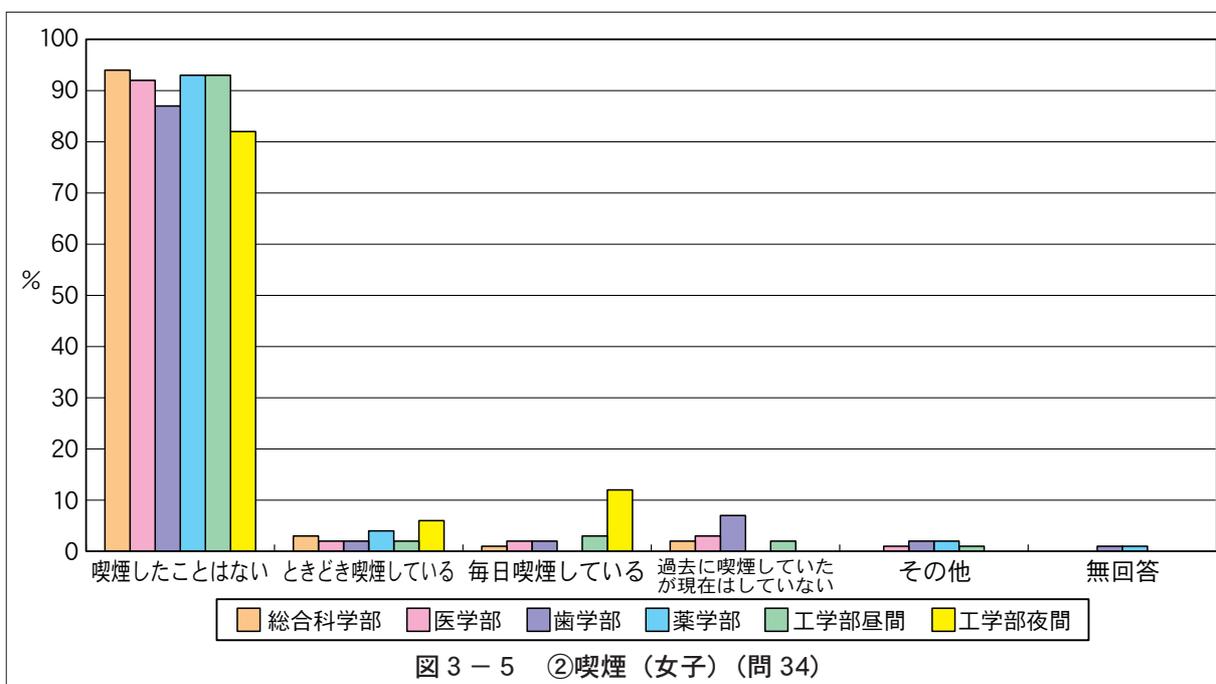


図 3-5 ②喫煙 (女子) (問 34)

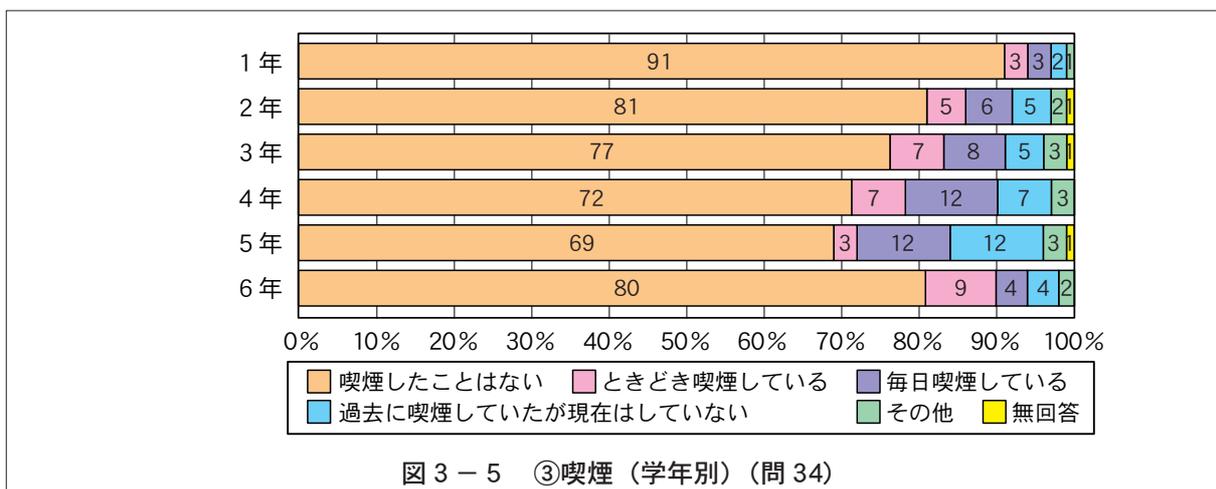
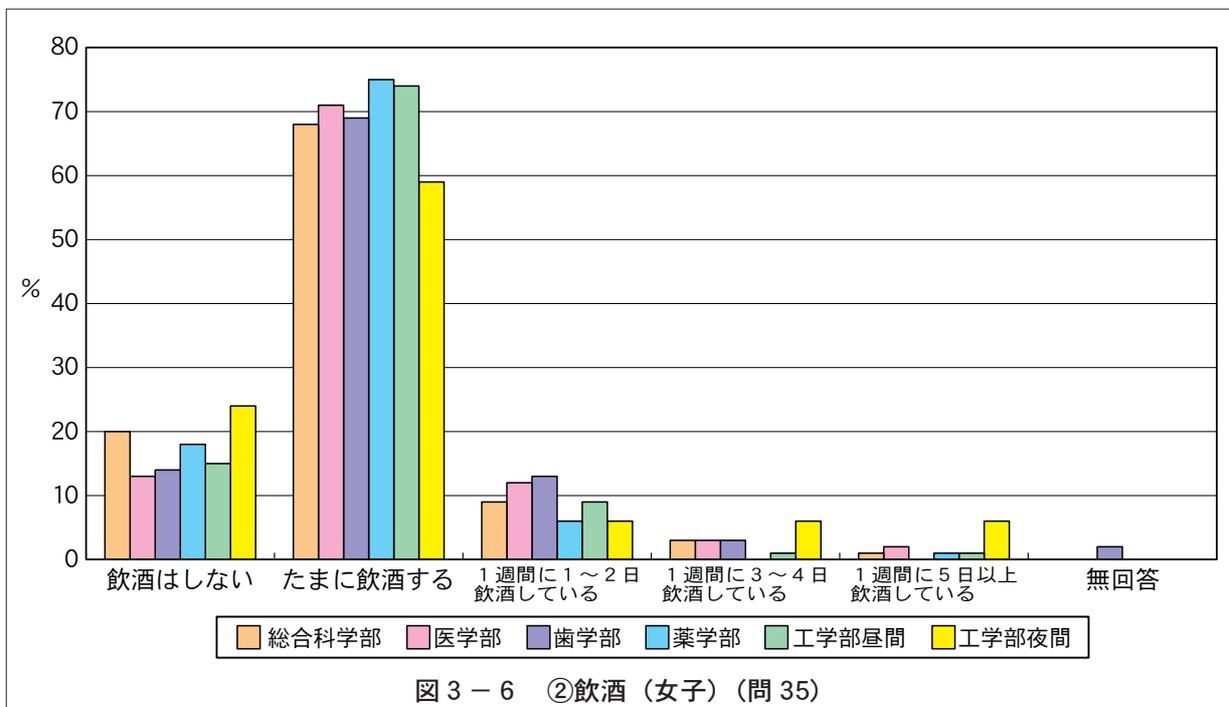
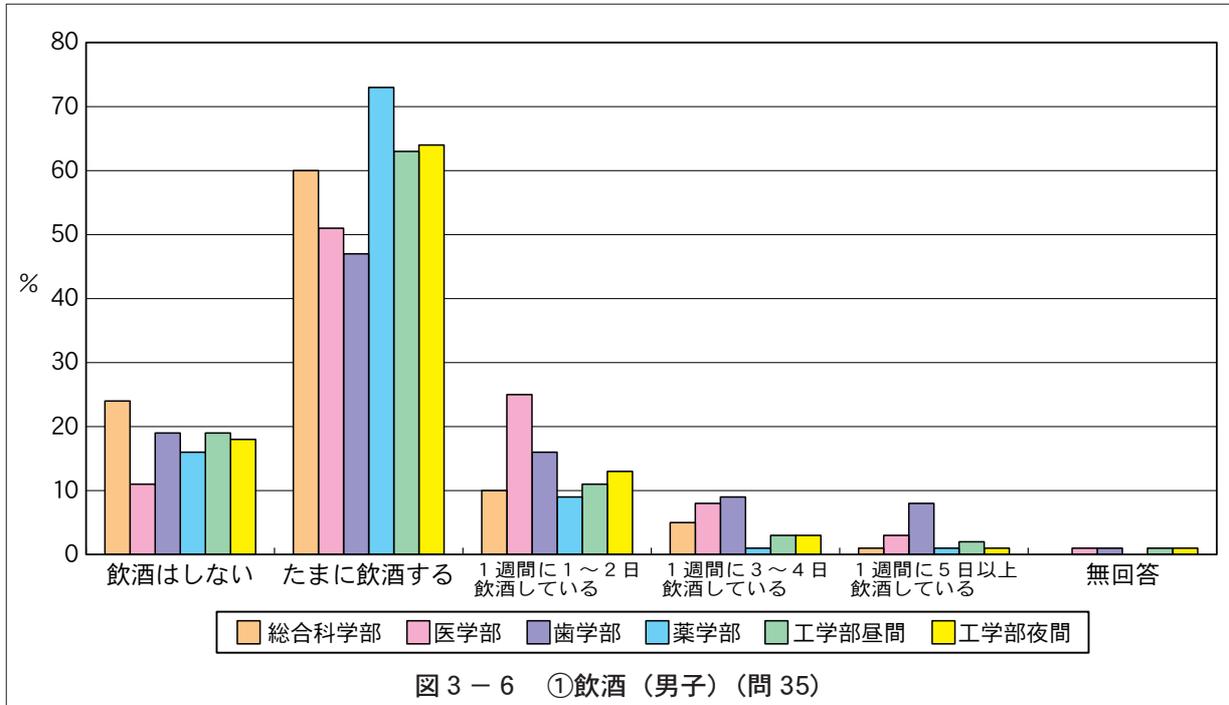


図 3-5 ③喫煙 (学年別) (問 34)

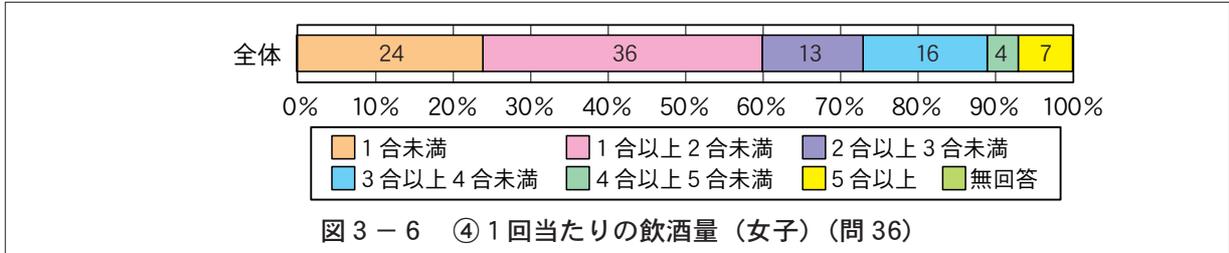
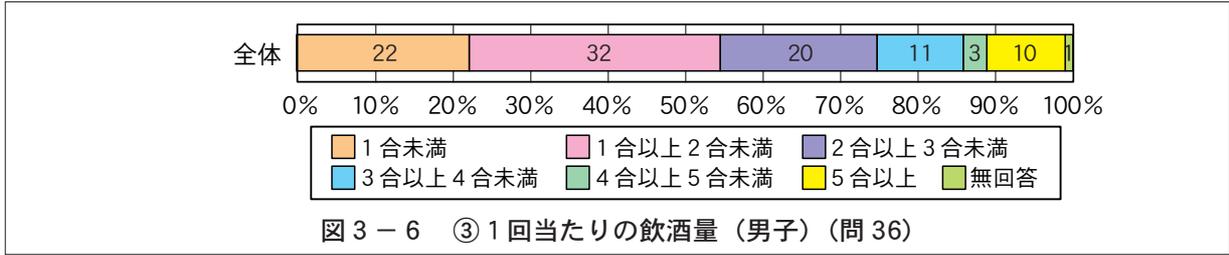
3-6 飲酒について (図3-6①~図3-6④)

「たまに飲酒する」と答えた学生が男子60%，女子71%と最も多く、「飲酒はしない」と答えた学生も男子17%，女子15%おり，合わせて8～9割の学生に飲酒習慣がなく，機会飲酒程度であるといえる。飲酒習慣のある1～2割の学生のうち，週3，4日以上飲んでいる学生が数%みられるが，1回の飲酒量が問題となる。



週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち，1回あたりの飲酒量は3合未満が男子74%，女子73%で，多量飲酒者にはあらず，残りの30%弱（50人程度）が，1日平均純アルコール量で60g（日本酒3合）前後の飲酒をしている可能性があり，長期間継続するとアルコール関連健康障害などの酒害に発展する飲酒レベルである。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒1合）と

いわれているため、アルコールの摂取過剰には十分気をつけるよう指導することが望ましい。



第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

朝食をほとんど食べない学生は22%であり、前回の調査に比べ1%の減少で大きな変化は見られない。男子が1%, 女子が2%の減少であった。

一方、朝食を毎日食べているのは、男子41%, 女子65%で前回の調査より男子は3%の増加, 女子は2%の減少であった。その内訳をみると、家族と同居である場合が70%で24%の増加, 学生寮が58%で18%の増加を示したのに対し、一人暮らしの場合には、アパート・マンションと間借りではいずれも40%で10%前後減少していた。学生を取り巻く経済情勢の悪化の影響があるのかもしれない。

いずれにしても、朝食をとる生活習慣の意義を繰り返し指導することがなお一層必要であることを示している。

国際交流会館や日亜会館の留学生は、前回では朝食を毎日食べるが0%, 時々食べるが75%, ほとんど食べないが25%であったが、今回の調査ではそれぞれ25%, 25%, 50%となり、毎日食べるが25%増加しているが、ほとんど食べないも25%増と倍増している。留学生の間でも経済格差が生じている可能性もあるが、母数が17人と小さいこともあり断定はできない。

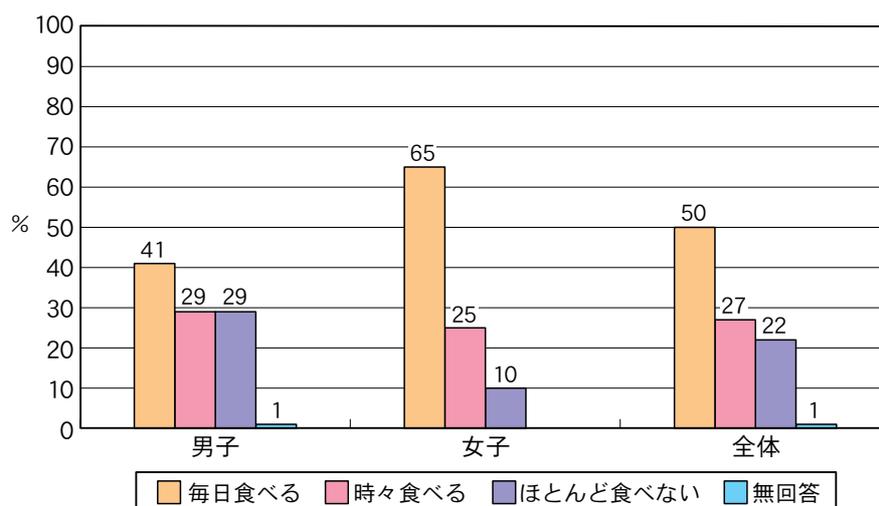


図4-1 ①朝食について (問37)

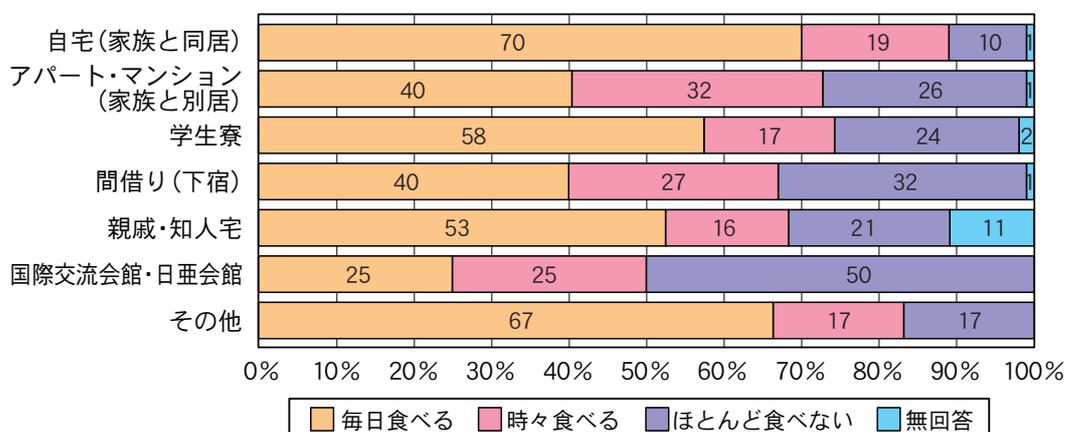
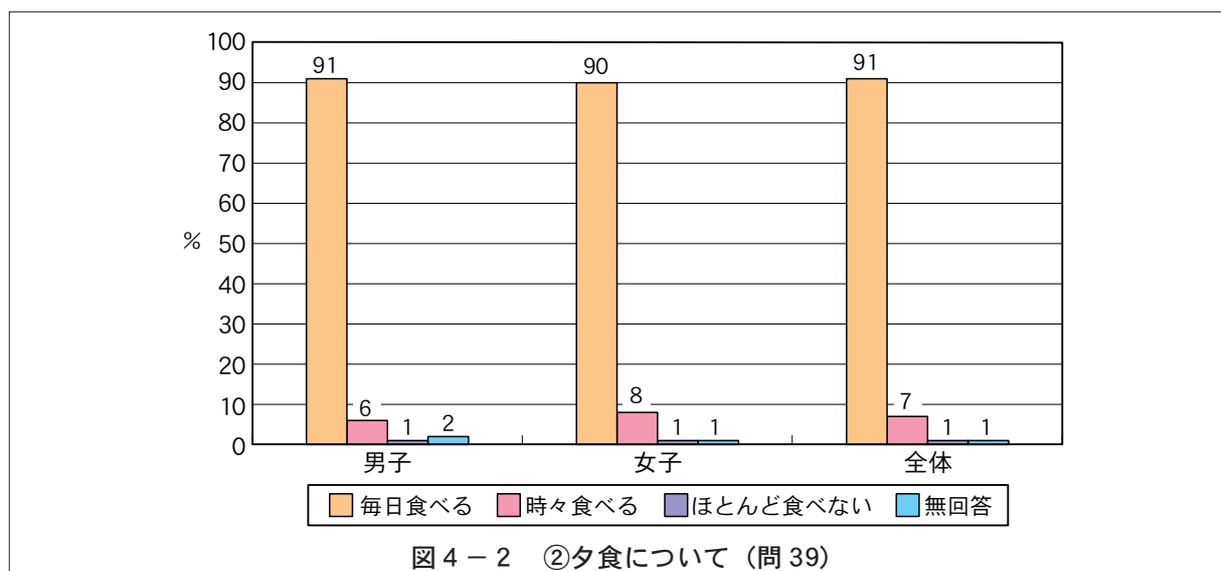
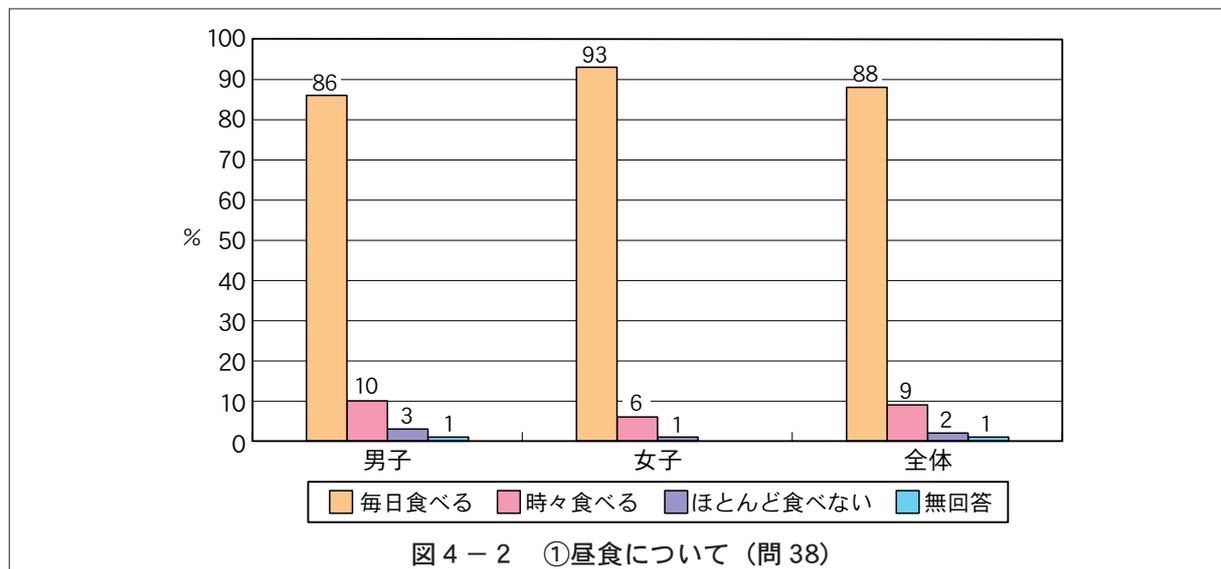


図4-1 ②朝食と住居区分 (問37)

4-2 昼食と夕食 (図4-2①, 図4-2②)

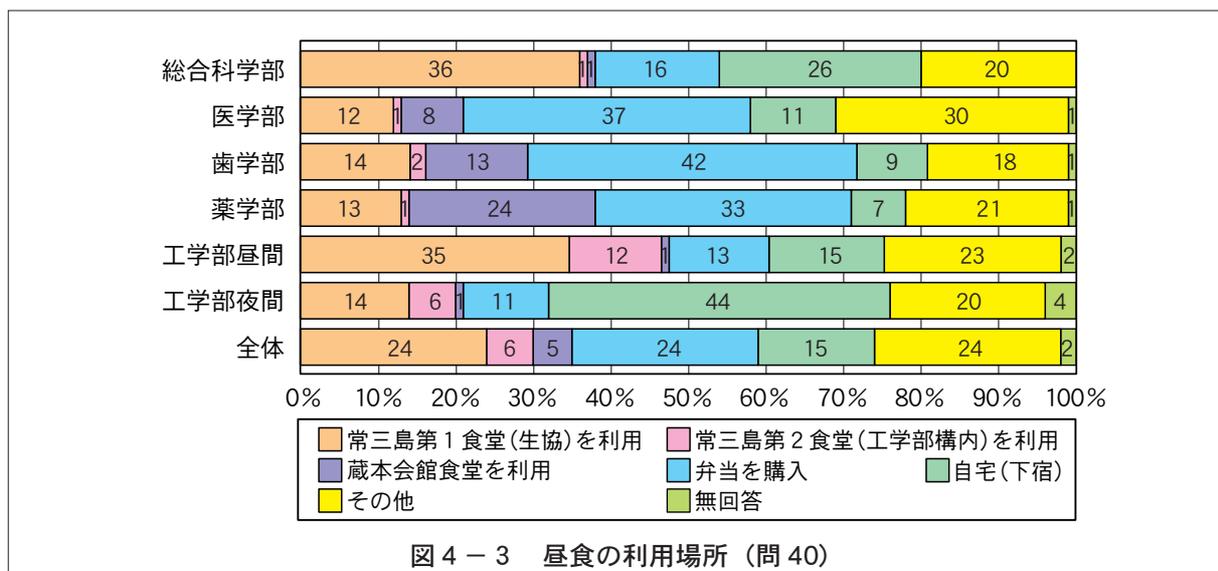
昼食を毎日食べている学生は88%, 夕食を毎日食べている学生は91%である。一方, 昼食を毎日食べない学生は11%, 夕食を毎日食べない学生は8%いる。これらは前回の調査結果とほぼ同様であった。引き続き, 食育指導の必要性があると言える。



4-3 昼食の利用場所 (図4-3)

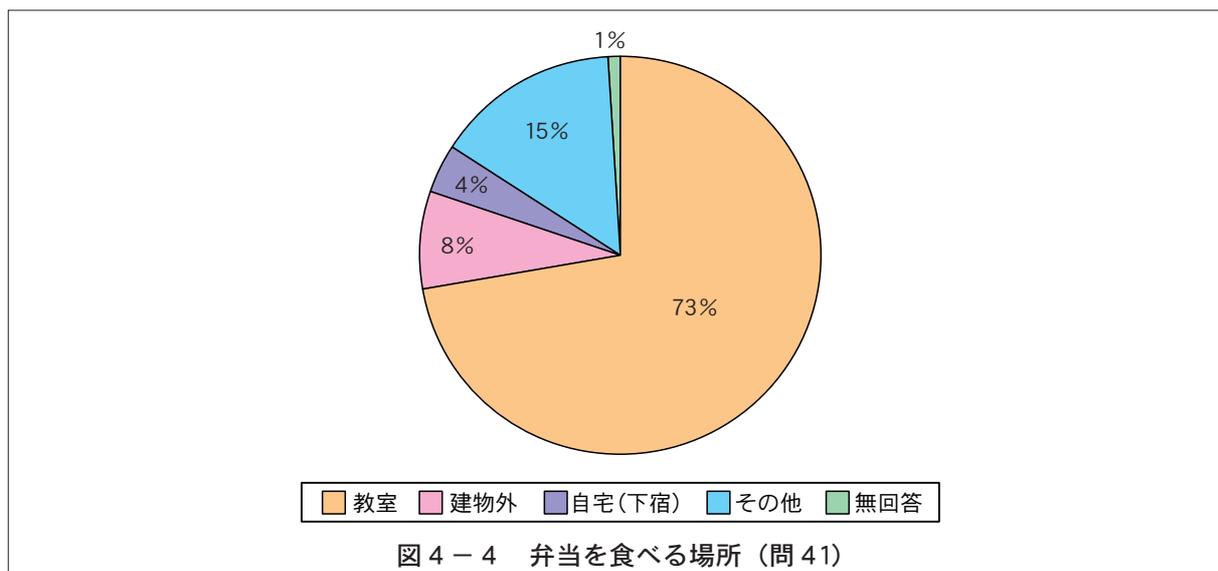
常三島第1食堂(生協), 常三島第2食堂(工学部構内), 蔵本会館食堂, 弁当, 自宅(下宿)を利用する学生は, それぞれ24%, 6%, 5%, 24%, 15%であり, 前回と比べると, 3%減, 1%増, 2%減, 2%増, 1%増で傾向はほぼ同様である。

しかし, 蔵本地区の学生においては蔵本食堂の利用が28%から11%と大きく減少し, 「弁当を購入」が薬学部で10%増加している。また, 医学部, 歯学部では「その他」が各5%増えており, 今回の調査項目には入っていなかった新設の生協カフェテリア「クララ」の利用が増えているのではないかと考えられる。



4-4 弁当を食べる場所 (図 4-4)

弁当を食べる学生は73%が教室、8%が建物外、4%が自宅で15%がその他である。前回調査と比べると教室の割合が変わらず、建物外が1%増加、自宅が2%減少、その他が2%増加しているが、ほぼ同様の傾向であった。



4-5 学生食堂について感じる事 (図 4-5①, 図 4-5②)

昼食時の混雑がひどいと答えた学生が47%と半数近くを占め(総合科学部, 工学部昼間では過半数であり, 特に常三島地区の学生食堂の混雑がひどいことがわかる), さらにメニューが少ない, 値段が高い, と答えたものはそれぞれ28%, 26%であった。開店時間が短いや場所が不便については7%と9%であった。前回とは設問が否定的になっているので直接的な比較はできないが, 昼食時の混雑については前回に引き続き最も多数の学生(特に常三島地区の学生)が問題点として捉えている事項であり, 蔵本地区の学生が「メニューが少ない」と感じている割合が高いことがわかる。また, 4人に1人の学生が値段が高いと感じていることもわかった。

今回の調査とは別に食堂に関する詳細なアンケートを行っており、常三島、蔵本両地区の食堂運営者の改善努力はもちろん、大学当局の努力や施設部との相談が必要であろう。

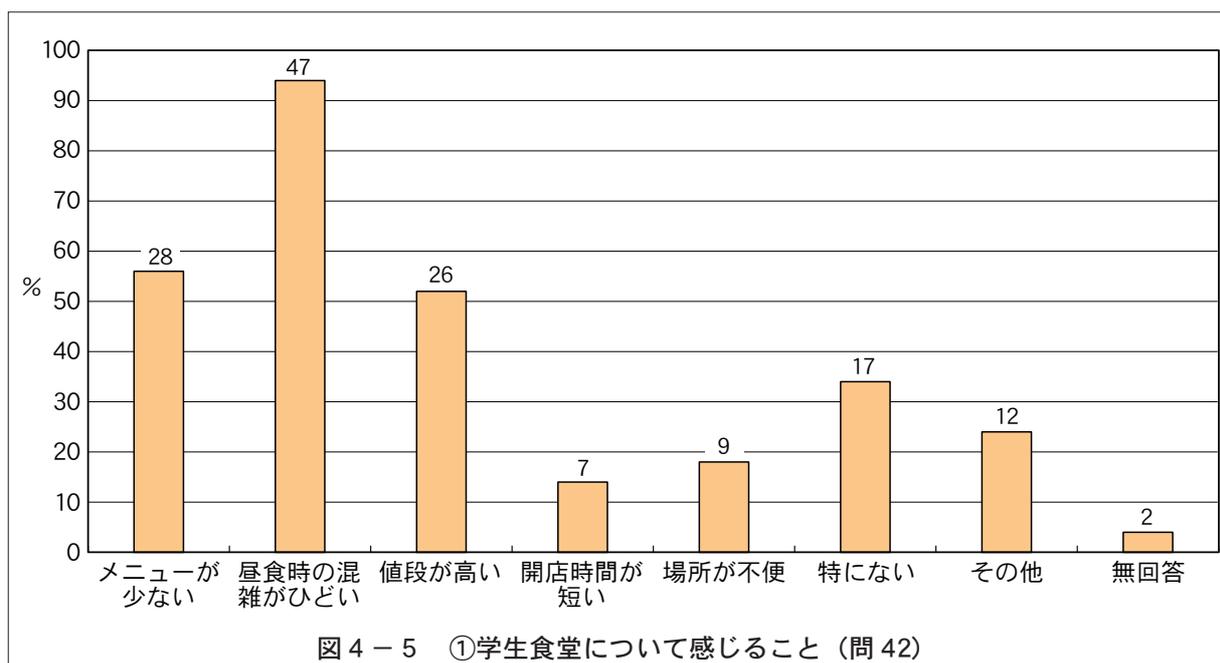


図 4-5 ①学生食堂について感じる事 (問 42)

(※問 42 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

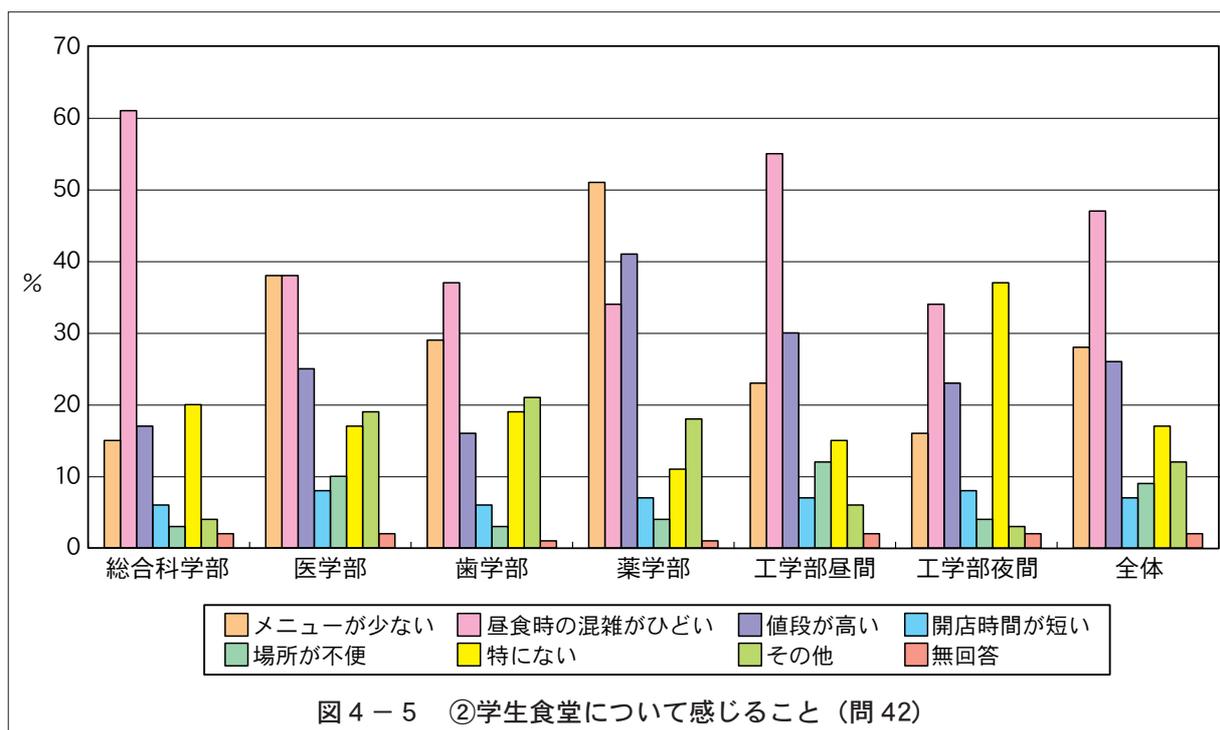


図 4-5 ②学生食堂について感じる事 (問 42)

(※問 42 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

第5章 学生生活上の問題点

5-1 大学生生活の意義 (図5-1①~図5-1③)

【項目間での比較】(図5-1①)

どの学部・学科においても「勉強や研究」が第1位で27～45%を占めている。ついで「特に重点もなく程々に」、「豊かな人間生活を結ぶこと」が第2位から第3位を占め、「趣味・娯楽」「サークル活動」「将来を考えた資格等の取得」「ただ何となく」「アルバイト」の順になっている。これは前回の結果とあまり変わらない。ただ「勉強や研究」は前回の結果に比べ医学科、栄養学科、歯学部がやや低い値を示し、前回第1位だった歯学部に代わり、薬学部が全学部の中で最も高い値を示している。総合科学部と工学部は前回とほぼ同じ割合である。各学部・学科とも「特に重点もなく程々に」「ただ何となく」が前回と同様に20～33%を占めていることは憂慮すべきものがある。大学において学ぶことの意義を明確化させ、希望と目標を持って国際化社会にはばたけるような学生を育てるための教育が今後とも必要であると考えられる。

【学部・学科間での比較】(図5-1①)

「勉強や研究」が前回全学部の中で第1位だった歯学部(前回40%,今回35%)に代わり、薬学部の割合が32%から45%に増加し、最も高い値をしめた。これは薬学部が平成18年度入学生から薬剤師国家試験資格が変わることに伴う学部6年制・4年制併設への改組による影響があらわれたものと思われる。前回の結果に比べ保健学科は微増したが、医学科、栄養学科、歯学部が低い値を示した、また総合科学部、工学部はほぼ同じ割合である。

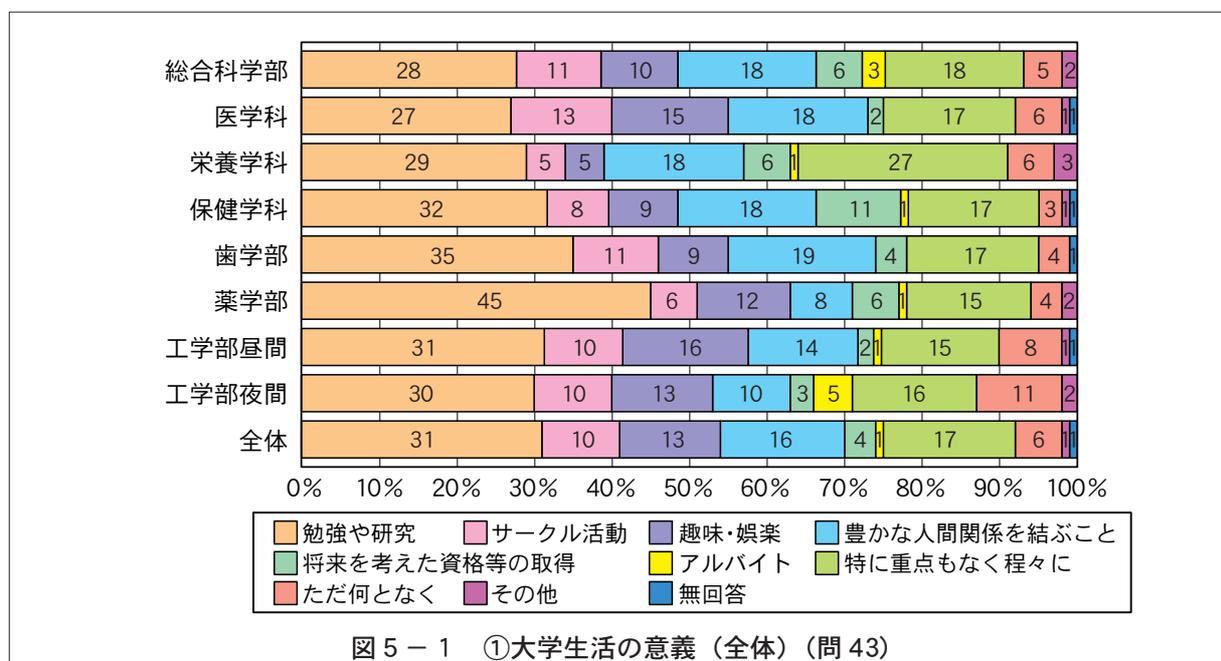


図5-1 ①大学生生活の意義(全体)(問43)

【学年間での比較】(図5-1②, 図5-1③)

4年制学部・学科(図5-2)の場合、前回と同様に学年進行に伴い「勉強や研究」は増加し「特に重点もなく程々に」、「サークル活動」は減少している。大学での学びの成果と考えられる。一方6年制学部の場合1年から3年までは学年進行とともに「勉強や研究」が増加するが4年、5年と減少し6年

で増加する。4年と1年は同じ割合を示している。これは前回と同じ傾向であり、必ずしも最終学年における臨床実習が勉学意欲に対してプラスに働いていないと考えられる。「サークル活動」や「趣味・娯楽」は学年が上がるごとに増加し、これは4年制学部とはまったく逆の傾向である。前回の結果を6年で比較すると、「勉強や研究」は36～33%に減少し「サークル活動」は12～23%、「趣味・娯楽」は16～18%に増加し、この傾向に拍車をかけているように見える。臨床実習における学生の勉学意欲を高める工夫を優先的に検討していく必要がある。

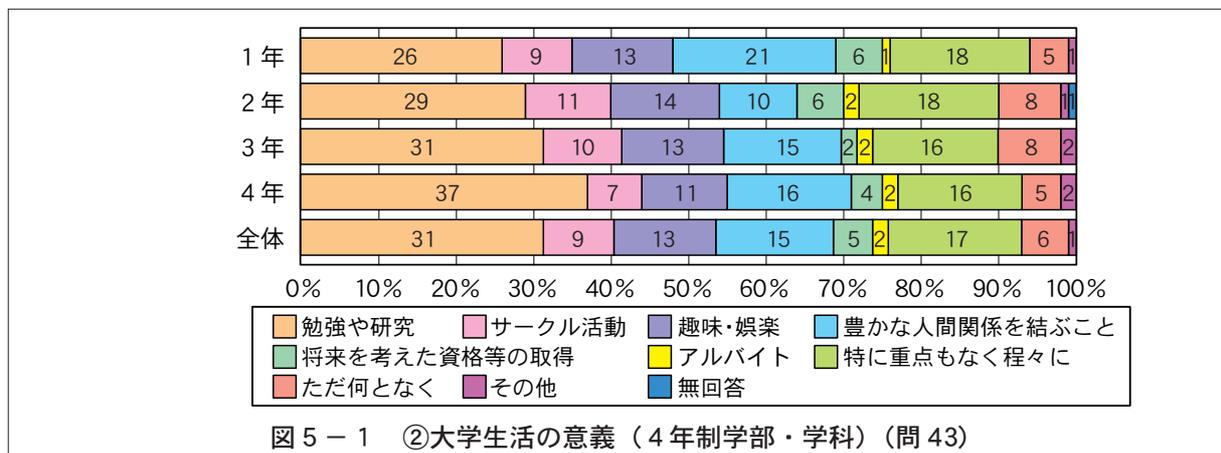


図5-1 ②大学生生活の意義（4年制学部・学科）（問43）

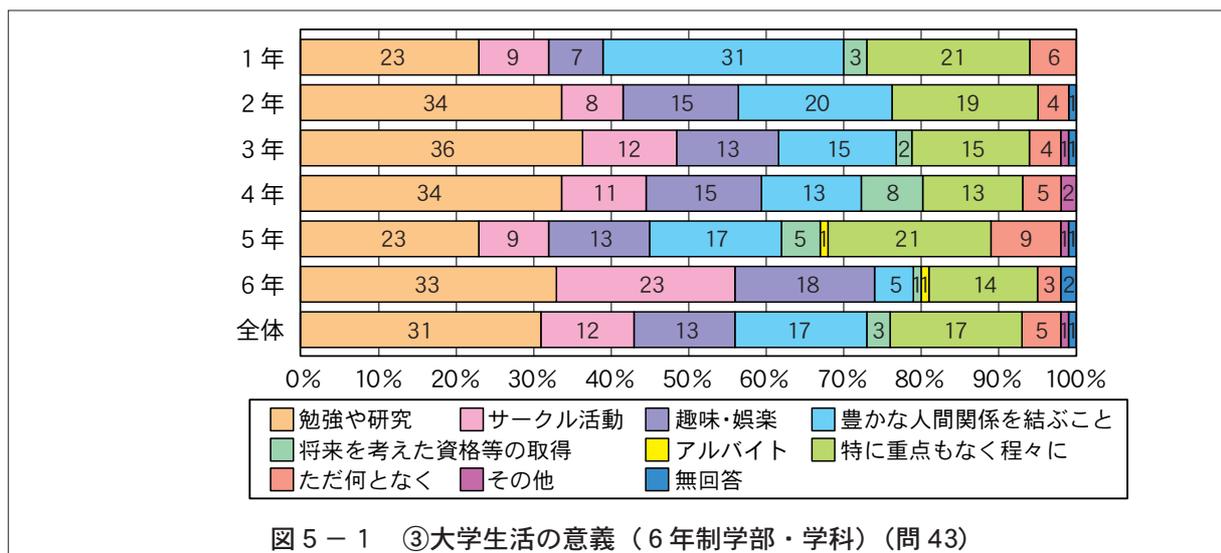


図5-1 ③大学生生活の意義（6年制学部・学科）（問43）

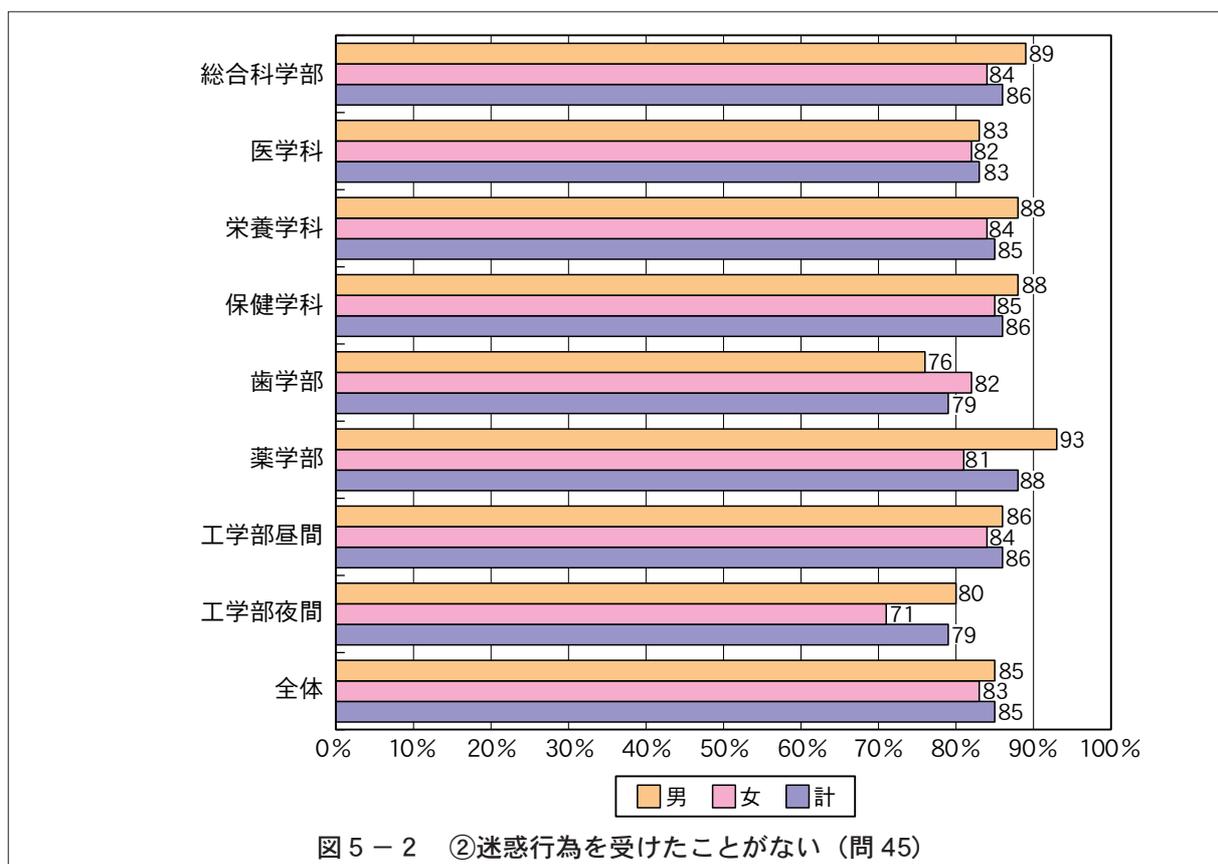
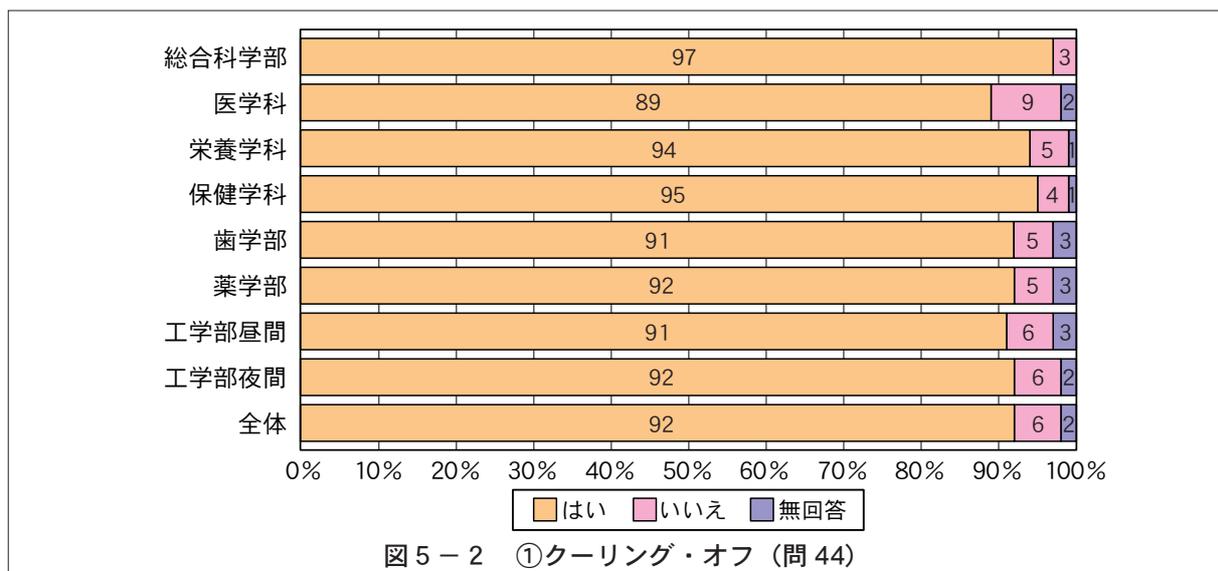
5-2 迷惑行為（図5-2①～図5-2⑨）

【クーリングオフ制度の認識】（図5-2①）

クーリングオフ制度については、前回と同様に各学部において89%以上の高い割合で「知っている」と回答している。総合科学部は97%で1番高いが、医学部は95%から89%にやや減少した。大学入門講座における教育が反映されていることは喜ばしい。

【全体的に見て】（図5-2②）

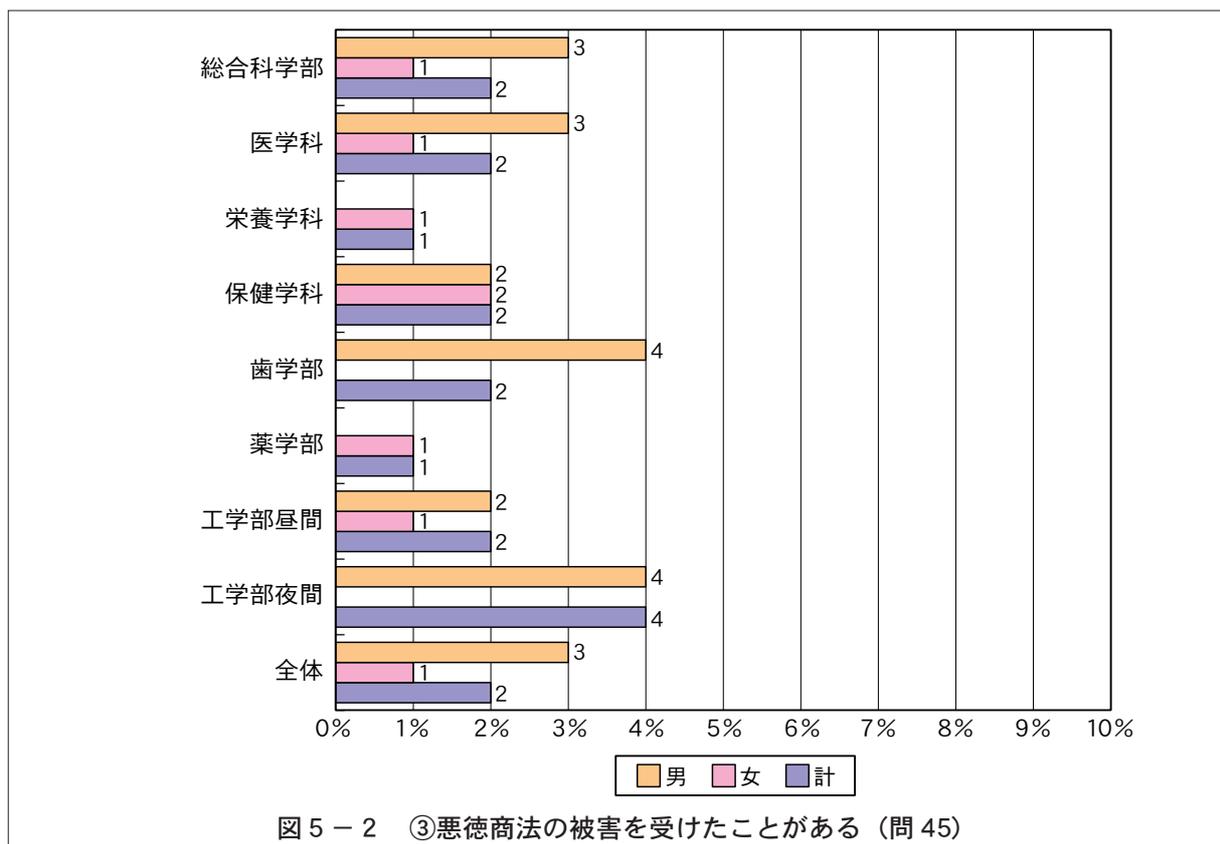
「迷惑行為をうけていない」と回答した学生はどの学部でも79%から88%であり、前回（74～82%）および前々回（60～70%）に比べて著しく増加傾向にある。男女別に見ると、男子では「迷惑行為を受けていない」と回答した学生は76～93%（全体で85%）であるが、女子では71～85%（全体で83%）で、男子より低い。この結果は前回とは逆の結果である。男女の差は前回4%であったのに対し



2%に減少した。

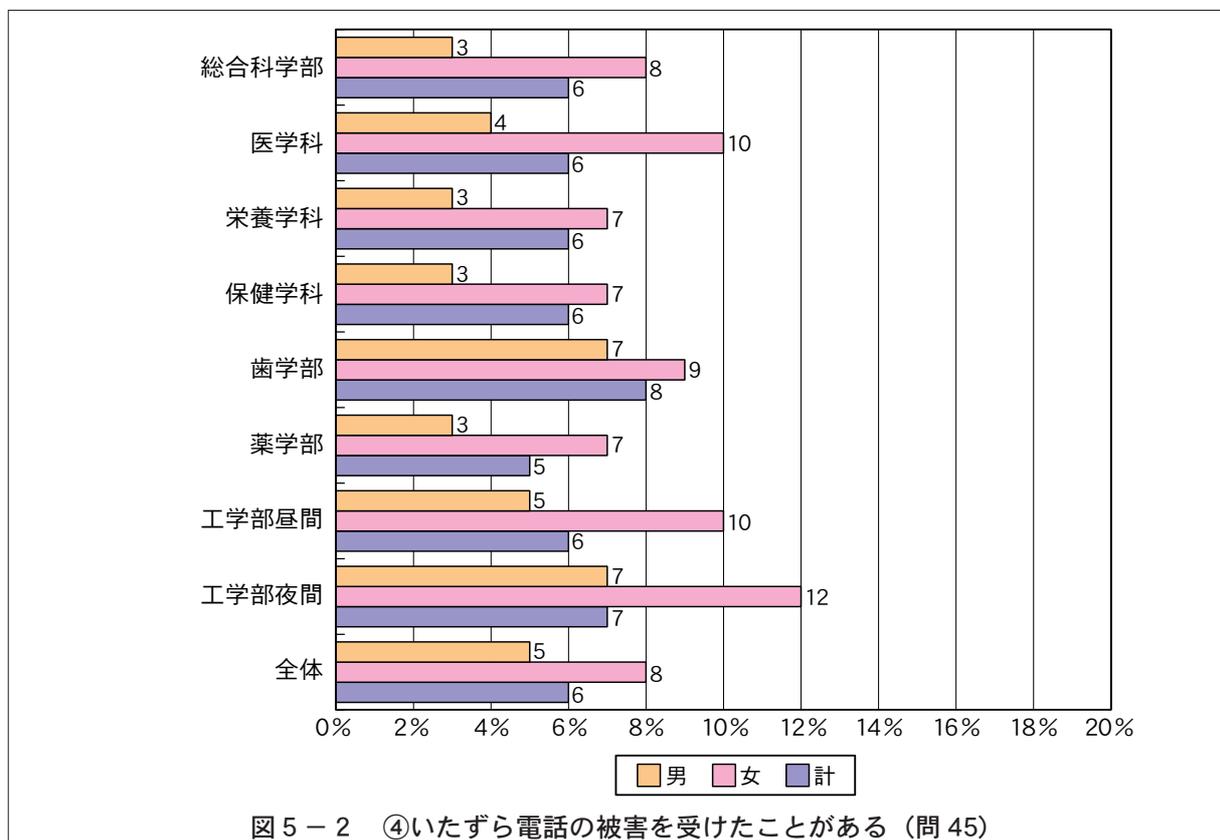
【悪徳商法】(図 5 - 2 ③)

各学部・学科で1～4%の学生が被害を受けている。しかし前回の1～10%に比べると被害は減少している。「悪徳商法に引っかかった」と答えた学生の実数は男子50名、女子14名、合計64名であり、前回の男子68名、女子65名、合計133名と比較すると半減していることになる。特に女子の被害が著しく減少しているが、悪徳商法に対する学生の意識が高まったことがうかがえる。今後共各学部・学科において注意喚起をしたい。



【いたずら電話】(図5-2④)

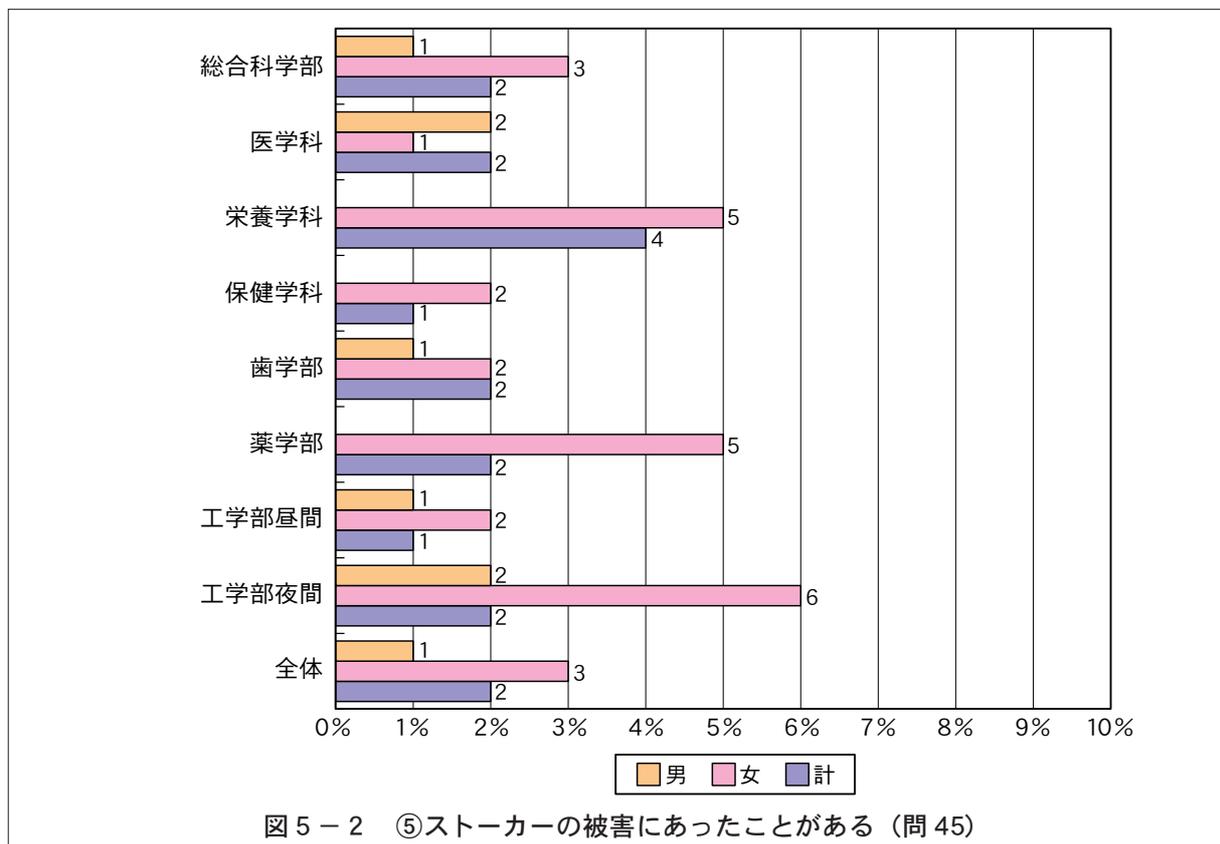
各学部・学科で3～12%の学生が被害を受けている。前回6～18%，前々回12～21%であったことからすれば、年ごとに著しく改善されている。被害学生数は男子97名(含留学生1名)，女子102名



(含留学生1名)、合計199名であり前回の男子312名、女子127名、合計439名に比べると男子の被害者数が大幅に減少している。

【ストーカー】(図5-2⑤)

各学部・学科で1～62%の学生が被害を受けている。被害学生数は男子18名、女子33名、合計51名であり、前々回の男子27名、女子52名、合計79名、前回の男子64名、女子18名、合計82名に比べると被害者数は減少している。今後ともストーカー防止対策の浸透が望まれる。



【大学内でのセクハラ】(図5-2⑥)

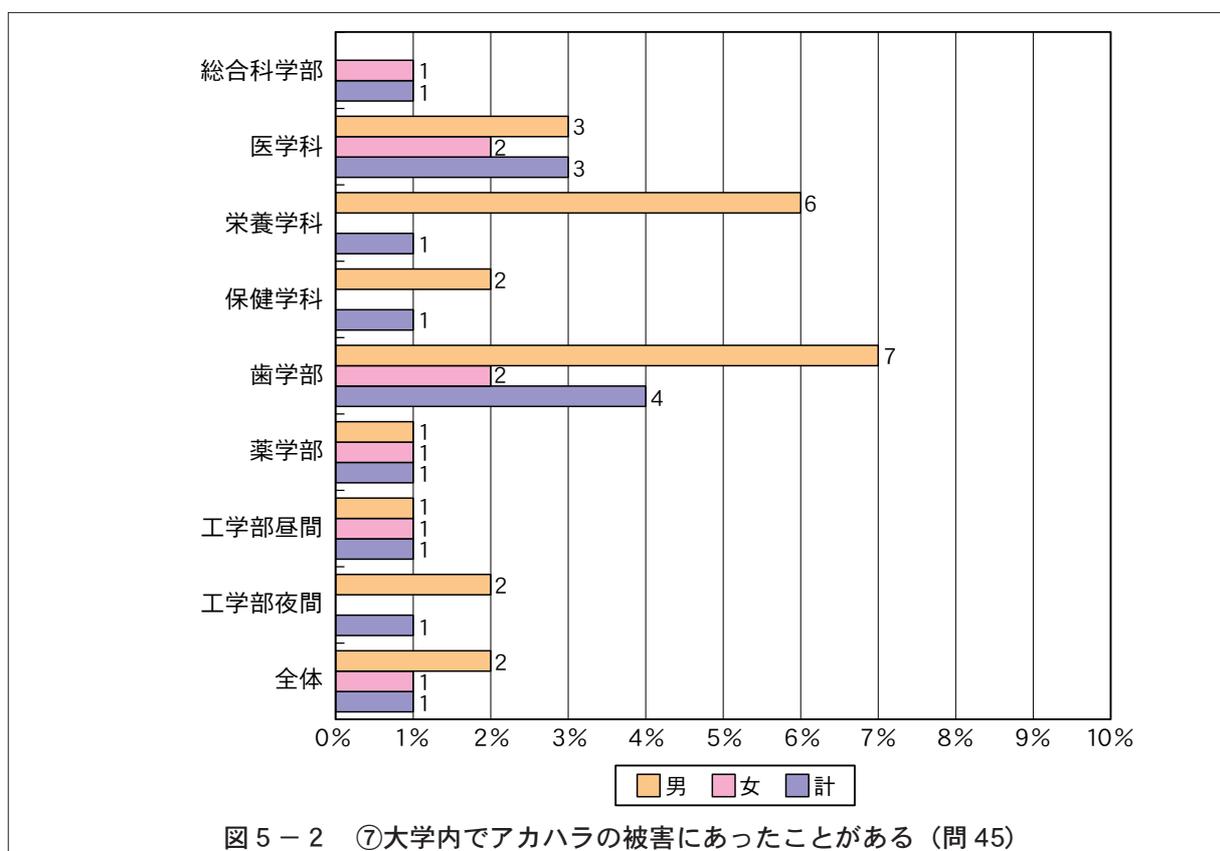
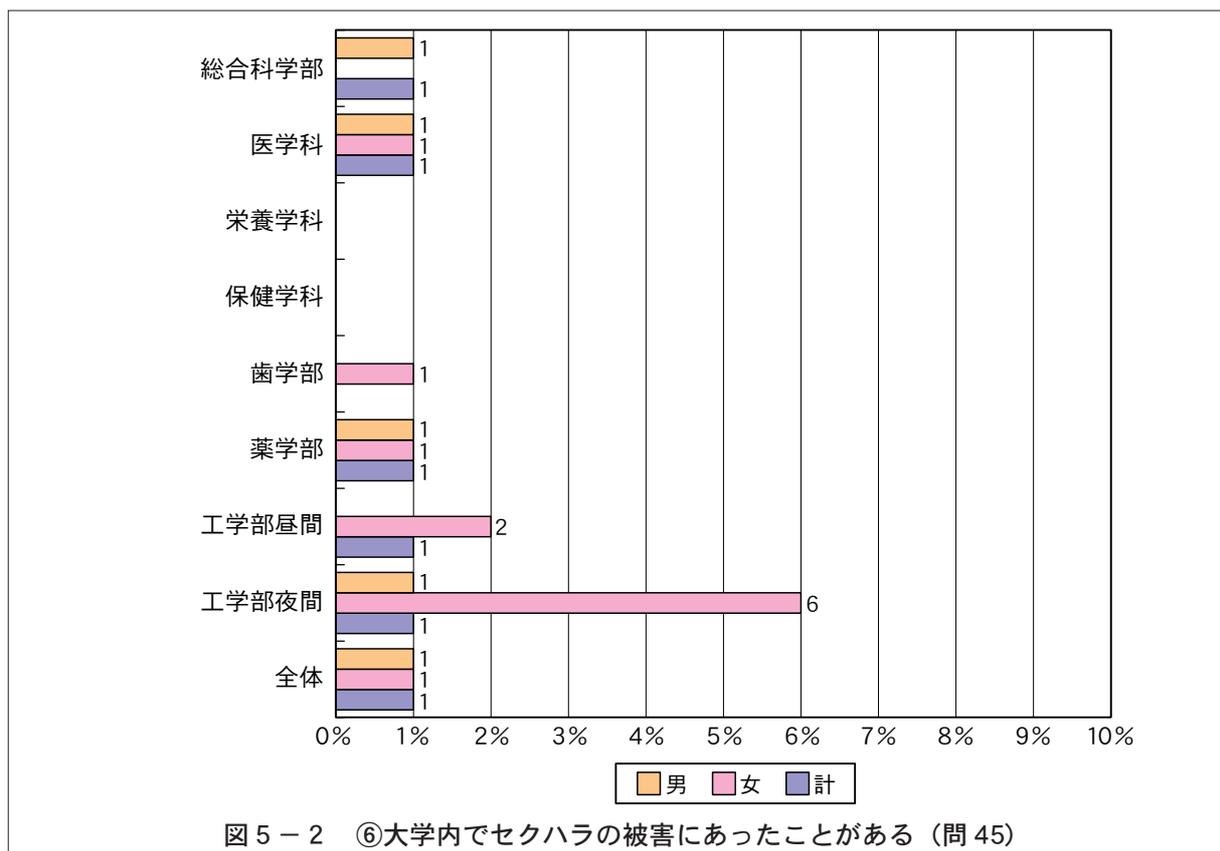
被害学生は男子で11名、女子で6名、合計19名であった。前回は男子20名、女子6名、合計21名であったので合計人数では減少の傾向があるが、セクハラ被害は各学部で発生している。前回と同じく今回も男子が女子を上回っている。男子のセクハラ被害について、何をもってセクハラと判断しているのか調査し内容を把握する必要がある。なお工学部夜間主コースにおいて女子の被害者は1名であるが、母数が小さいために大きい割合になっている。

【大学内でのアカハラ】(図5-2⑦)

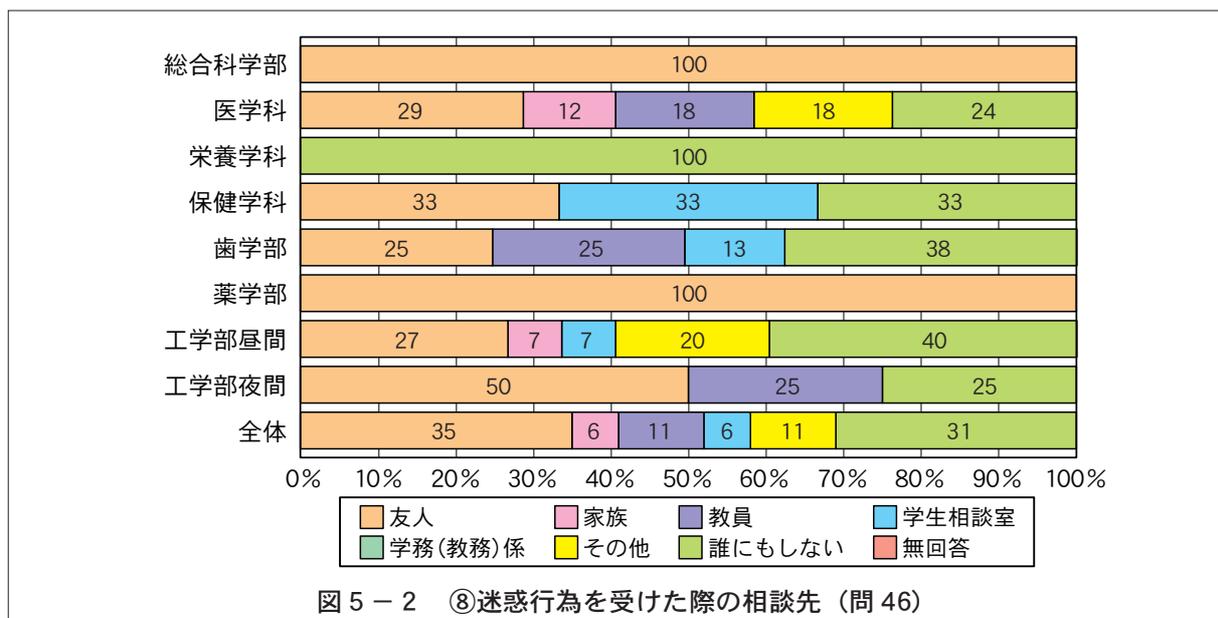
被害学生は男子で33名、女子10名、合計43名であった。前回男子が41名、女子が33名、合計74名であったことを勘案すると、男子、女子とも被害は減少している。医学部、栄養学科、歯学部において被害が増加し、総合科学部と保健学科では減少している。今後とも関係部局は実情の把握を図るとともに、アカハラに対する教員の意識向上に務める必要がある。

【迷惑行為を受けた際の相談先】(図5-2⑧)

迷惑行為を受けた際の相談先として、35%は「友人」を選択している。ついで「誰にもしない」31%、

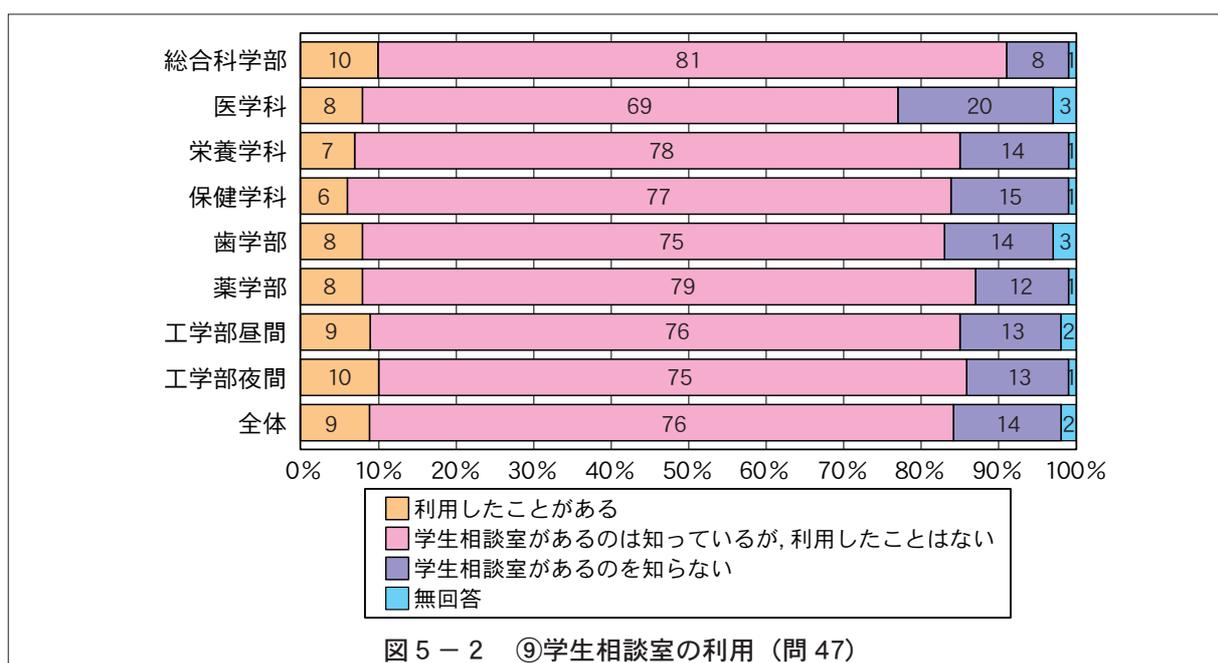


「教員」と「その他」11%、「家族」と「学生相談室」6%であり、「学務（教務）係」は0%であった。前回の結果と比較すると「学生相談室」を選択した学生は増加しているため、広報活動等により「学生相談室」の認識が高まり、来室が容易になっていると考えられる。



【学生相談室】(図 5 - 2 ⑨)

学生相談室を「利用した学生は全体で 9 % であり、前回の 8 % に比べると微増している。実数では 272 名である。「学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない」と回答した学生は 76 % であり前回の 73 % を上回っている。学生相談室の広報活動の成果が少しずつ現れてきているものと思われる。前回は明らかに常三島地区に比べて蔵本地区の利用者が少なく相談室を知っている学生割合も低い値を示した。今回の結果では栄養学科や保健学科で学生相談室を認識している学生数は増加しており、各学部・学科の利用者割合・認識者割合は増加している。「学生相談室があるのを知らない」と回答した学生が全体で 14 % であり、前回の 17 % よりは減少した。しかし学生相談室としては引き続き広報活動を行っていく必要がある。また、セクハラやアカハラなどの相談先として、必ずしも学生相談室が選ばれているわけではなく、31%の「学生が誰にも相談しない」でいる現状を考えると、引き続き学生相談室は広報・啓蒙活動を行ない、一般教職員をサポートしつつ学生の様々な被害の防止に取り組む姿勢が求められる。

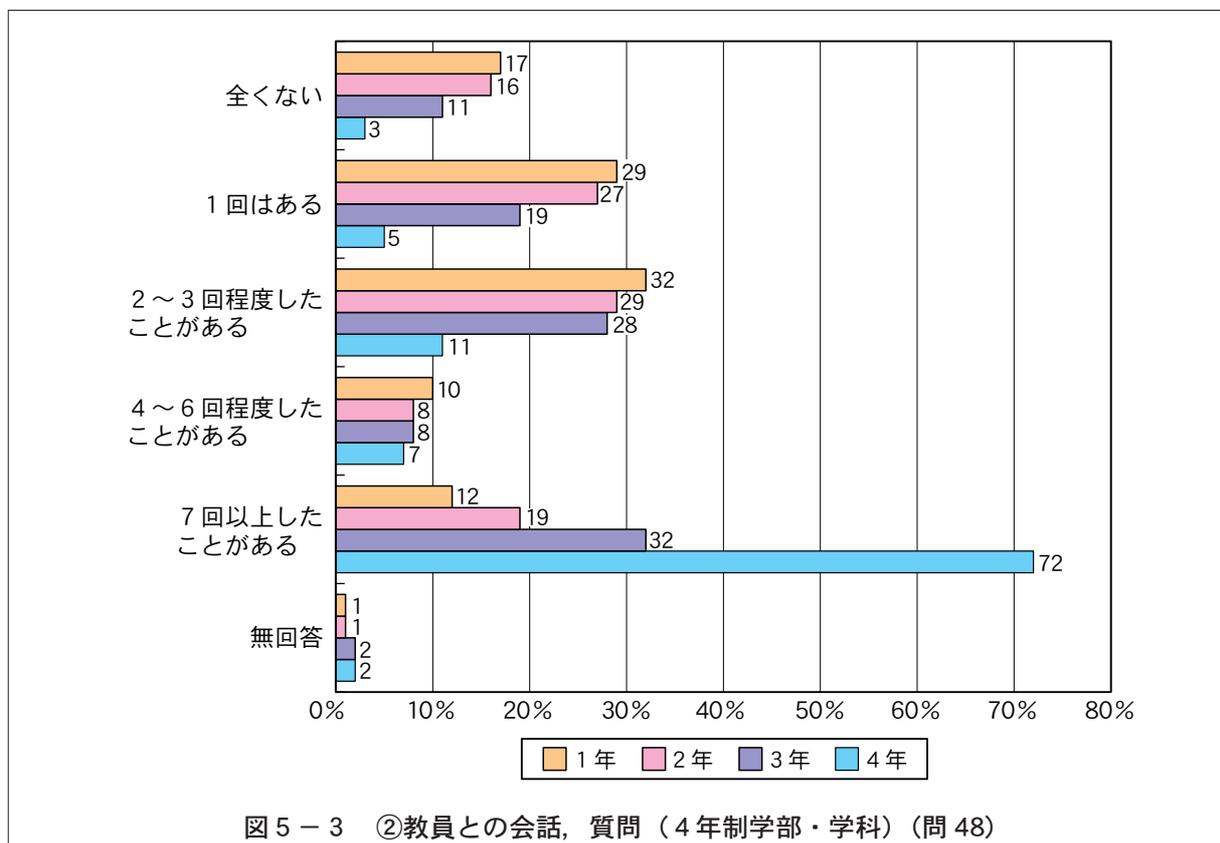
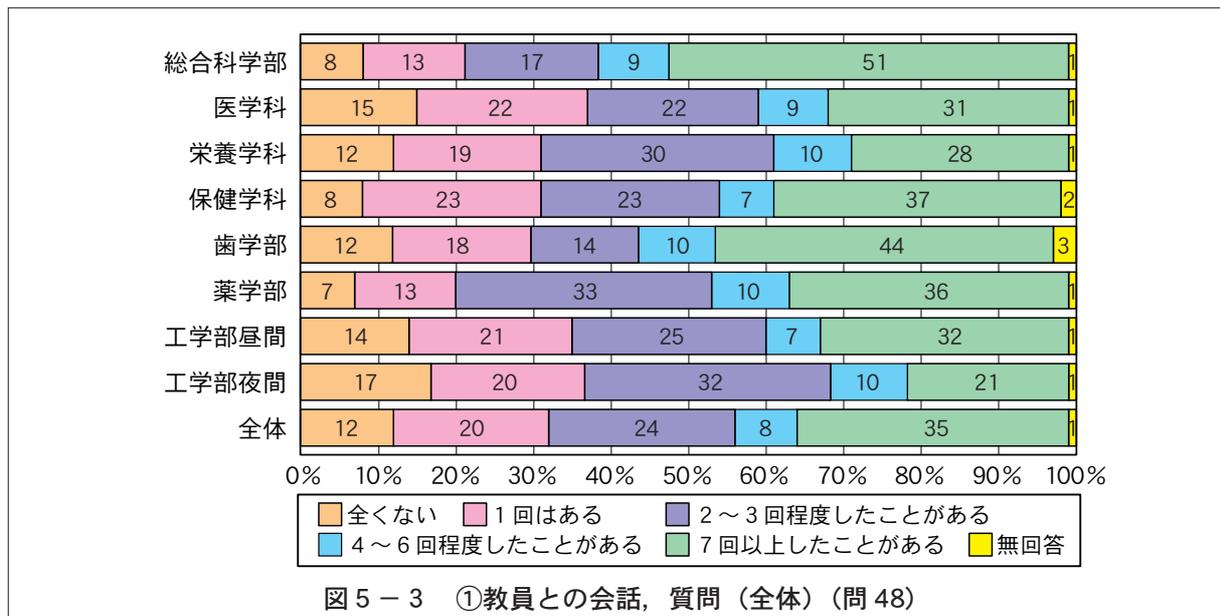


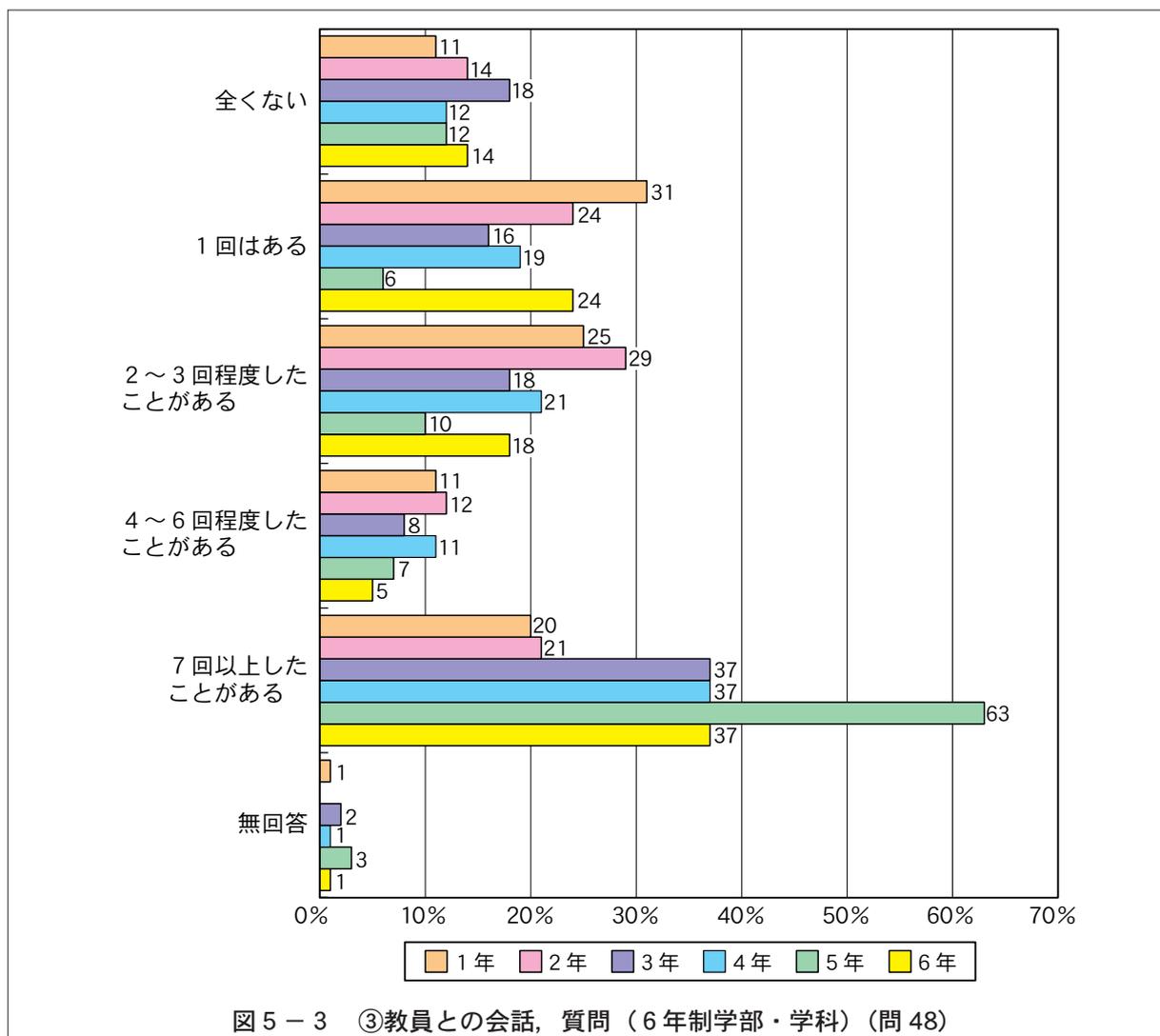
5-3 教職員・友人との交流 (図5-3①~図5-3⑥)

【教職員との会話・質問】(図5-3①~図5-3③)

今年度中に教職員と話や質問をしたことがあるかについて、「7回以上したことがある」と回答したのは、全体で35%である。総合科学部・歯学部が多く、次いで保健学科、薬学部、工学部昼間、医学科の順で、栄養学科と工学部夜間は少ない(図5-13)。

学年別に見た場合、4年制学部(図5-14)では、前回と同様、「全くない」が学年進行につれて減少し、「7回以上したことがある」は逆に増加するが、上昇率が4年生できわめて大きい。卒業論文指導の賜物である。一方、6年制(図5-15)では、「全くない」が3年生で増加する。「7回以上したこと





がある」と答えた学生は、前回と同じく5年生がピークで、6年生で再び減少する。5年生にピークがあるのは、研究室配属などで教員との距離が縮まった結果と思われるが、6年生での現象は、臨床実習が必ずしも教員と学生の交流につながっていないことを示す。

3回以前の調査の分析結果は「教員との会話・質問の回数」と「授業出席状況」や「精神状態」との関連を示しており、出席していない学生の方が教員との会話が多く、「充実している」「いろいろする」「何となく不安」の学生に教員との会話量は多く、「やる気が出ない」「落ち込みやすい」の学生に少ない傾向にある。出席していない学生や、精神的に目立って不安定な学生に対して、教員が積極的に働きかけている様子が伺える。今後は、精神的に不安定なものの目立たない学生に対する働きかけが課題といえる。教員として学生に広く目を配ることのできる体制、学生相談室や保健管理センターとの連携がさらに強化されることが望まれる。

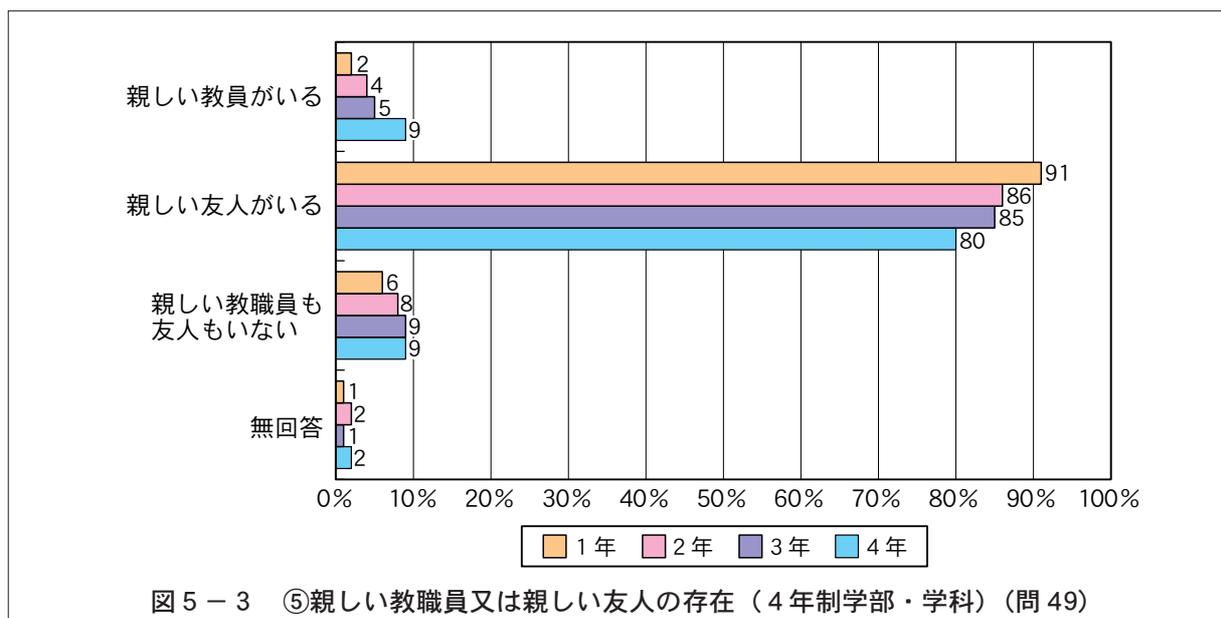
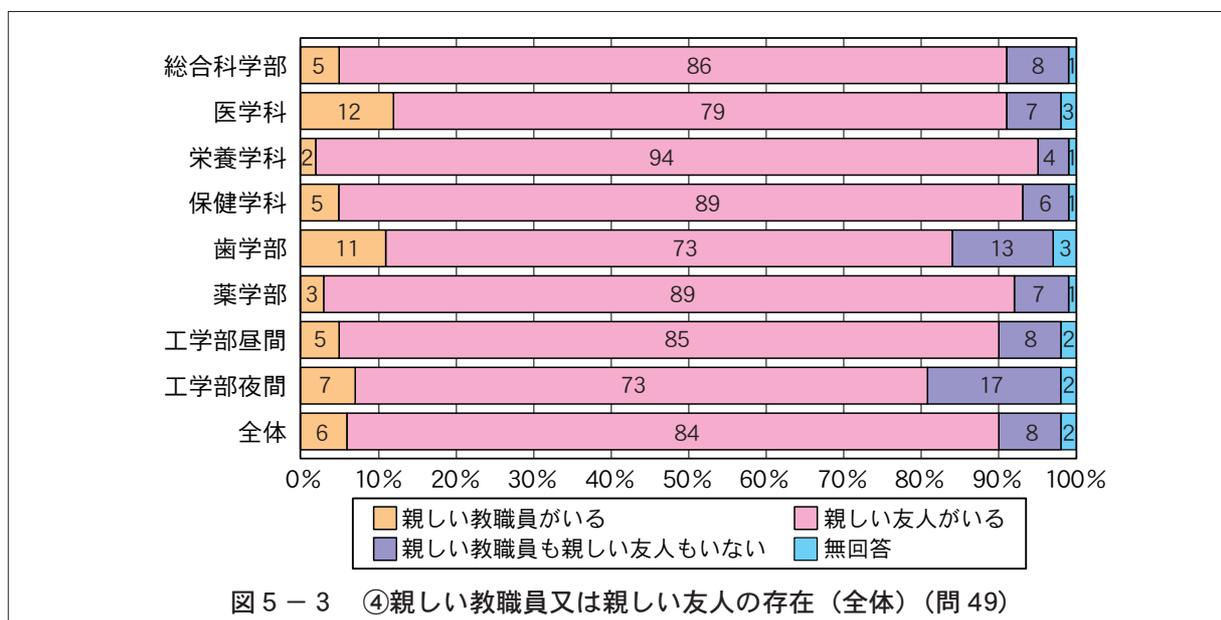
【親しい教職員・親しい友人の存在】（図5-3④～図5-3⑥）

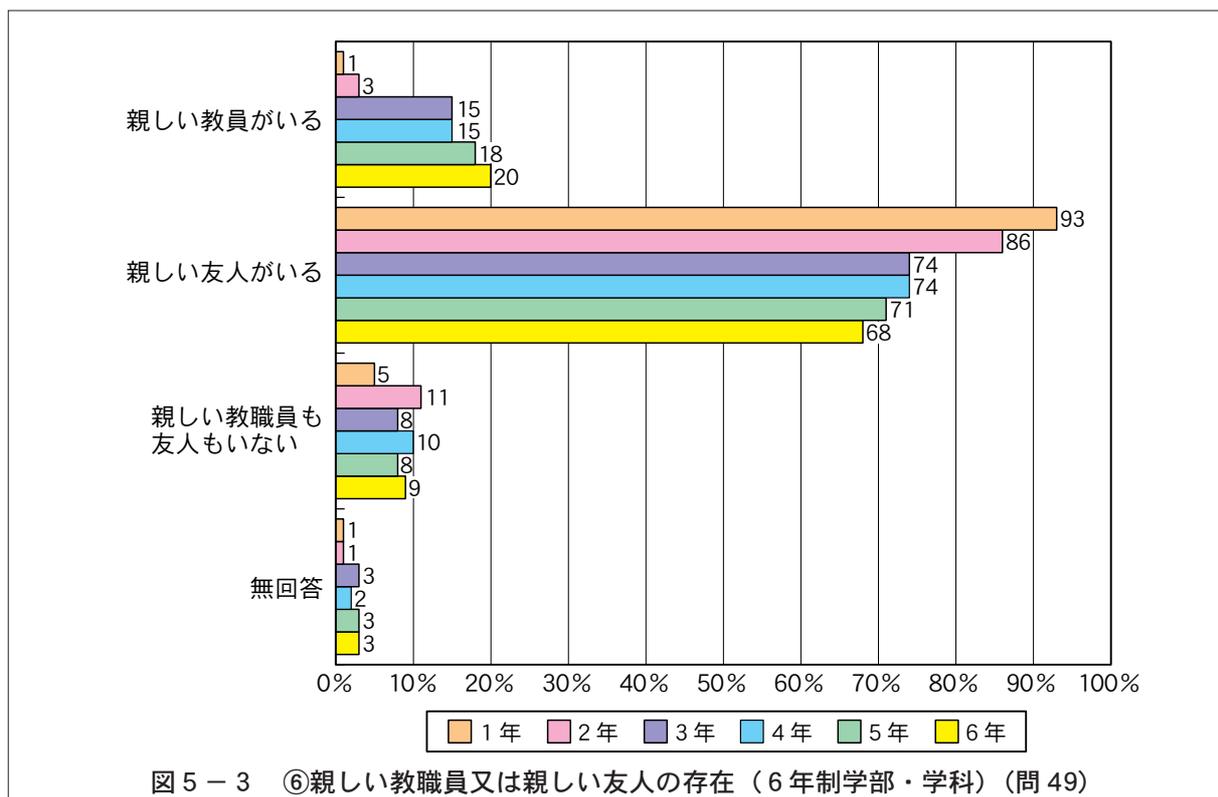
「親しい教職員や親しい友人はいますか」との質問（図5-16）に対して「はい」と答えた学生は、各学部・学科とも80%以上であった。栄養学科が最も多く96%、次いで保健学科94%であり、歯学部と工学部夜間は少なかった。全体では90%の学生が「親しい教職員や親しい友人がいる」と回答している。学年別に見た場合は、4年制（図5-17）と6年制（図5-18）のいずれも、学年進行に伴い親しい教職員のいる比率が高まり、親しい友人は減少している。これは学年が進行するにつれ卒業研究等で

教員との関わりが多くなるためであると考えられる。

「親しい教員がいる」については医学科の12%が最も高く、栄養学科は2%と低い比率を示した。また「親しい友人がいる」については、栄養学科で94%と最も高い。

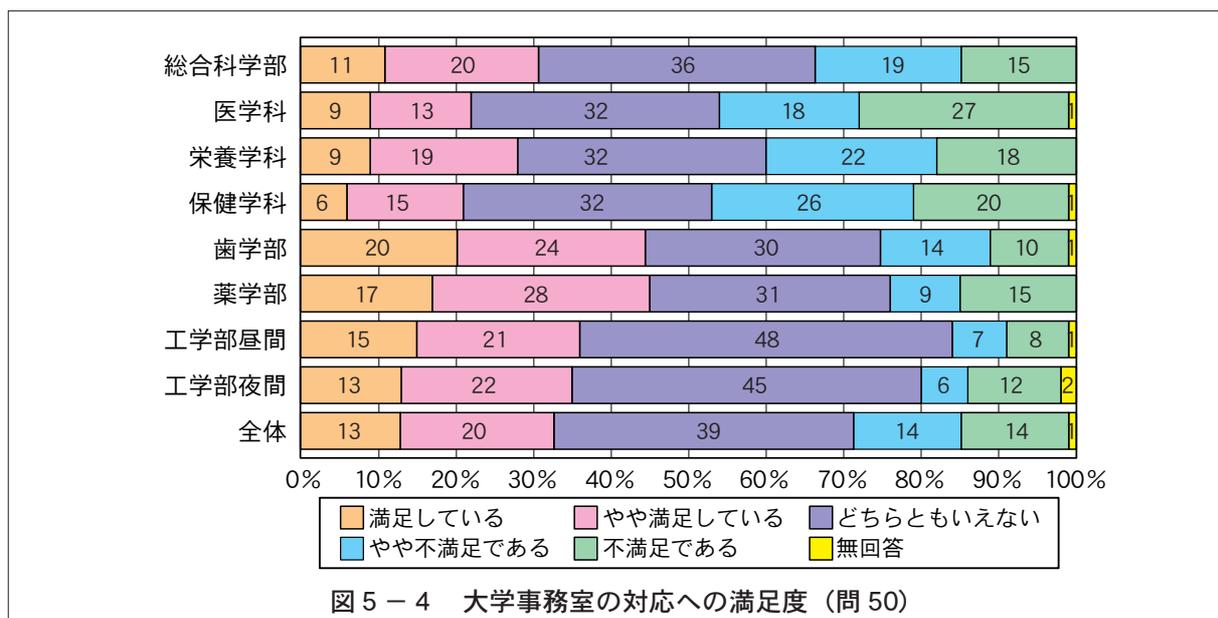
低学年の場合、学生側から積極的に教職員に接触を求めてくることは少ない。学生と教職員の接触が深まるには、なんらかのきっかけが必要で、教職員から積極的に働きかけなければならない。学生と教職員との垣根を低くするには、講義室や事務室での通常の接触以外に立場の枠を弛めた、あるいはより距離の近い接触機会を設けることが必要となる。新入生合宿研修や大学祭はその良い機会である。しかしながら、「学生と教職員の垣根を低くする」ことは、セクハラ・アカハラ・パワハラ等のハラスメントが発生しやすいというマイナス面をもつことも知っておく必要がある。「垣根は低く見えても、垣根を超えない・垣根は無くならない」という意識をもつべきであり、「教員が学生に対しても権限は、教員が考えている以上に大きい」ことを教員は常に意識して、学生と接する必要がある。学生との接し方について、今後ともFDをきめ細かく実施していく必要がある。





5-4 大学事務室の対応への満足度 (図5-4)

「大学事務室の対応に満足していますか」の質問に対して「満足している」と「やや満足している」が全体の33%を占め、「やや不満足である」と「不満足である」の28%を超えた。前は前者が30%、後者が31%であることから、学生の満足度は改善されている。なお満足度は歯学部と薬学部で高く、医学科と保健学科では低い。大学事務室には学生の目線に立ったサービスが求められており、引き続き大学事務室職員の意識変革を行なっていく必要がある。



5-5 盗難等犯罪被害 (図5-5①~図5-5⑤)

【盗難等犯罪被害】(図5-5①~図5-5③)

各学部・学科毎に見ると、14~30%の学生が何らかの犯罪被害に遭っており、全体では22%の学生が被害に遭っている(図5-5①)。前回は13~20%(全体17%)であり、犯罪被害に遭った学生は増加傾向にある。

事件としては、男女を通して、全ての学部・学科で「盗難(盗み)」が最も多く588名の学生が被害にあっている。男女別にみると、男子は「盗難(盗み)」22%(図5-5②)に対し、女子は12%(図5-5③)と少ない。男女全体では工学部夜間が26%で最も多く、ついで工学部昼間23%、医学科17%、総合科学部と歯学部が16%である。

「強盗」は全体で32名が被害にあっている。「強盗」は歯学部が3%、「傷害」は工学部夜間で3%、「痴漢」は保健学科と歯学部が2%で最も多い。栄養学科と工学部夜間を除く各学部・学科で女子は痴漢被害を受けているのが特徴的である。

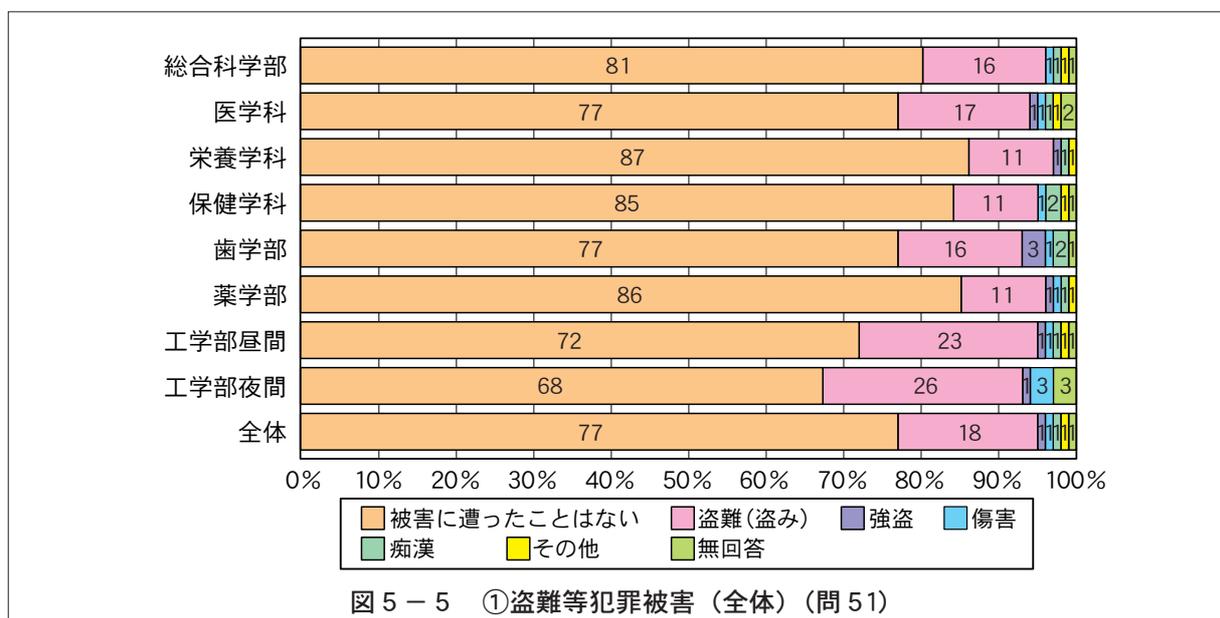


図5-5 ①盗難等犯罪被害(全体)(問51)

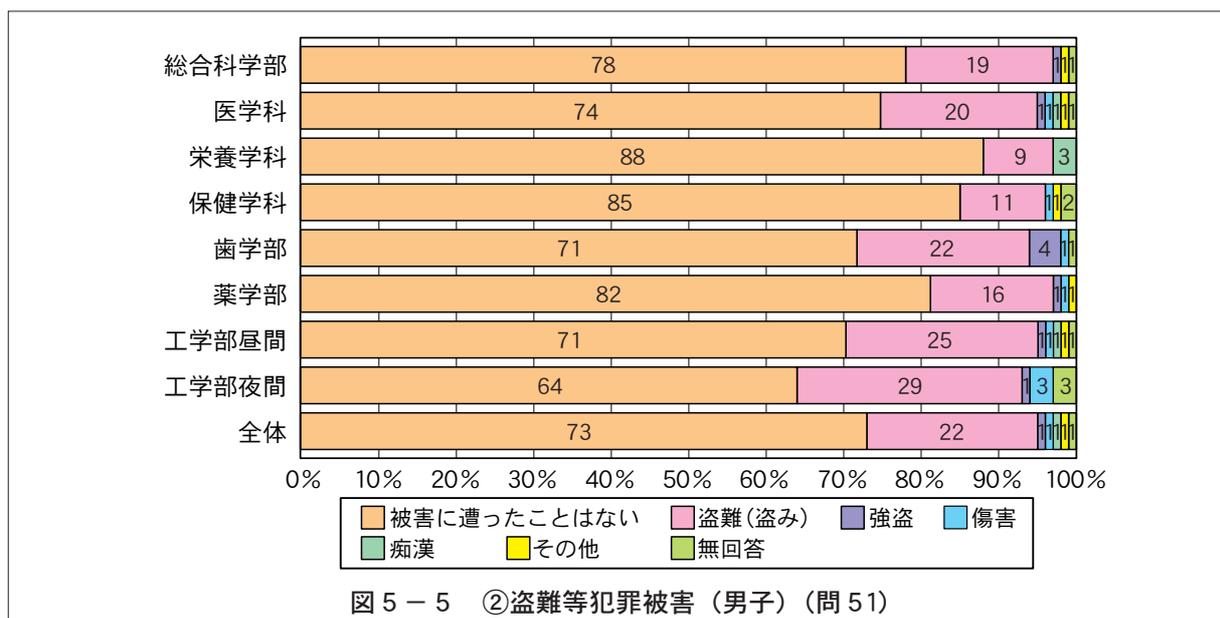
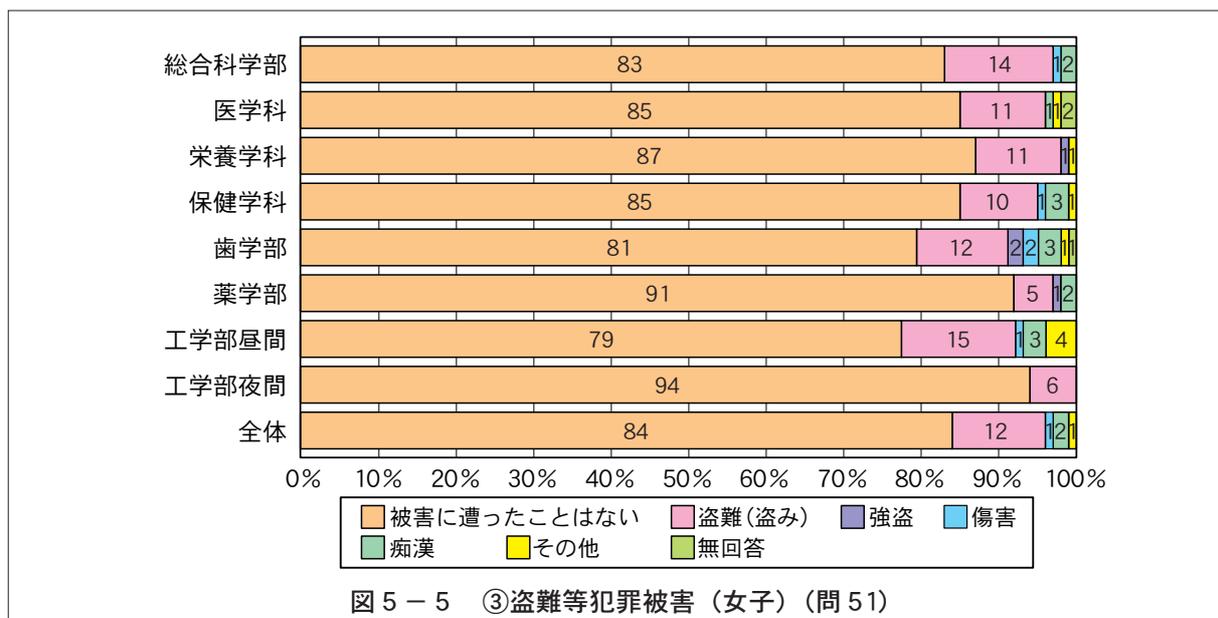


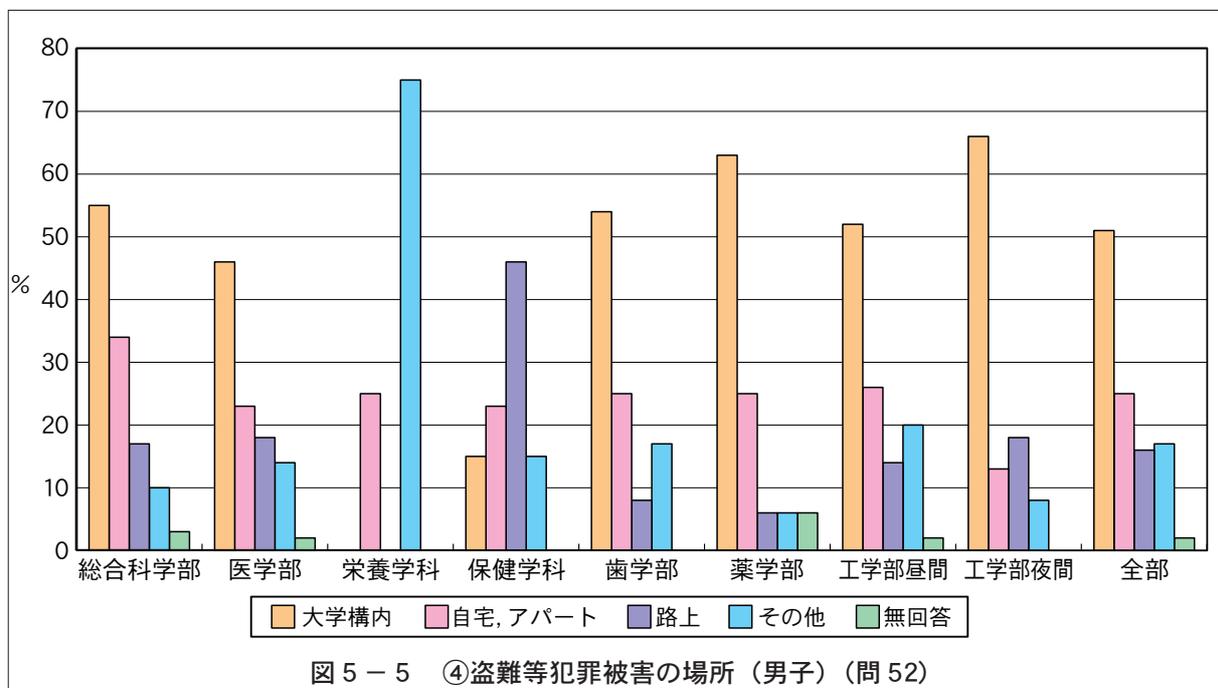
図5-5 ②盗難等犯罪被害(男子)(問51)



【盗難被害場所】(図 5-5④, 図 5-5⑤)

盗難(盗み)等の犯罪被害に遭った場所については、ほとんどの学部・学科において、「大学構内」で被害に遭ったとしている。

大学内での盗難(盗み)の予防としては、「現金・貴重品を肌身につけておく」ことを周知徹底させる以外にない。また、学内に起こった盗難等犯罪被害については、その概要をいち早く全学に通知し、注意を呼びかけることが必要である。盗難等犯罪被害時の警察官の立入りについてはガイドラインが作られている。全学や学部の学生委員会委員が交代する際に必要な知識が伝わるよう、適切なマニュアルを作成する必要がある。



(※問 52 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

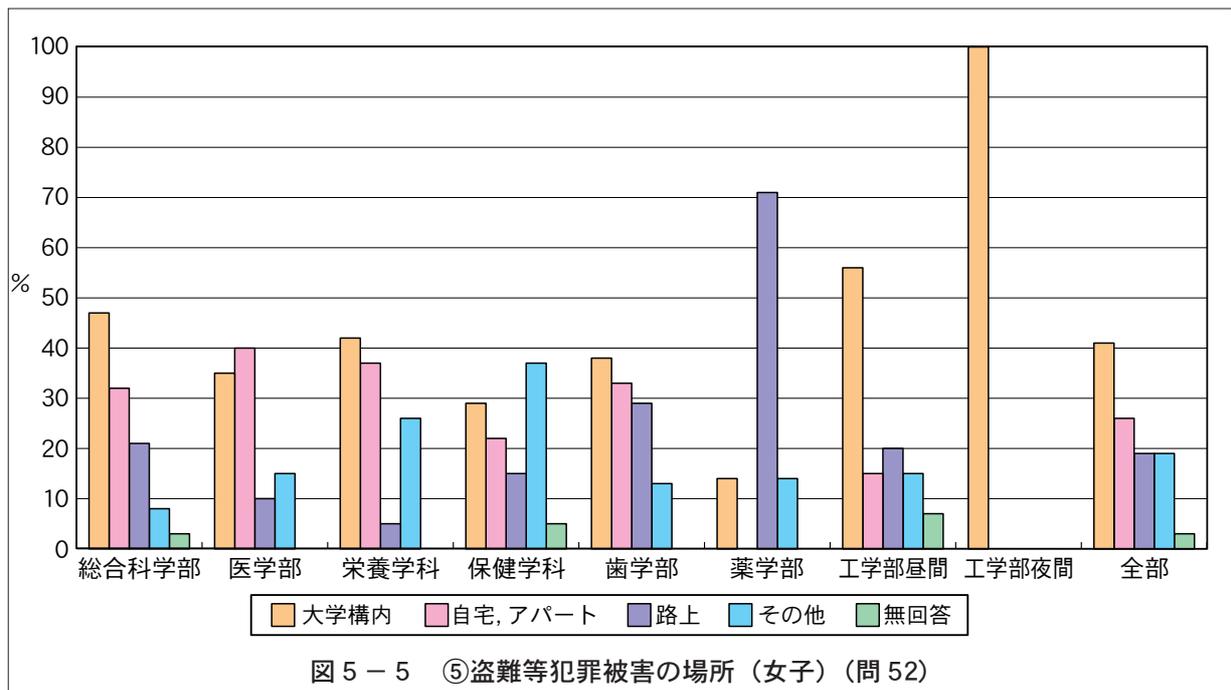


図 5 - 5 ⑤盗難等犯罪被害の場所 (女子) (問 52)

(※問 52 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

図6-1①は、本学を選んだ理由についての調査結果である。全体の平均で見れば、本学を選んだ理由として、「国立大学であること」が45%と最も多く、次いで、「地元の大学であること」、および、「希望の学部・学科があること」が同程度で続いた。この結果は前回と類似している。「地元の大学であること」については、薬学部と歯学部では他に比べて低かった。薬学部、および、歯学部は数が少なく、他府県出身者が多いからだと考えられた。「希望する学部・学科があったから」、および「就職等将来を考慮して」など、目的意識に関する理由については薬学部が79%と最も多く、医学部、および、歯学部が続いた。この結果は前回と類似しており、卒業後の仕事の専門性や明確さが影響しているのではないかと考えられた。工学部昼間、工学部夜間、および、総合科学部においては卒業後の具体的な進路の広報に力を注ぐことが重要であると考えられた。

図6-1②は、所属学部・学科に対する満足度を調べた結果である。全体の平均、および、各学部と

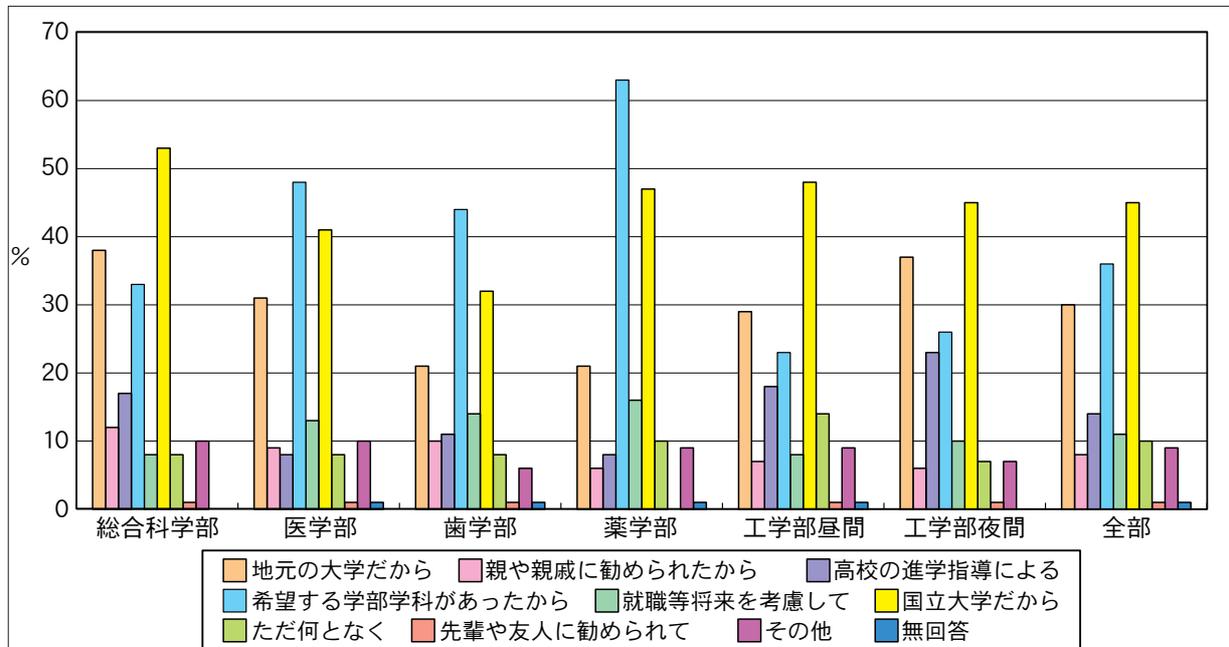


図6-1 ① 本学を選んだ理由 (問 53)

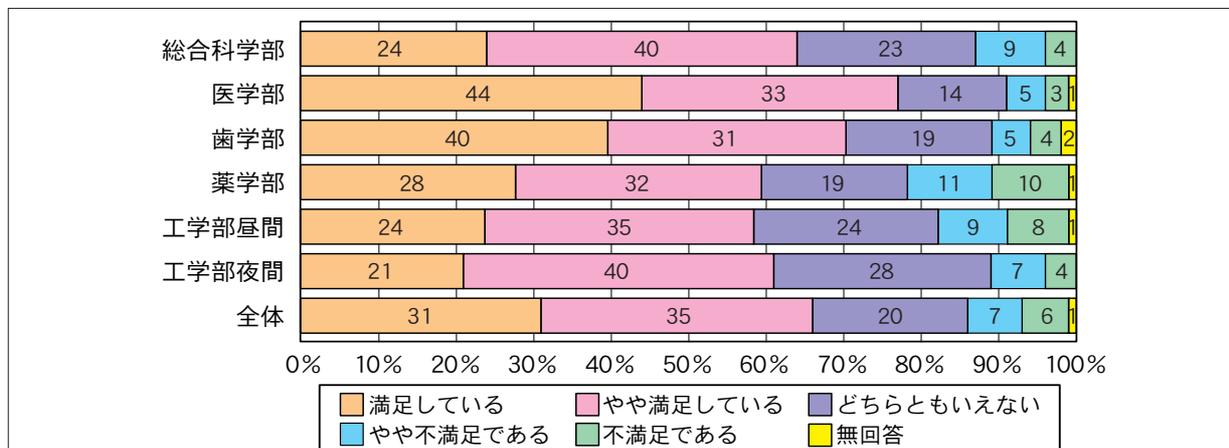


図6-1 ② 所属学部満足度 (問 54)

もに類似の傾向であり、「満足している」、および、「やや満足している」を合わせると過半数を超えた。満足度の高い学部は医学部、および、歯学部であった。満足度の低い学部は工学部昼間、工学部夜間、総合科学部、および、薬学部であった。特に、薬学部では「やや満足している」が昨年度よりかなり減少したのが目立った。

6-2 単位取得状況と授業出席状況 (図6-2①~図6-2④)

図6-2①はこれまでの単位取得状況を示す。取得状況は昨年度と類似した。工学部昼間、および、工学部夜間が他よりやや低いが、概ね良好であった。しかし、単位取得状況は直接留年や退学に繋がるので可能な限り高い状況を維持するのが重要である。

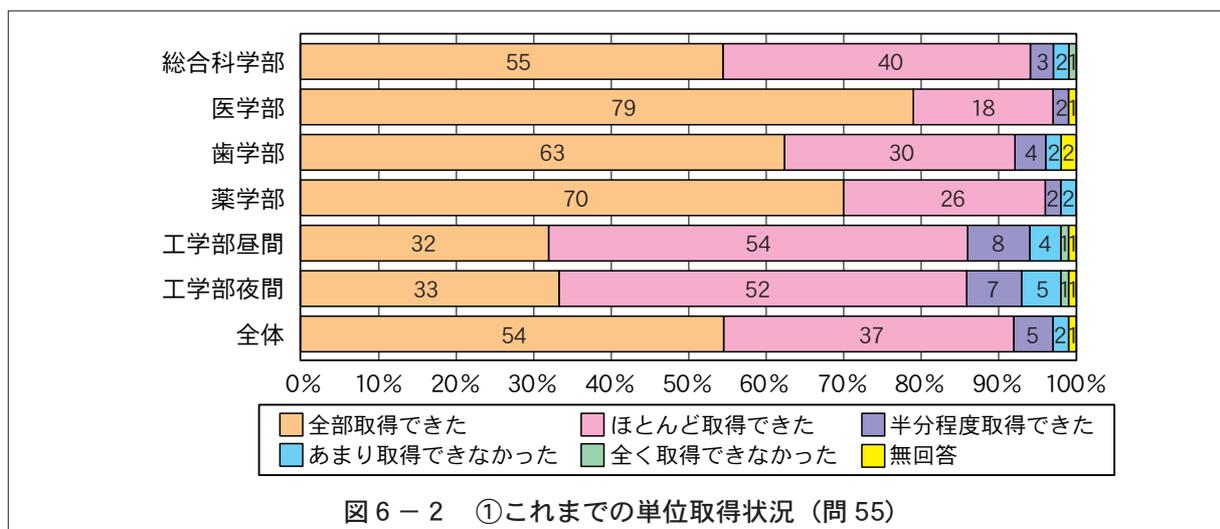


図6-2②は授業への出席状況である。全学部を通じて類似の傾向があり、約10%の学生の出席状況の不十分なところが問題点である。僅かではあるが、薬学部の出席状況が最も良好であった。

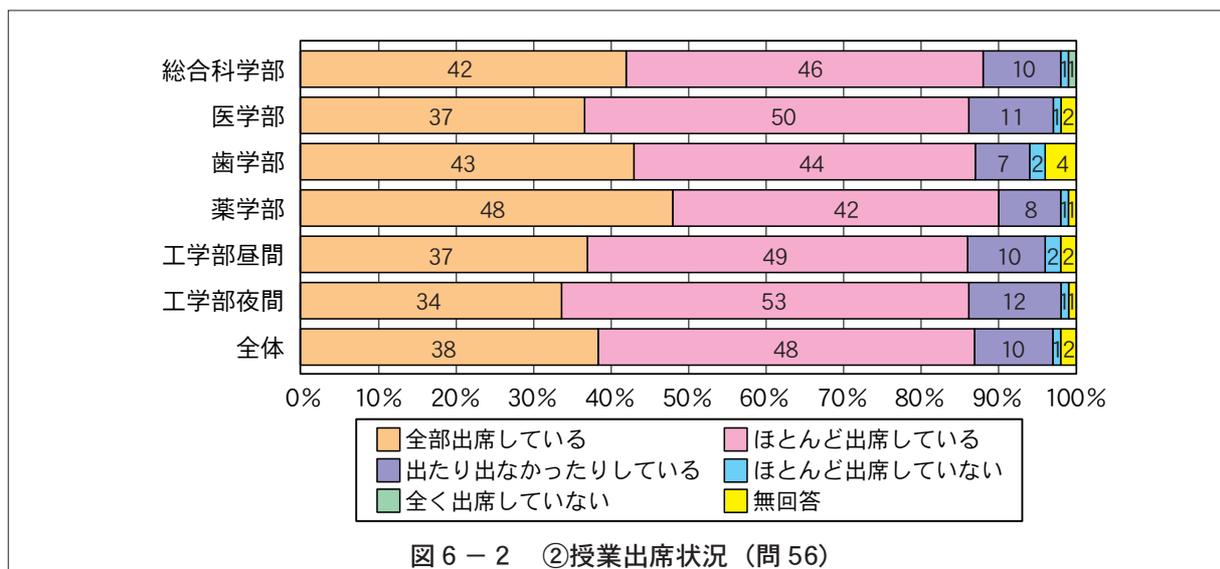
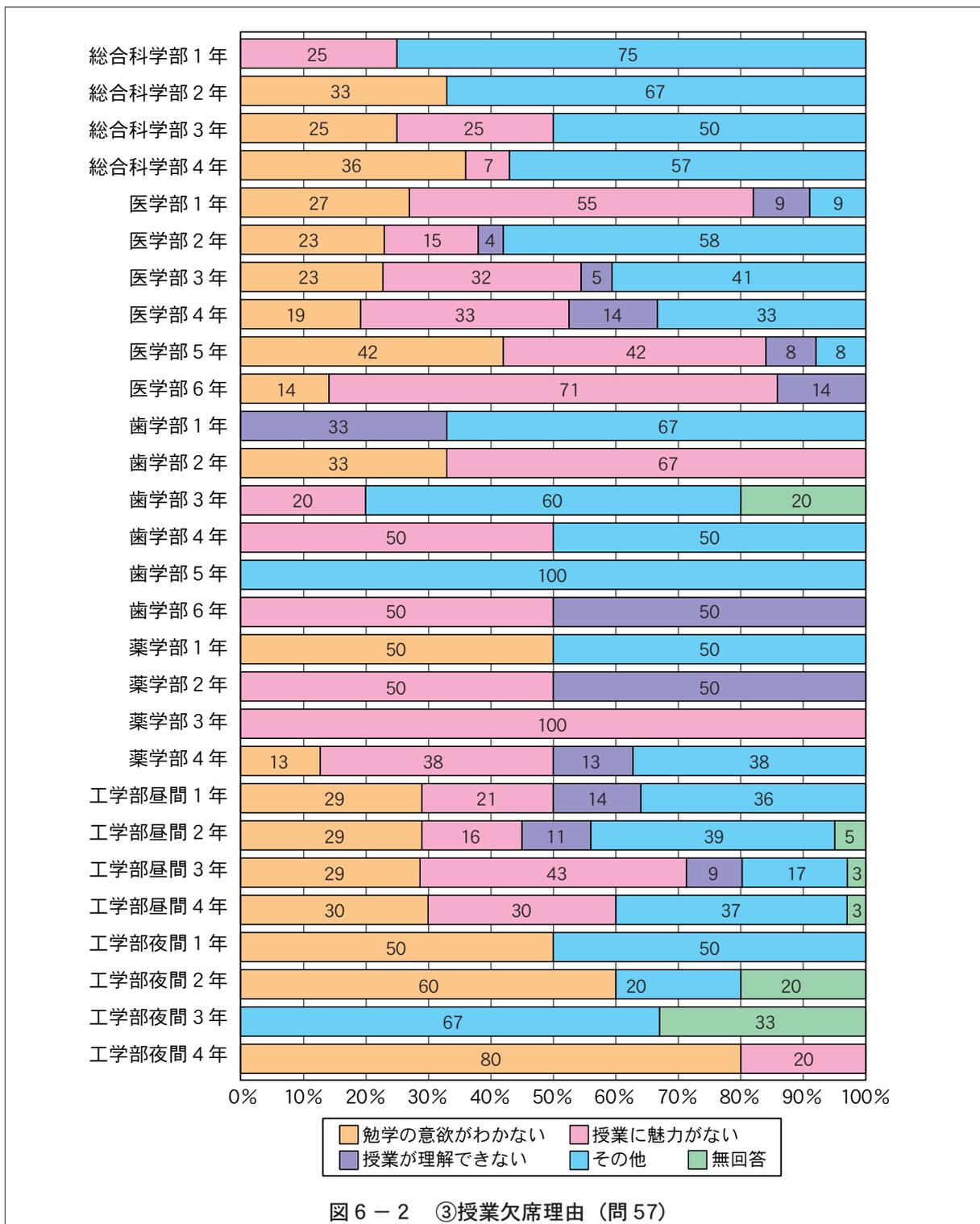


図6-2③は授業の欠席理由を示すが、学部間で特徴的である。薬学部、および、歯学部では低学年において「勉学の意欲が湧かない」、高学年では「授業に魅力がない」という理由が見られた。一方、総合科学部、医学部、および、工学部昼間では「勉学の意欲が湧かない」と「授業に魅力がない」が常に存在した。また、歯学部、および、薬学部で「授業が理解できない」という理由の多い学年があり、授業内容の難しい科目の特定が必要であると考えられる。工学部夜間において、「勉学の意欲が湧かない」

という理由を挙げるのが他の学部比べて高かった。



6-3 授業の満足度 (図 6-3①, 図 6-3②)

図 6-3①は授業の満足度を示す。前回の調査結果と類似しており、「満足している」、および、「やや満足している」を合わせた満足度の全体平均は 50%をやや下回った。各学部においては、総合科学部、歯学部、および、医学部の満足度は高く、工学部夜間、工学部昼間、および、薬学部の満足度は低かった。

図6-3②は授業が満足できない理由を示したものである。各学部間で程度の差はあるが、「授業内容がつまらない」、「教員の教え方に工夫が足りない」、および、「授業内容が難しすぎて理解できない」の3つが主要な理由であった。薬学部における授業の満足度が学部間で最も低い理由について、薬学部における多彩な授業内容に一因があるのではないかと考えられる。他の学部と比べて、薬学部では物理学、化学、および、生物学の3つの理科の分野に跨った授業が行われている。ところが、大学入試の際に通常は2つの理科科目で受験するので、大学の授業に対応が難しいのではないかと考えられる。

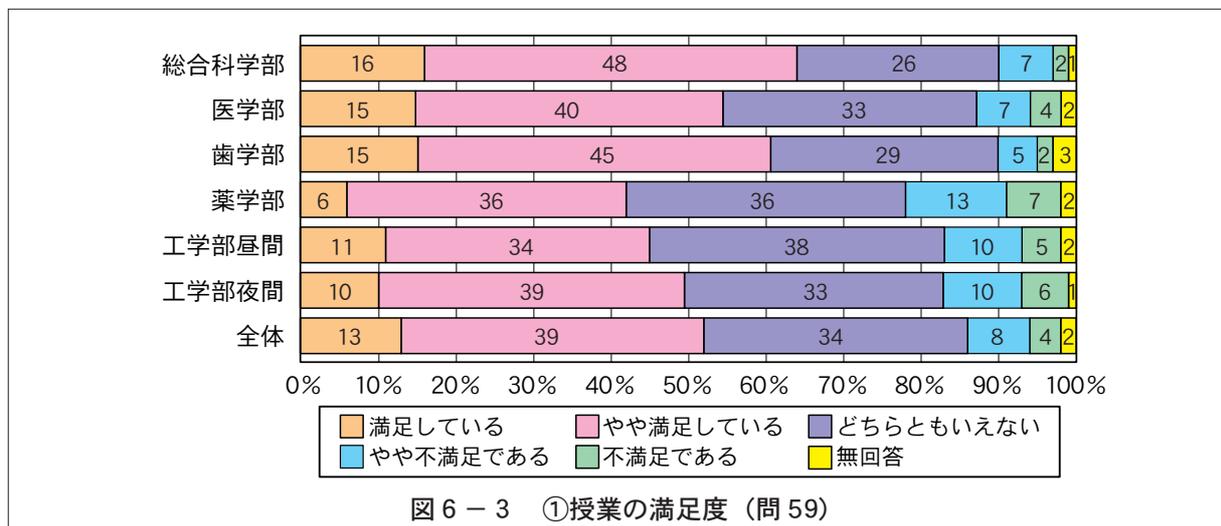


図6-3 ① 授業の満足度 (問59)

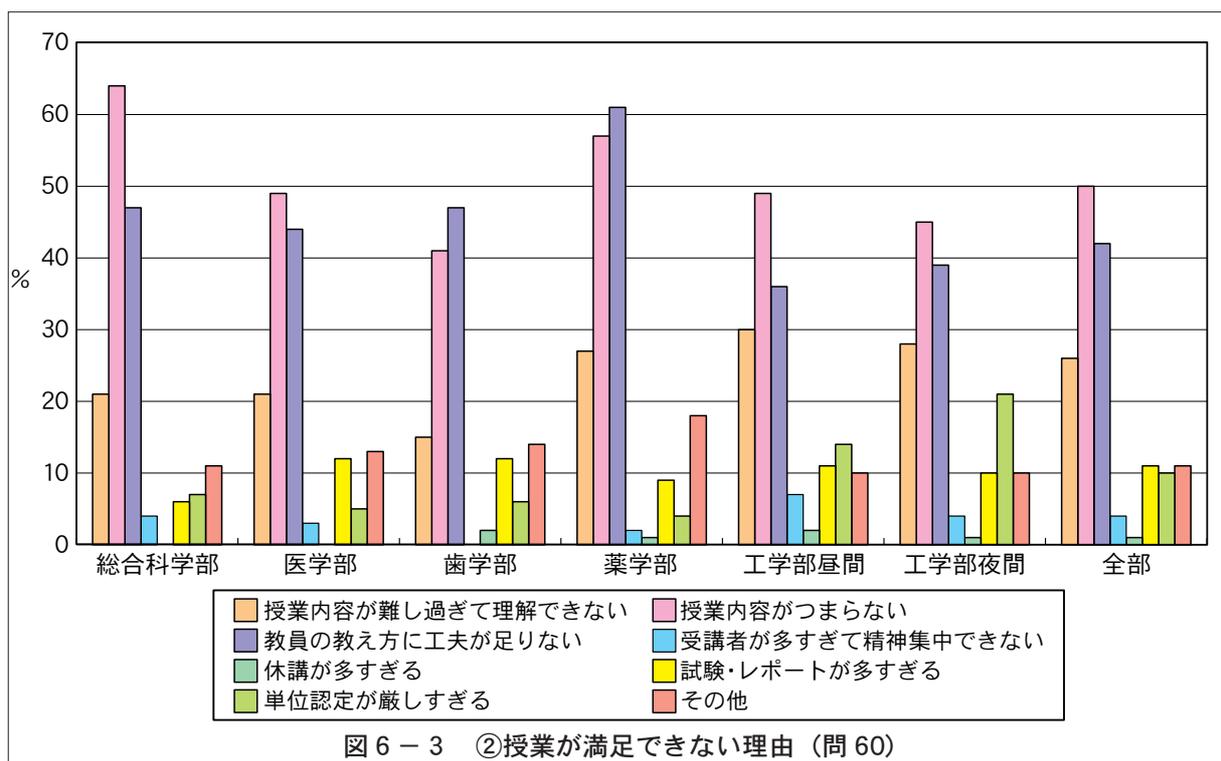


図6-3 ② 授業が満足できない理由 (問60)

(※問60は複数回答のため合計は100%にはならない。)

6-4 授業予習復習時間とカンニング経験 (図6-4①, 図6-4②)

図6-4①は各学部における学生の授業予習復習時間を示す。全学部の平均において、1時間未満の予習復習が60%~70%を占めており、学習時間は短い。しかし、前回と比べて1時間の学習時間は減少している。各学部について見ると、歯学部、および、医学部の1時間未満の学習時間の学生の割合がそ

れぞれ 56%, 57%と最も少なく、総合科学部, 工学部, および, 薬学部の順に増加する。予習復習の学習時間をどうすれば 1 時間未満からもっと長くなるかが課題である。

図 6 - 4 ②は学生のカンニング経験を示す。全学の平均においても各学部においても、カンニング経験の割合は前回の調査より減少した。各学部のカンニングに対する厳密な取組姿勢が効果を発揮していると考えられる。

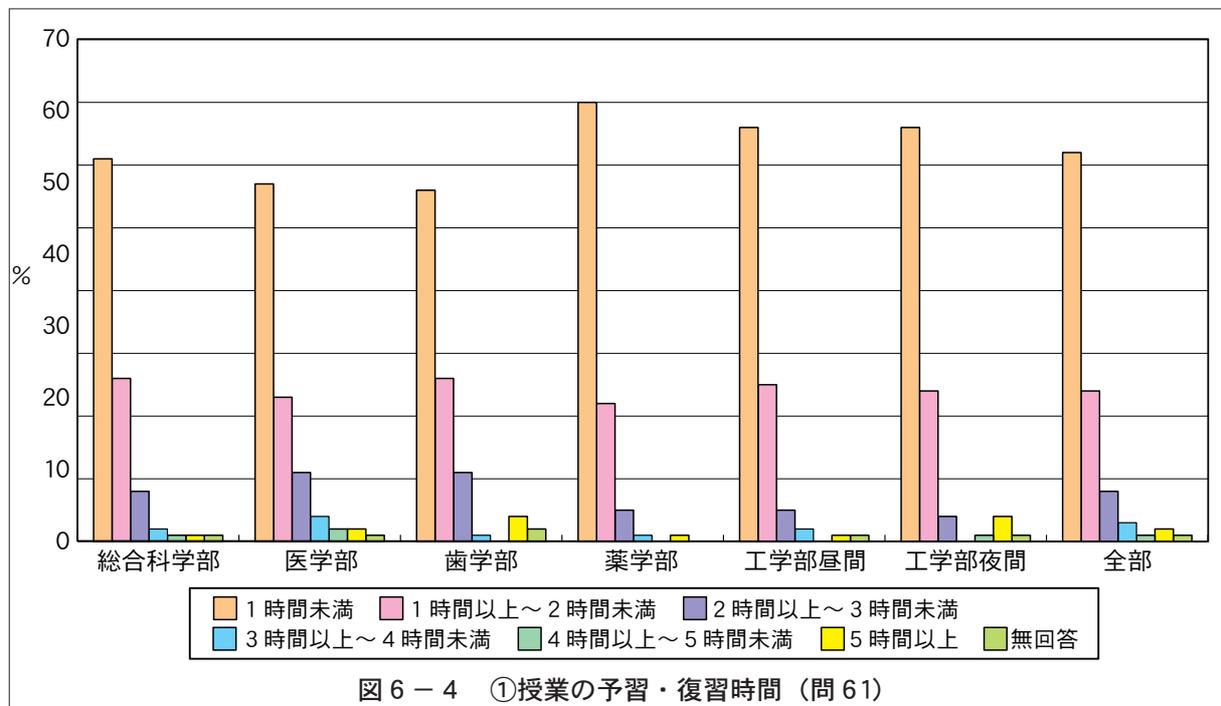


図 6 - 4 ① 授業の予習・復習時間 (問 61)

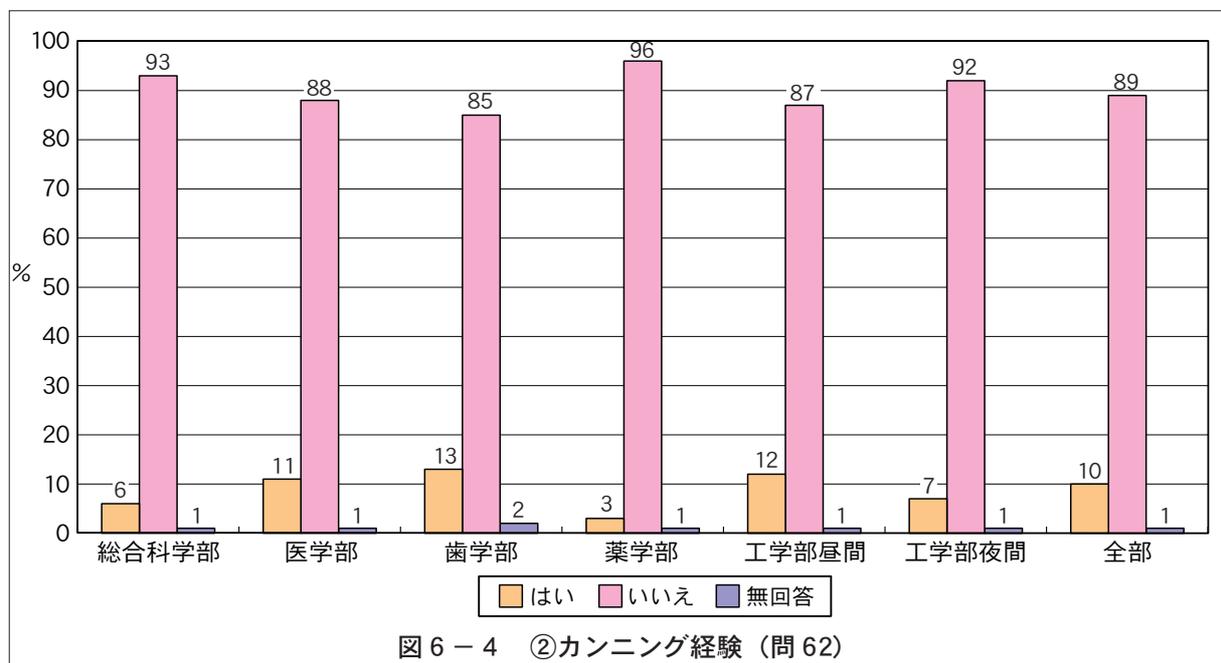


図 6 - 4 ② カンニング経験 (問 62)

6 - 5 オフィスアワーの利用状況 (図 6 - 5 ①, 図 6 - 5 ②)

図 6 - 5 ①はオフィスアワーの利用状況を示す。全学部の平均では利用状況は前回と同様である。しかし、医学部, および, 歯学部では減少した。逆に、薬学部, および, 工学部夜間では増加した。総合科学部, および, 工学部昼間では変化は殆どなかった。医学部, および, 工学部夜間ではオフィスアワー

について「知らない」学生が多く、前回の調査に比べて変わっていない。これらの学部ではオフィスアワーの周知が重要であると考えられる。ところが、薬学部では前回の調査では「知らない」学生が多かったのに対し、今回の調査では「知らない」がたいへん減少した。この減少が薬学部における利用状況の増加に結びついたと考えられる。利用状況の増加が望ましいが、学部によっては担任制度が充実し、オフィスアワーの必要性が減少している可能性もあると考えられる。

図6-5②はオフィスアワーを利用しない理由を示す。各学部において「教員に相談するのが面倒である」という理由の割合が24%～33%と最も多く、「講義内容を充分理解できるのでその必要がない」、「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」、「オフィスアワーの時間以外に何時でも利用できる」、などの理由がある程度の割合で続いている。質問の内容が変わったので前回の調査と比較は難しいが、オフィスアワーの周知は進んでいると思われる。オフィスアワーを利用しない理由から、オフィスアワーの積極的な利用に繋がる方法を考えるべきである。

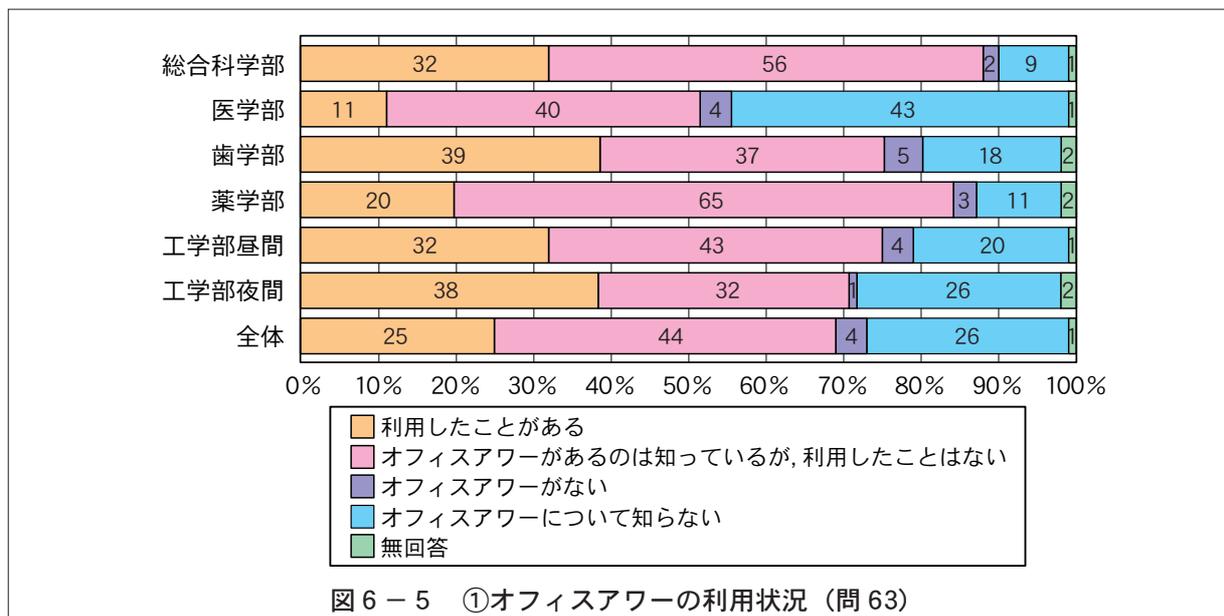


図6-5 ①オフィスアワーの利用状況 (問63)

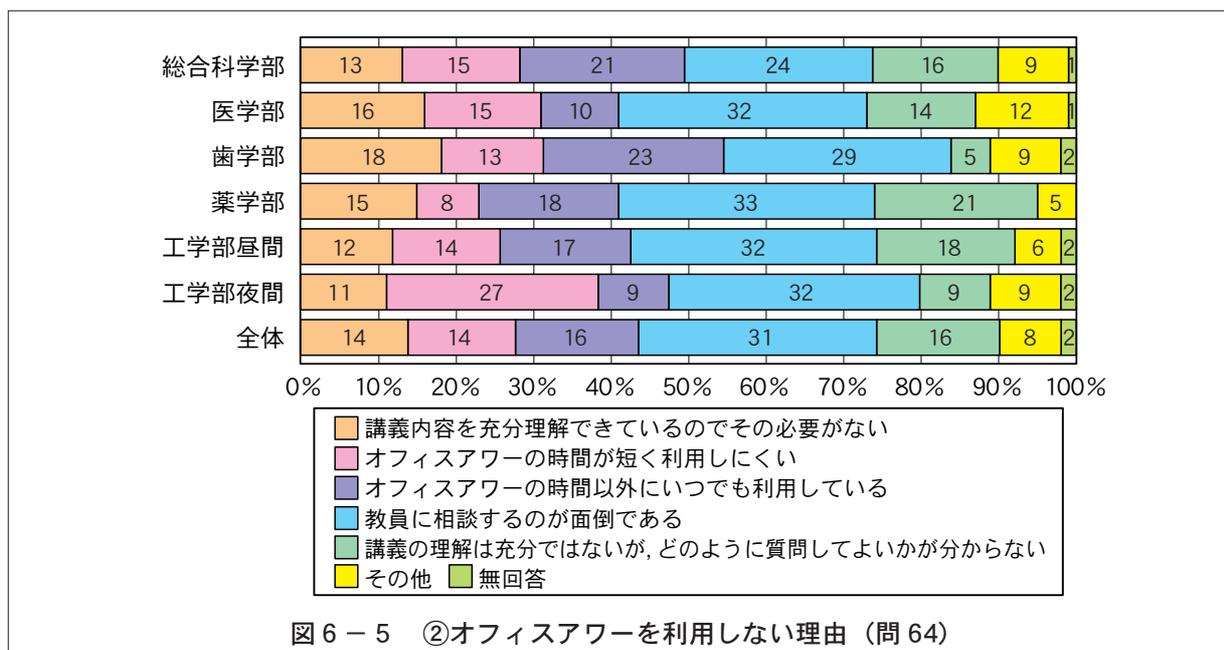


図6-5 ②オフィスアワーを利用しない理由 (問64)

6-6 図書館の利用状況 (図6-6①, 図6-6②)

図6-6①は図書館の利用回数を示す。全学部平均で見ると、利用頻度の割合は前回の調査とほぼ同様であった。各学部で見ると、総合科学部、および、工学部夜間のそれぞれ「月1回」と「利用しない」、および、「利用しない」がより前回より減少しており、利用頻度が増加した。逆に、工学部昼間の「利用しない」が前回調査より増加した。また、薬学部の「月1回程度」と「利用しない」が前回と同様に多いことが特徴的であった。薬学部の場合、3年生後期より研究室配属がなされており、各研究室において、情報収集にインターネット利用する割合が高いことが利用度の低い理由である可能性が考えられる。

図6-6②は図書館について感じていることを示す。全学部平均で見ると、「貸し出し・返却が容易」などのプラスの評価が多い反面、「開館時間が短い」などのマイナス評価も多い。「開館時間が短い」については前回の調査より増加しており、真剣に対応すべき内容であると考えられる。また、「特にない」という最も多い意見に対し、具体的な評価を得られるように図書館側からのサービスの充実を図るべきである。

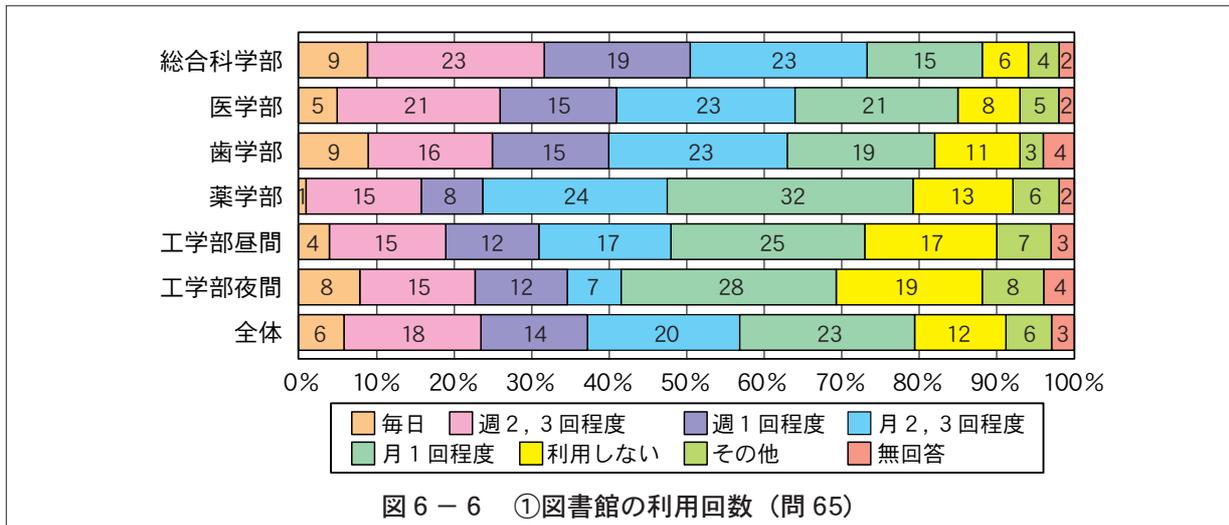


図6-6 ①図書館の利用回数 (問65)

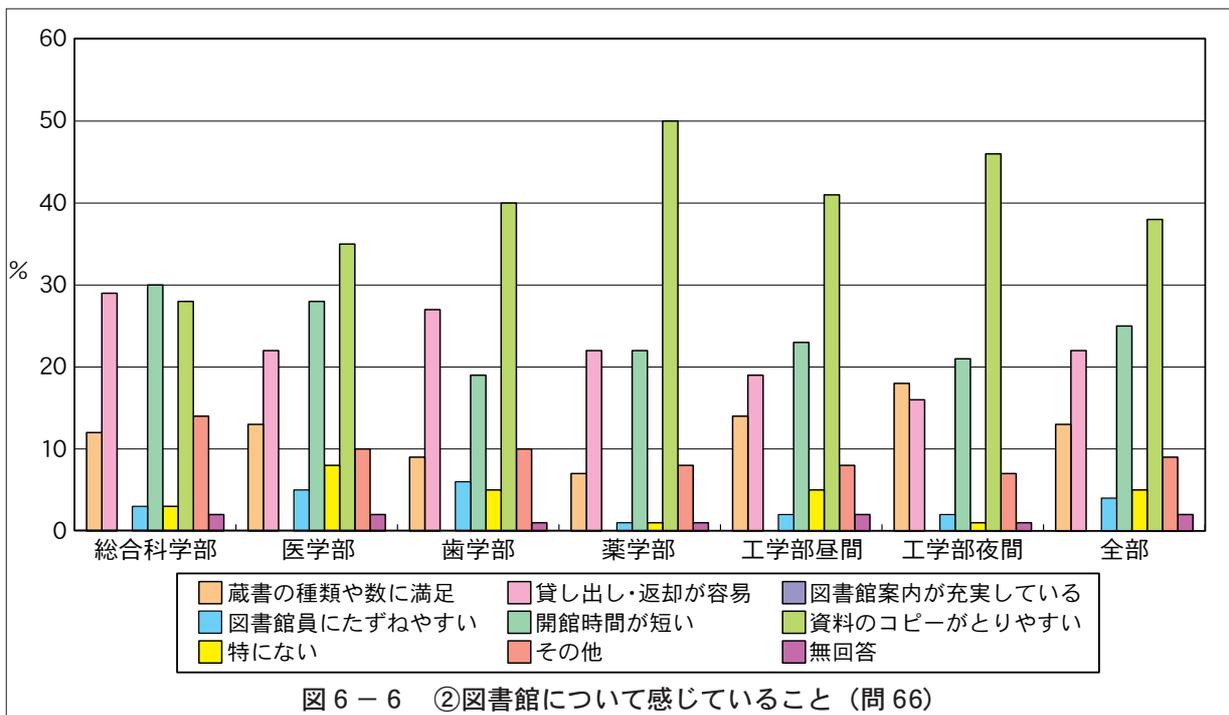


図6-6 ②図書館について感じていること (問66)

(※問66は複数回答のため合計は100%にはならない。)

第7章 課外活動について

7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

<加入率>

サークルへの加入率は、全体で62%を占めている。体育系サークルと文化系サークルの比較では学内及び学外で体育系40%、文化系22%であり、体育系サークルへの加入率が高い。前回調査との比較では、「学内体育系サークル」は38%で前回(37%)と同様であり、「学内文化系サークル」は21%で前回(18%)より微増であった。「以前加入していたが現在は加入していない」は15%、「加入したことがない」は20%を示し、加入していない学生は5ポイント減少している。サークル加入率は、前回調査時より微増の傾向を示している。

学部別のサークル加入状況(図7-1①)は、歯学部、薬学部、医学部では72~75%の学生が学内及び学外のいずれかの体育系、文化系サークルに加入している。また、文化系サークルへの加入者が最も多いのは総合科学部(31%)であり、体育系サークルでは医学部(52%)、歯学部(51%)、薬学部(50%)の3学部で加入率が高い。加入率が低いのは工学部夜間で、体育系、文化系の両サークルへの加入率は合計で44%であるが、前回調査に比べれば9ポイント増加している。

学部別加入率傾向は前回調査時と同様の傾向を示している。「以前加入していたが現在は加入していない」割合は15%あり、前回(16%)より微減である。

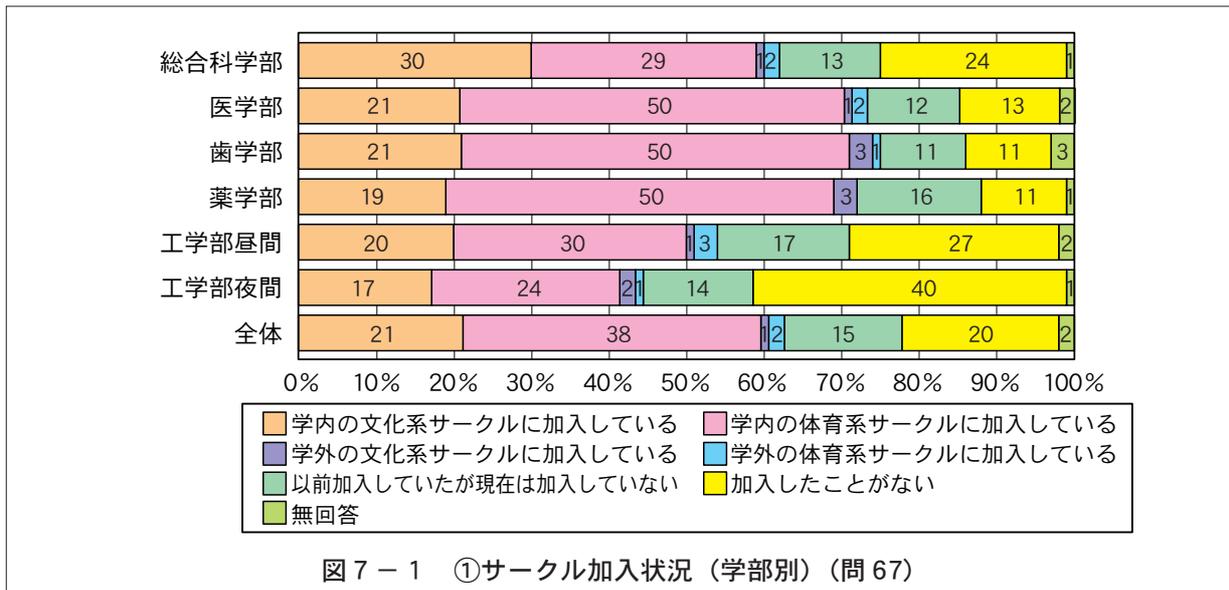
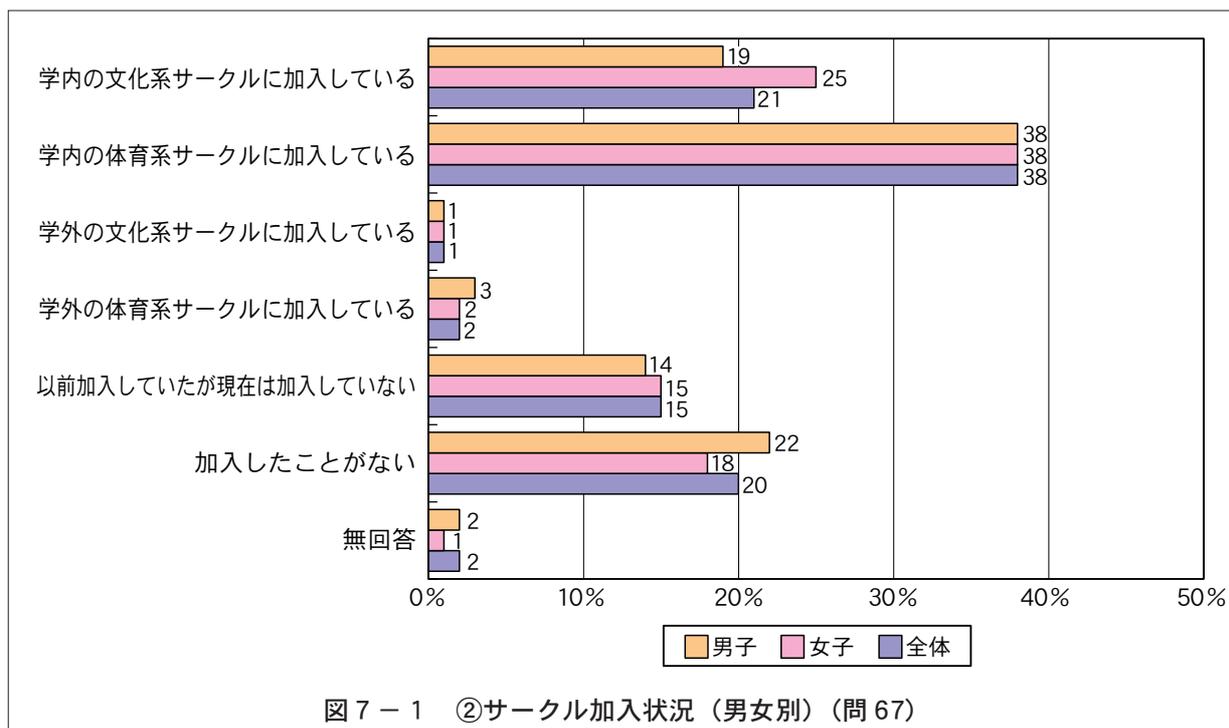


図7-1 ①サークル加入状況(学部別)(問67)

<男女別>

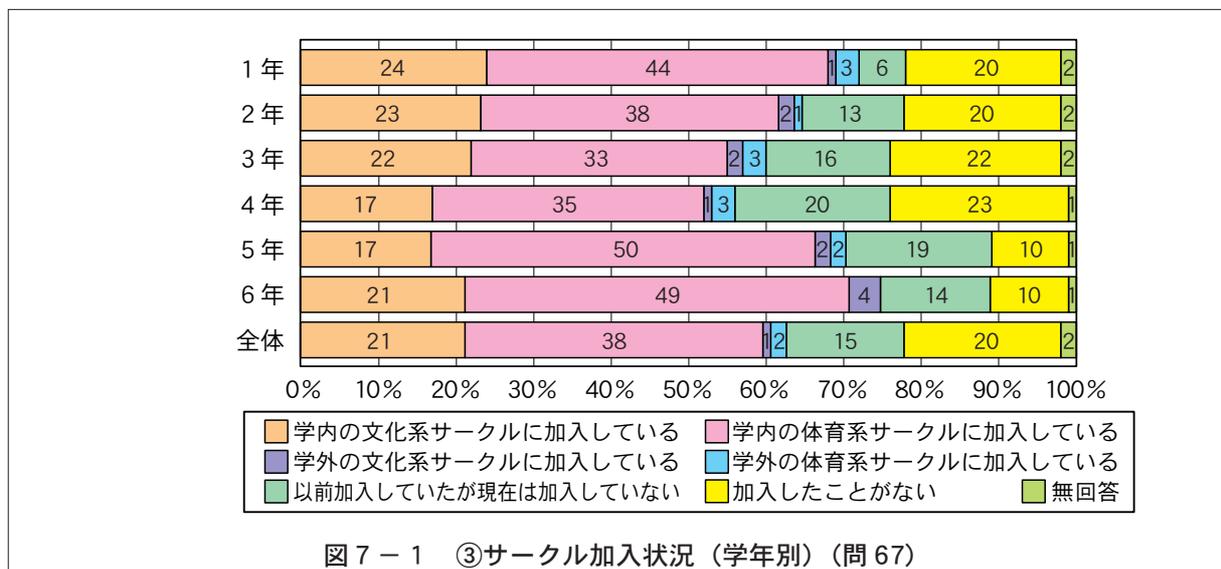
男女別のサークル加入率(図7-1②)において差が見られたのは、「学内の文化系サークルに加入している」と「加入したことがない」であった。前者は女子学生の方が男子学生に比べて6%加入率が高く、後者では男子学生の方が4%高かった。いずれも前回調査時の傾向と同様であった。



<学年別>

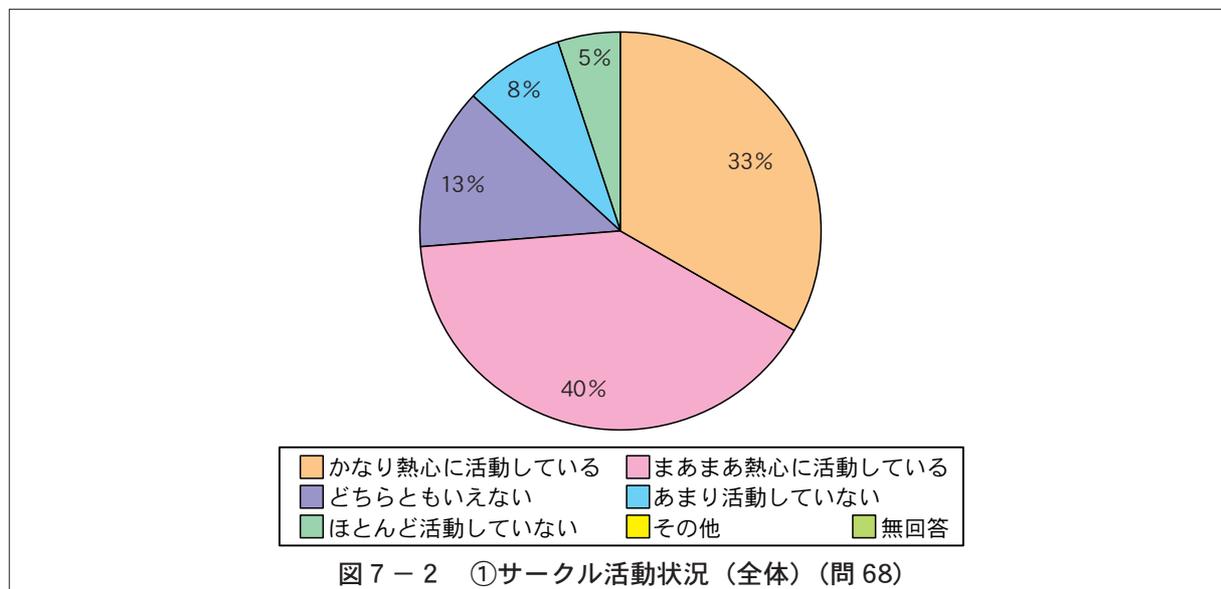
学年別 (図 7-1 ③) では、1 年生および 2 年生で学内の体育系、文化系サークルへの加入率が高い。しかし、学年進行に伴い「以前加入していたが現在は加入していない」学生の割合が増加している。このサークル加入状況はサークル活動を 4 年間継続するのが難しいことを示している。学年の進行とともに、サークル活動への飽きやサークル内での人間関係のわずらわしさを回避するためと推測される。1～4 年生については前回調査と同様の傾向にある。

なお、5 年生、6 年生で学内体育系サークルへの加入率が高くなっているが、現時点において 5 年生と 6 年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生だけになるため、1～4 年生と同列の比較はできない。これは、学部別サークル加入状況の傾向をそのまま反映していると思われる。前回調査と異なるのは、最高学年である 6 年生になってもサークル加入率が落ちていないことである。今回の調査だけではその理由ははっきりしないが、今後の継続調査が望まれるところである。



7-2 活動状況 (図7-2①, 図7-2②)

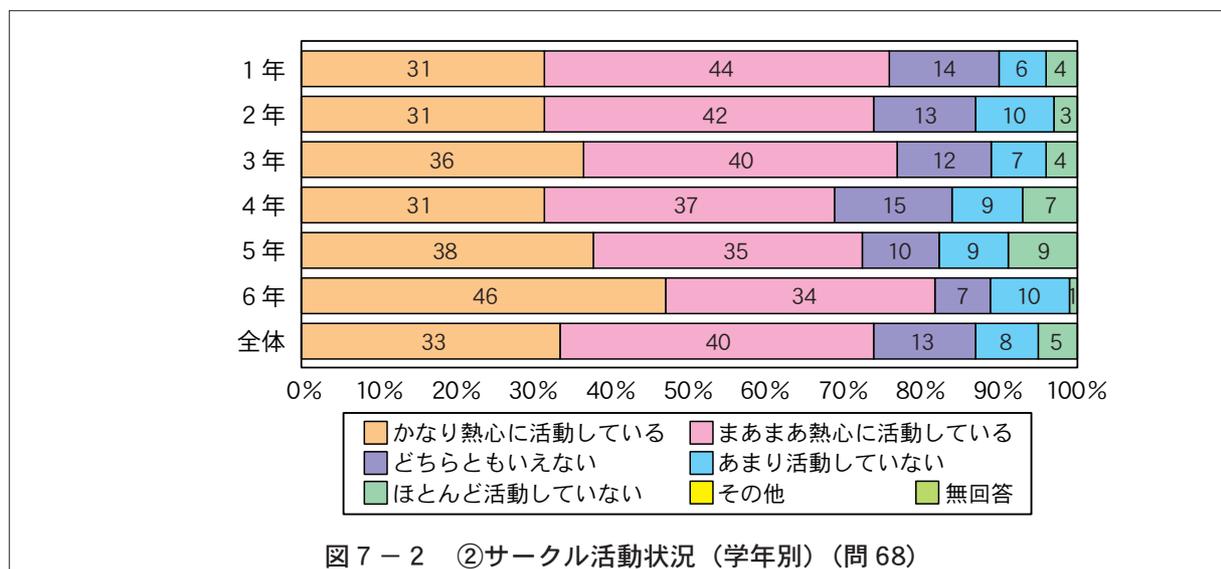
サークル活動状況 (図7-2①) は、1,999名のサークル入会者の回答を検討した。「かなり熱心に活動している」は33%で、「まあまあ熱心に活動している」は40%であり、73%の学生がサークル活動を積極的にすすめている。これは、前回調査時と全く同様の割合である。「どちらとも言えない」が13%、「あまり活動していない」が8%、「ほとんど活動していない」が5%である。これも前回調査の結果とほぼ同じ結果となっている。サークル加入者の活動状況は前回調査時と同様に活発だといえる。



<学年別>

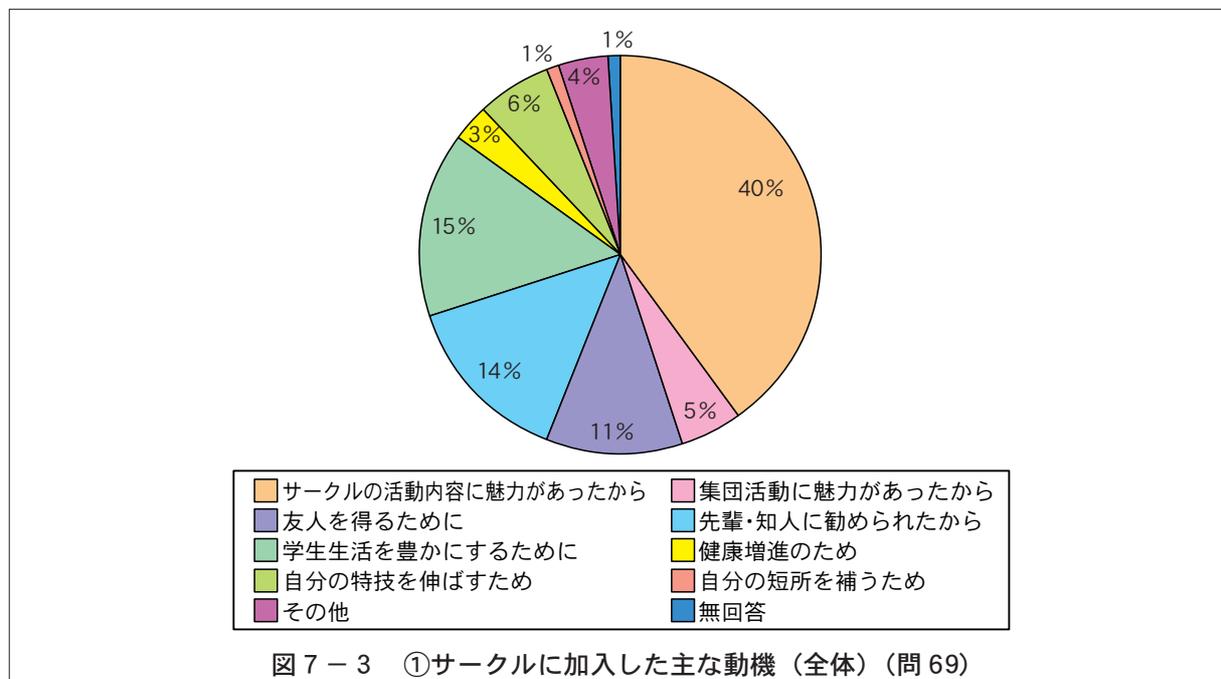
学年別 (図7-2②) を前回調査と比べてみると、前は4年生までは学年とともに熱心に活動する学生が漸減していたのが、今回は3年生が熱心に活動する学生が多くなっている。前回調査時の、4年生までは学年進行に伴いサークル活動に熱心な学生が減少していく傾向もみられるが、これは単に今回調査した3年生に熱心に活動する学生が多かっただけなのかどうかについては、次回以降の調査とも比較して見ていく必要があるだろう。

5~6年生については、サークル加入状況の学年別割合の高さに比例して熱心に活動する学生の数も多くなっていると思われる。



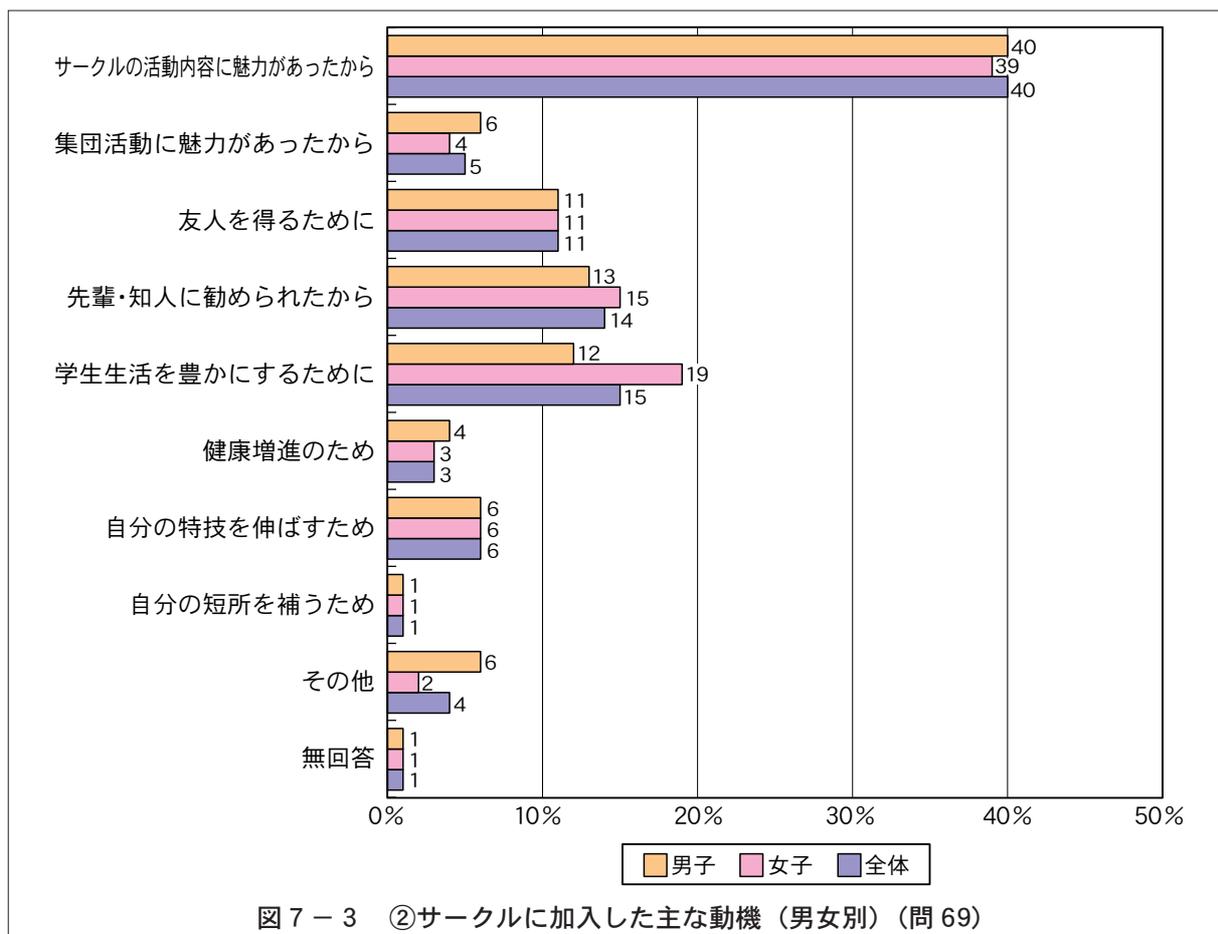
7-3 加入の動機 (図7-3①~図7-3②)

サークルへの加入動機(図7-3①)は、「サークルの活動内容に魅力があったから」が40%で最も高く、次いで「学生生活を豊かにするため」、「先輩・友人に勧められたから」、「友人を得るため」、「自分の特技を伸ばすため」と続いている。この順位は前回調査と全く同じであるが、パーセンテージは全体に少しアップしている。「その他」と「無回答」を合わせて5%になっているが、前回の18%と比べるとかなり少なくなっている。



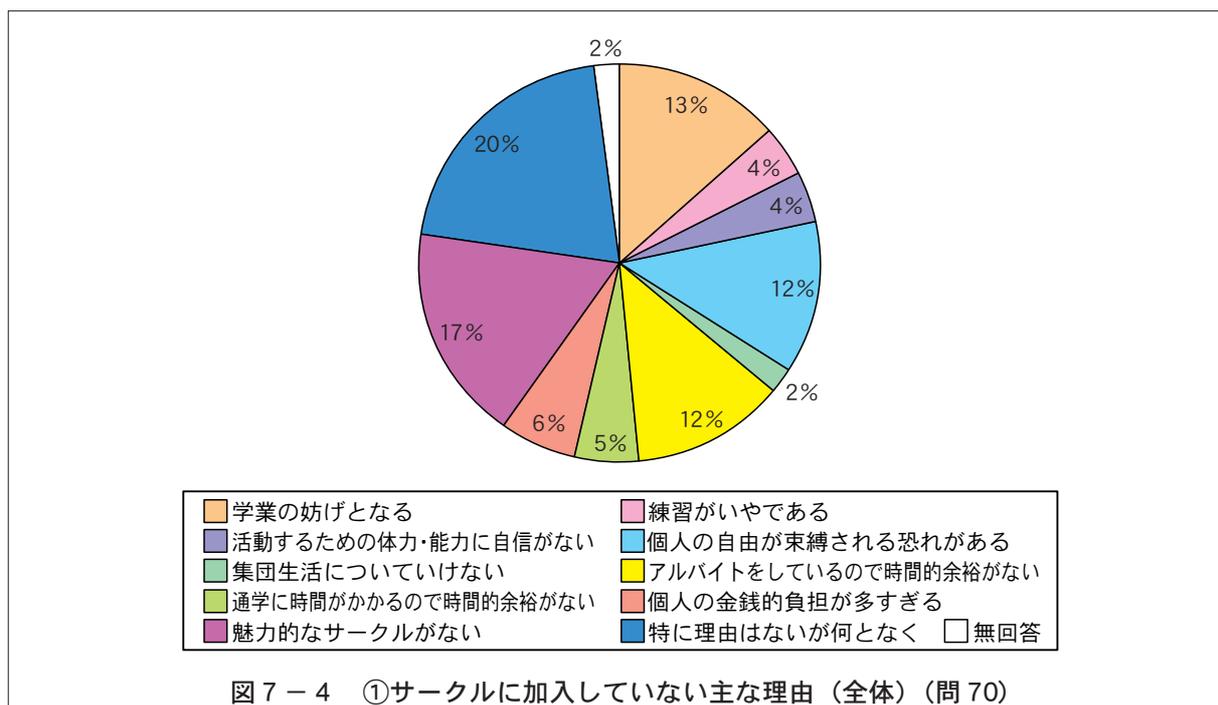
<男女別>

男女別(図7-3②)にみたサークル加入動機は、「サークル活動内容に魅力があったから」が前回調査と同様に男女ともに最も高い動機であり、前回調査に比べて男子で3%、女子で6%高くなっている。女子学生の方が男子学生に比べて高い加入動機となっているのは「学生生活を豊かにするため」、「先輩・友人に勧められたから」の2項目であり、それぞれ7%と2%高くなっている。男子学生が女子学生よりも高くなっている加入動機は「集団活動に魅力があったから」で2%高くなっているが、その他は男子学生と女子学生の差は少ない。全体としては前回調査と同様の傾向である。



7-4 サークルに加入していない理由 (図 7-4 ①~図 7-4 ④)

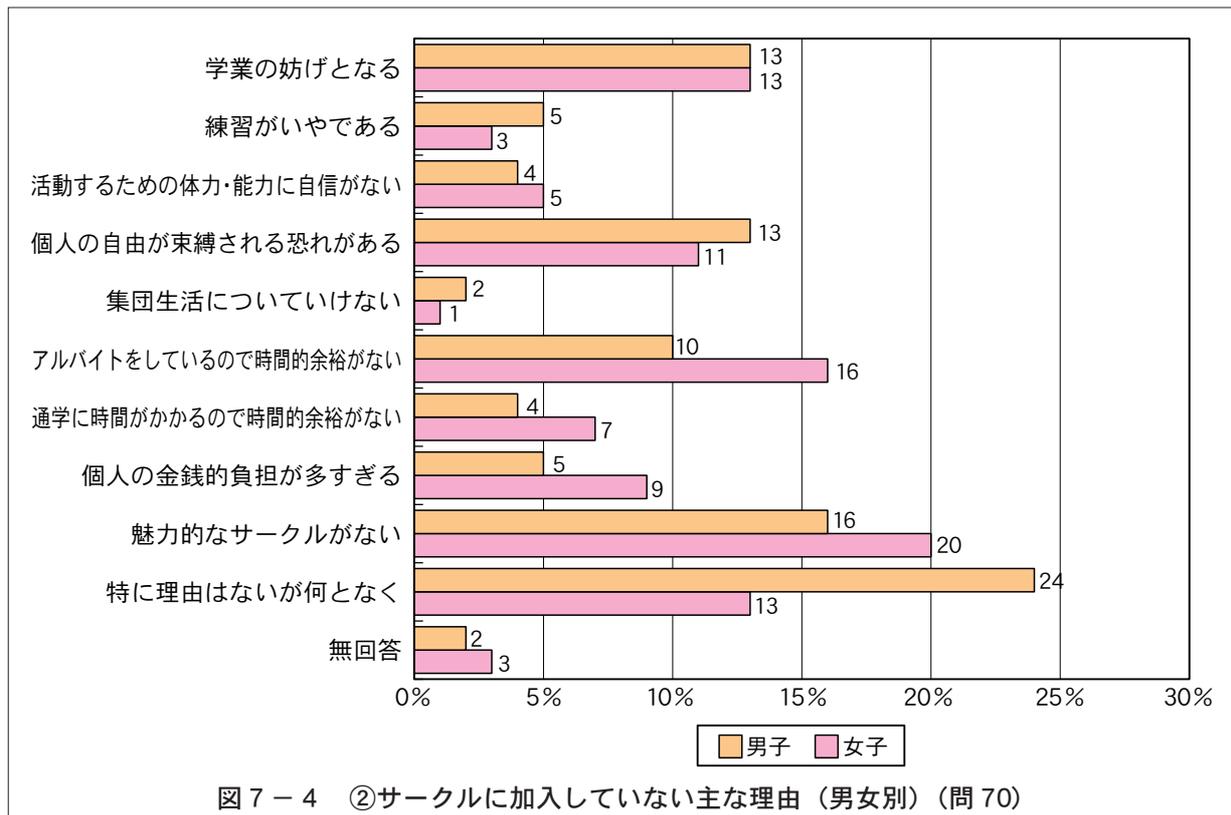
サークルに加入していない 901 名の回答結果 (図 7-4 ①) から、最も高いのが「特に理由がないが何となく」であり、「魅力的なサークルがない」、「学業の妨げになる」、「アルバイトをしているので時間



的余裕がない」、「個人の自由が束縛される恐れがある」と続いている。これは前回調査時とほぼ同じである。

＜男女別＞

加入しない理由を男女別（図7-4②）で見ると、主な理由の傾向は男女で大きな差はないが、「特に理由はないが何となく」（男子24%、女子13%）では男子が9%高く、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」（男子10%、女子16%）では逆に女子が6%高く、「魅力的なサークルがない」（男子16%、女子20%）でも女子が4%高くなっており、前回よりも男女差が広がっている。



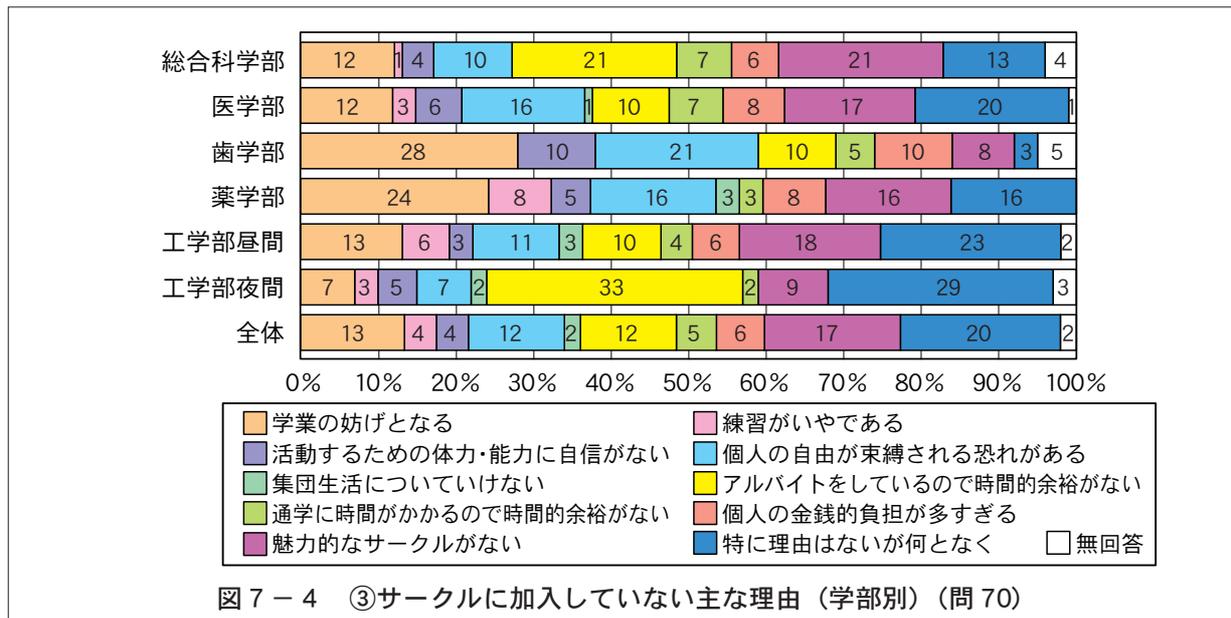
＜学部間の比較＞

学部別の未加入理由を示したのが、図7-4③である。図7-1から明らかなように未加入率の高い学部は、工学部夜間54%、工学部昼間44%、総合科学部37%となっている。工学部夜間と総合科学部では「アルバイトをしているので時間的余裕がない」が第1の理由となっている。この2学部については経済的な理由が大きいと考えられるが、これは前回と同じ傾向である。

医学部、歯学部、薬学部は、未加入率が先の2学部に比べて低いが、加入していない理由としては歯学部と薬学部で「学業の妨げとなる」がそれぞれ、28%、24%で第1位となった。前回調査からの増加率は、歯学部、薬学部ともに15%と倍増以上となっている。この増加の背景となった理由はわからないが、歯学部、薬学部ともサークル加入率は高いことから、サークルに加入する学生と加入しない学生の考え方に開きが出てきているのかもしれない。医学部の第1位と第2位は、「特に理由はないが何となく」、「魅力的なサークルがない」であるが、医学部、歯学部、薬学部の共通点として「個人の自由が束縛される恐れがある」がそれぞれ16%、21%、16%と高く、前回調査と同じようにこれら3学部は束縛されたくない気持ちが強いと思われる。

全体的な傾向としては、前回調査と同じような傾向ではあるが、前回第2位の「特に理由はないが何となく」が20%で第1位となり、前回第1位であった「魅力的なサークルがない」が17%で第2位と

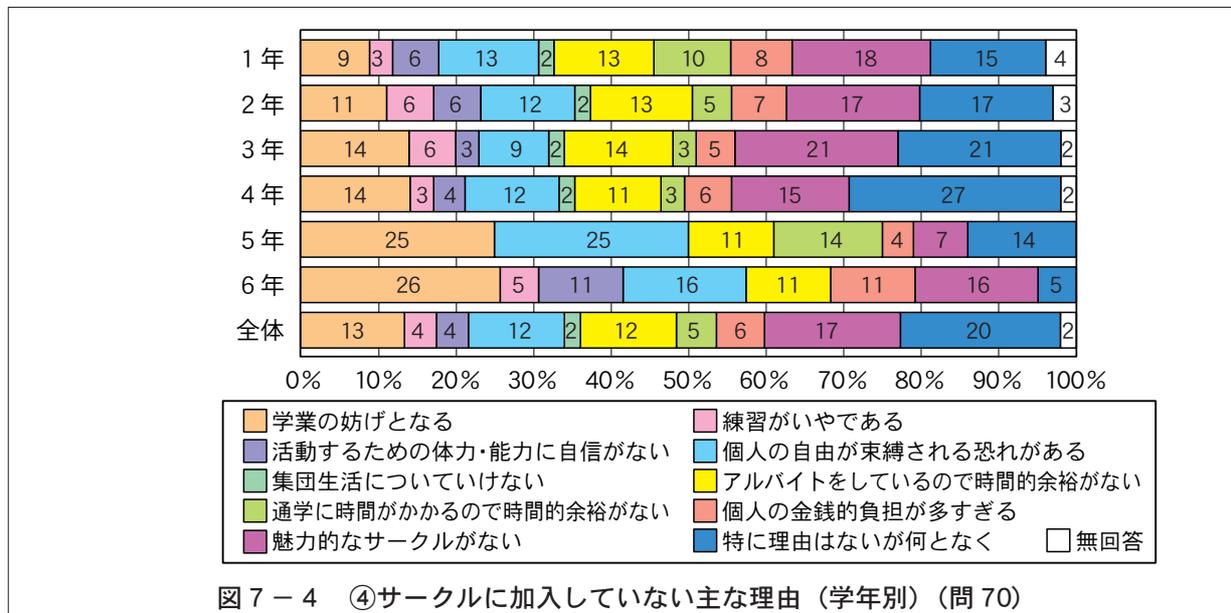
なっている。歯学部、薬学部で「学業の妨げとなる」が理由の第1位になったのが新しい動きであるが、工学部夜間を除く全学部でこの理由は増加しており、今後の調査でも留意しておきたい点である。



<学年別>

学年別 (図7-4④) の結果では、医学部医学科・歯学部歯学科だけになる5, 6年生を除き、「特に理由がないが何となく」と「魅力的なサークルがない」がどの学年でも主な理由となっている。学年の上昇とともに「特に理由はないが何となく」が増加している。

5, 6年生では、「学業の妨げとなる」と「個人の自由が束縛される恐れがある」が主な理由となっている。



7-5 学生行事 (図7-5①~図7-5④)

新入生歓迎会や大学祭などの学生行事(図7-5①)については、その必要性を73%が認めている。項目別に見ると、「必要だし積極的に参加している」は前回調査時の35%を4ポイント上回り、「必要だが

あまり参加していない」は34%で前回調査時とほぼ同様である。「どちらでもいい」は18%で前回調査時より5ポイント減少し、「なくてもいい」は8%で前回調査時とほぼ同様である。行事への参加意識は前回調査時より少し高くなっている。

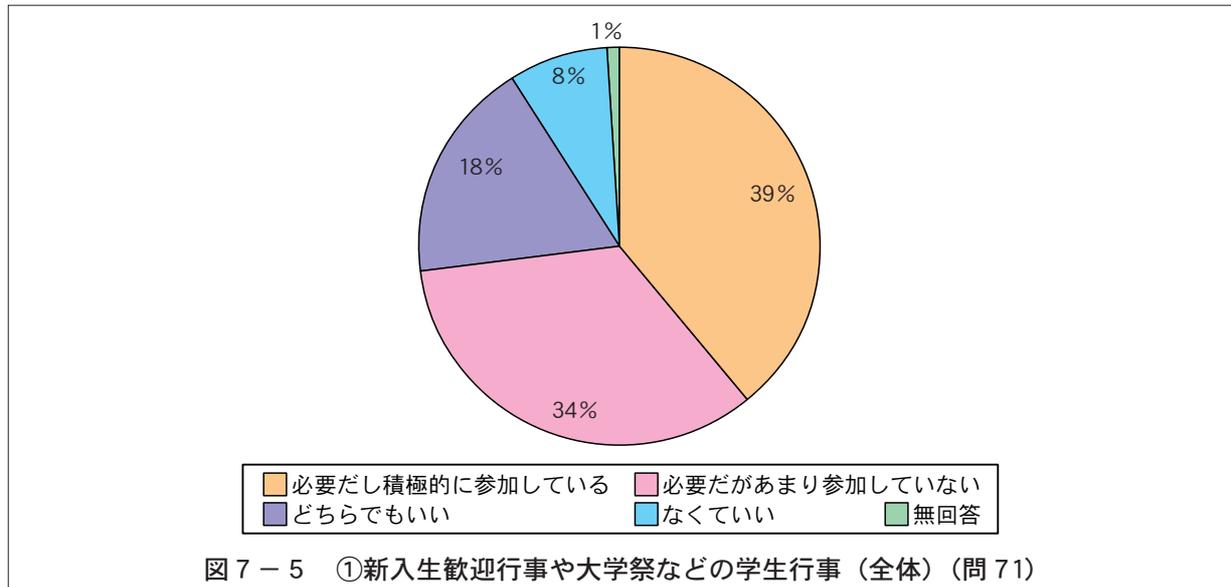


図7-5 ①新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（全体）（問71）

<学部別>

学部別の意識は図7-5②に示した。「必要だし積極的に参加している」または「必要だがあまり参加していない」と回答した学生行事の必要性を認めている学生は、約70%前後の学部が多いが、総合科学部（80%）と医学部（76%）が少し高くなっている。

前回調査と比較すると、総合科学部が8ポイント増えるとともに、前回、やや意識の低かった工学部昼間と工学部夜間がそれぞれ8ポイントと13ポイント増えて参加意識が高まって来ており、学部間の差が縮小している。

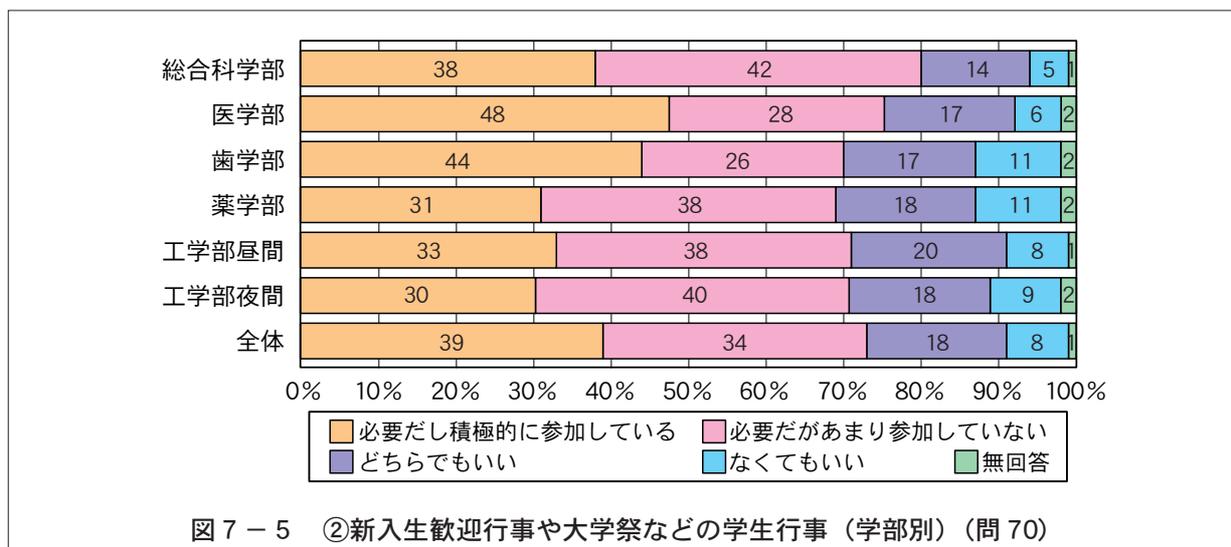
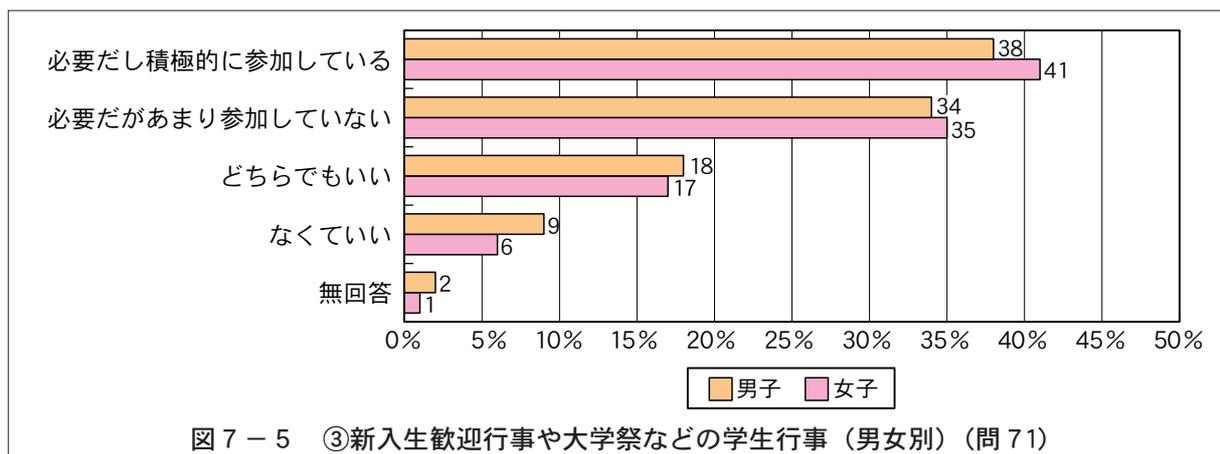


図7-5 ②新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（学部別）（問70）

<男女別>

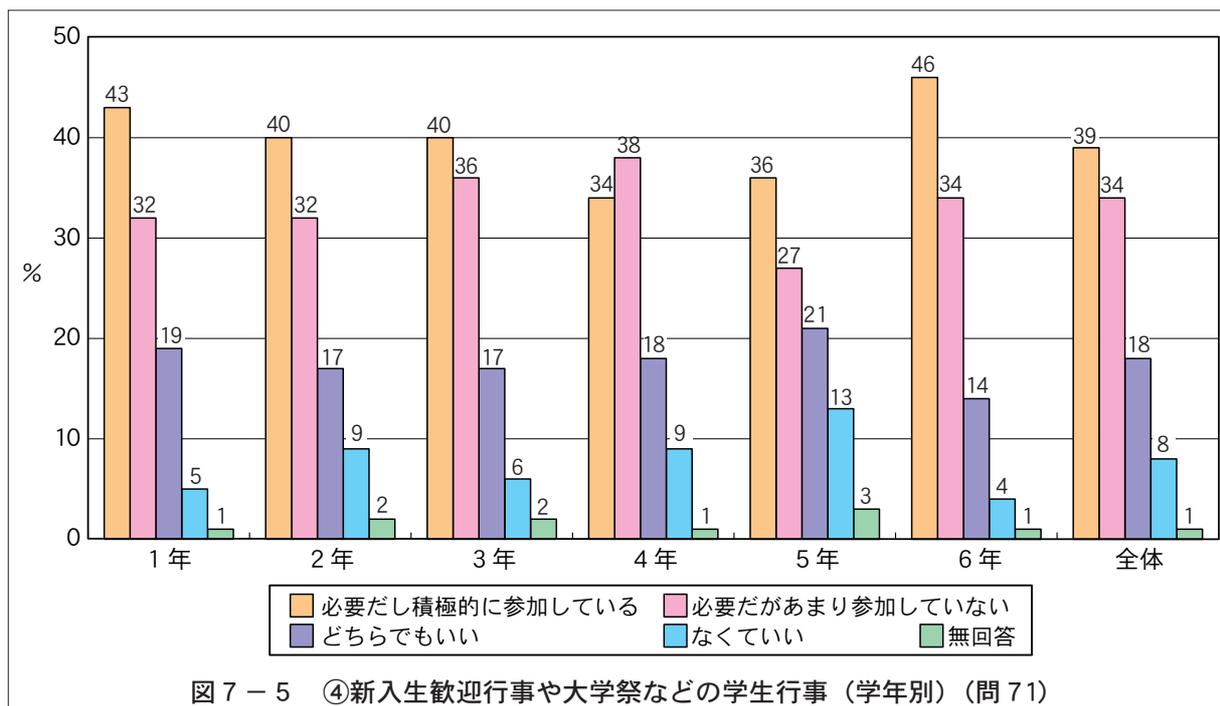
男女別（図7-5③）では、前回調査時に比べて学生行事への参加意欲は高くなっており、男女別の意識の差は縮小している。前回調査時に女子が7%高かった「必要だと考えており積極的に参加している（男子31%、女子38%）」は、今回は女子との差は3%にまで縮小している。



<学年別>

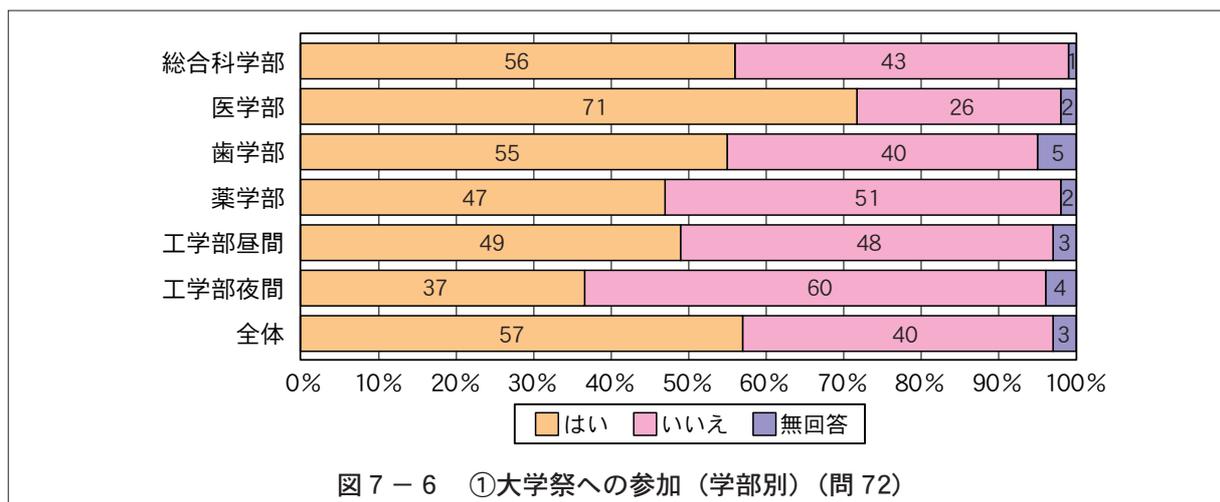
学年別（図 7-5 ④）の参加と意識の状況では、1 年生と 2 年生は「必要だし積極的に参加している」割合が高い。3 年生と 4 年生になると「必要だがあまり参加していない」割合が高くなる。1～2 年生は学生行事に参加できる心と時間の余裕があるが、3～4 年になると就職活動や研究などでその余裕がなくなるのかもしれない。この傾向は前回調査時と同様である。

新入生歓迎会や大学祭などの学生行事への参加は、学生が友人や教職員との関わりを深めることを通して人間形成の上で大きな役割を果たす機会になり得る。より多くの学生の関心を高め、参加を促進していくために、学生を支える工夫を教職員が努力する必要があるだろう。



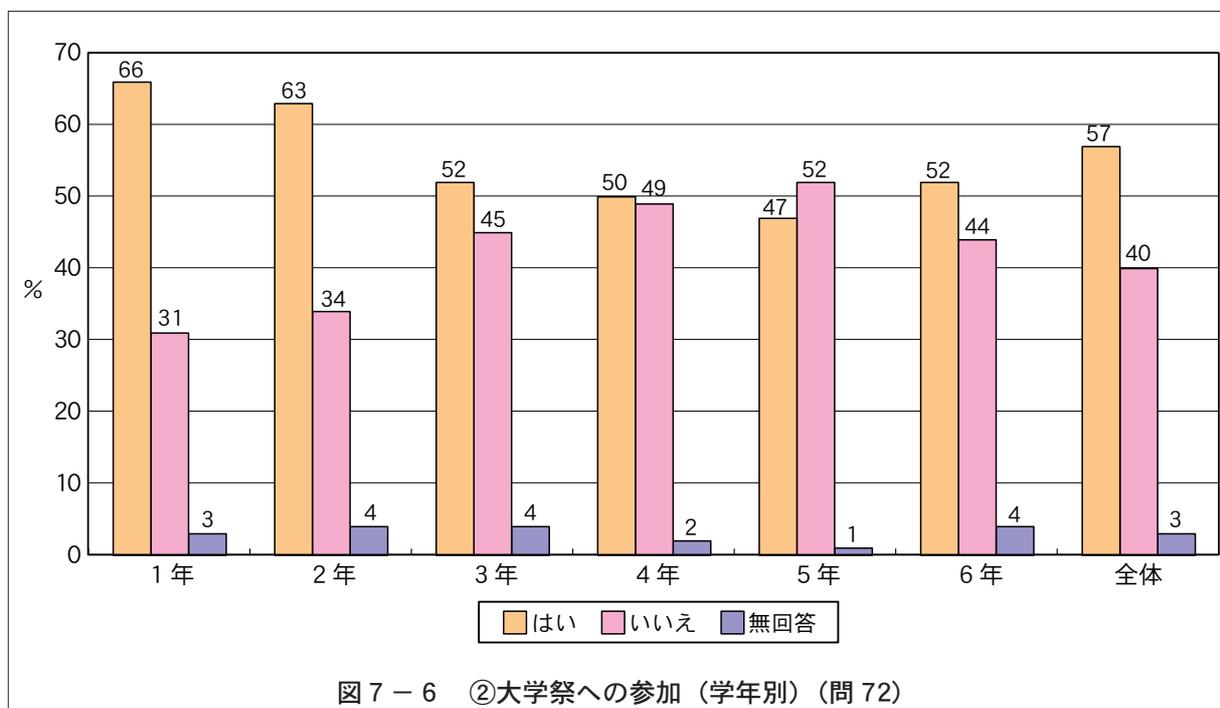
7-6 大学祭への参加状況（図 7-6 ①, 図 7-6 ②）

大学祭への参加意志（図 7-6 ①）は、全体の 57%が「参加する」と回答している。前回調査時と同様、医学部が最も高く、総合科学部、歯学部が半数を超えている。学生行事全体の状況である図 7-16 の「必要だと考えており積極的に参加している」とほぼ同様の傾向である。前回調査との比較では、大学祭に参加すると答えた学生が薬学部で 9 ポイント、歯学部と工学部夜間でもともに 5 ポイント増加している。



<学年別>

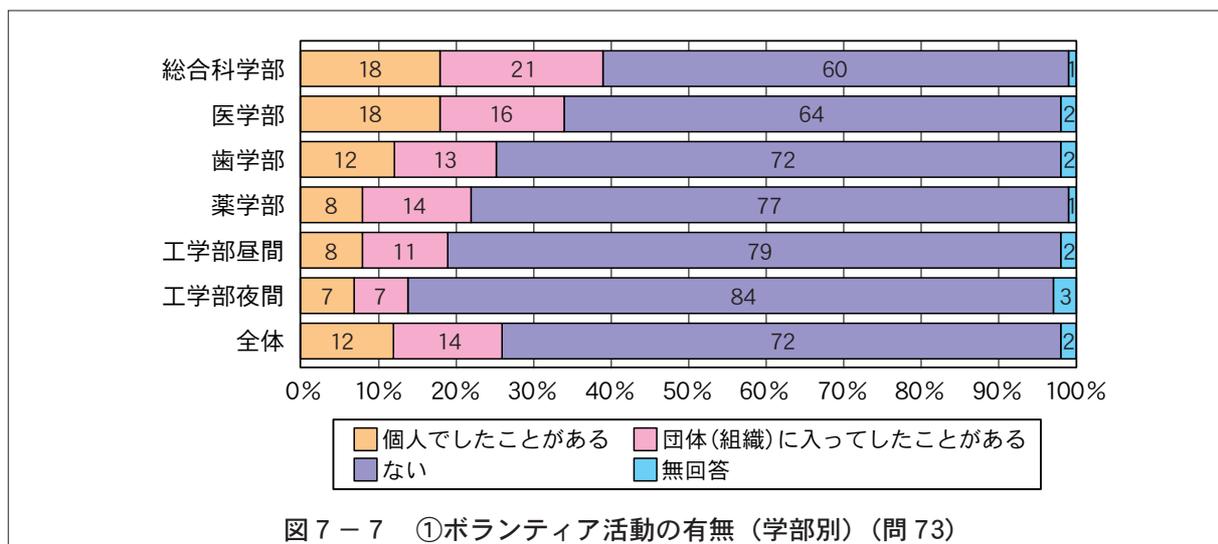
学年別 (図 7-6 ②) では、1 年生 66%、2 年生 63%、3 年生 52%、4 年生 50%と学年進行に従って参加率は減少している。前回調査時に比して参加率は全体的に上昇している。



7-7 ボランティア活動 (図 7-7 ①, 図 7-7 ②)

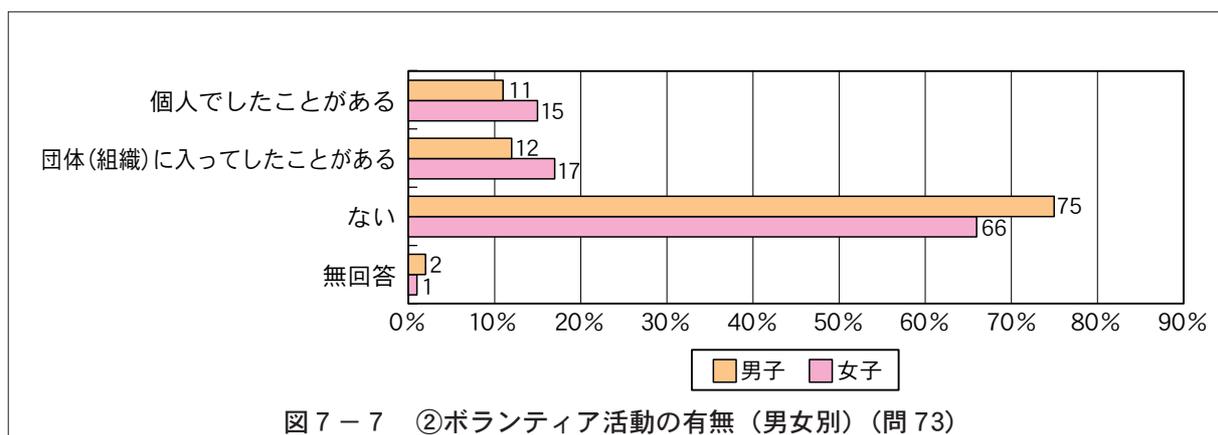
<大学入学後のボランティア活動>

ボランティア活動 (図 7-7 ①) では、全体では「個人でしたことがある」学生は 12%、「団体 (組織) に入っていたことがある」学生は 14%であり、前回調査と比較して全体的に少し増加傾向にあるが、ボランティア活動経験者はまだ高いとまでは言えない。その中で総合科学部は個人と団体と合わせて 39%で前回から 12%増えており、医学部を抜いて一番割合は高くなっている。



<男女別>

男女別（図 7-7 ②）では、「個人でしたことがある」と「団体（組織）に入っていたことがある」を合わせて男子学生の 23%、女子学生の 32%が活動を体験している。前回調査時と比べると増加傾向である。ボランティア経験者はいずれも女子学生の方が高い。



7-8 まとめと今後の課題

課外活動は、前回調査時とほぼ同様の傾向となっている。サークルの加入状況については、工学部夜間が低くなっている。これは、すでに昼間就業している学生も多く、授業形態（実験の多さ等）等も関連していると推測される。学生は、各自の個性と条件に適応したサークル又は団体に加入し、大学生活を送っている状況と言える。学年が高くなるにしたがって活動が低くなるのは、卒業研究、就職あるいは進学に向けての活動に学生のエネルギーが向けられることが考えられる。

サークル加入率を上げるには、入学時の新入生合宿研修、大学入門講座等を利用して正課外活動で得られる豊かな大学生活作りへの関心を高める企画を作成すること、より多くの学生がさまざまな活動を楽しめるように課外活動の幅を拡げること等の工夫と共に、課外活動を支える環境作りが必要である。対人コミュニケーションスキルに乏しい学生が増加する傾向にある中で、サークル活動を通してそれまでとは違った対人関係を築く経験ができるのであれば、加入率を上げる努力をすることは意義があると言える。その反面、アルコールハラスメント、いじめなどが生じる可能性もある。大学は各学部の学友会および団体連合等を通じて活動状況を把握し、学生の発達に応じたサークル活動を適切に支援する必

要があるだろう。

学生行事は、多くの学生が必要性を認めている。その中で「あまり参加しない」学生をいかにして参加するように仕向けるかが課題である。大学祭を始めとした学生行事は、本来学生の自主的・主体的な活動であり、学生の多面的な能力を開発する場であり、様々な交流の機会でもある。学生行事を学生にとって「魅力のある」ものにするためには、十分な企画と計画が必要となって来る。ここでも、その意義と役割を重視し、より多くの学生の積極的な参加が実現できるよう各学生団体に対してどのような支援ができるかを大学は検討する必要があるだろう。

ボランティア活動経験のある学生は増加傾向にあるもののまだまだ少ない。ボランティア活動は、学生のホスピタリティマインドを身につける経験として重要であり、地域社会に貢献する活動でもある。今後の拡充が期待される活動領域である。生協委員、学部レベルで学内の清掃活動等学内ボランティアを行っているが、それらと共に地域社会へのボランティア活動の推進を目指す自主精神の涵養も必要である。ボランティア情報の提供、ボランティア相談等に応じることも良いかもしれない。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向にあり、インターネット利用、先輩・知人が20%台と多く、次いで指導教員、就職情報誌・新聞・マスコミ、大学内資料の順である。歯学部・医学部・薬学部では、先輩・知人から情報を入手する比重が高い。前回同様に就職支援室情報が5%と低く、低学年時から就職支援室利用の活性化を図る必要もある。また、「直接会社に照会」は2%に過ぎない。会社訪問を推奨する企業もあることから、学生の積極性も求められる。

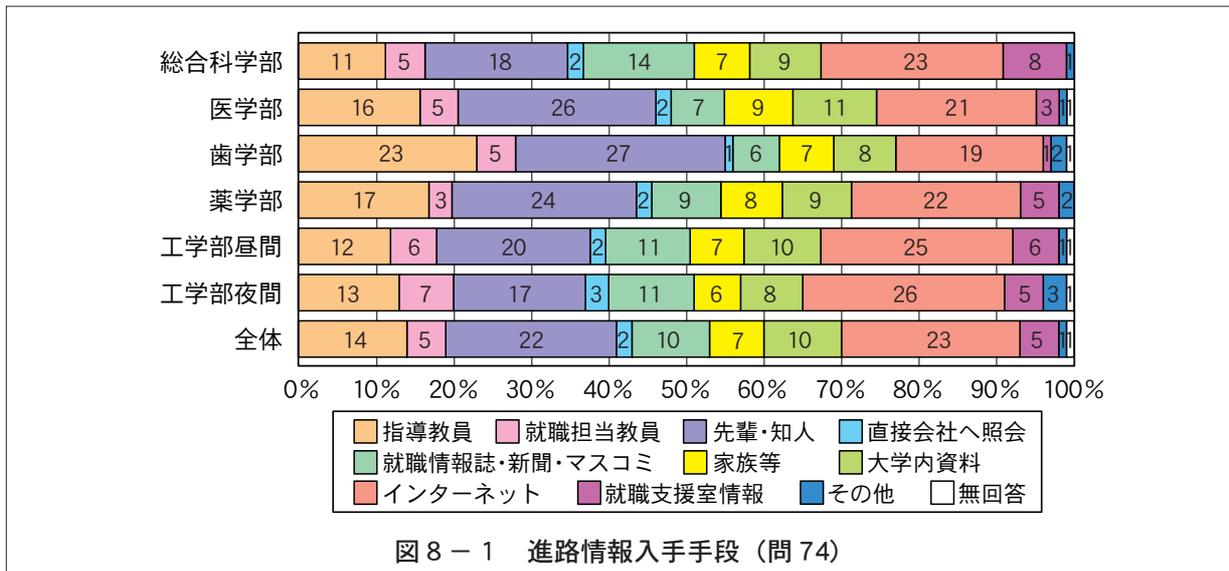


図8-1 進路情報入手手段 (問74)

8-2 就職・進学希望について (図8-2)

就職希望と進学希望の比率は、総合科学部で80%、14% (前回66%、27%)、薬学部で53%、43% (前回34%、52%) と変化がみられた。総合科学部では大学院改組、薬学部では6年制の導入が影響した可能性がある。その他の学部では、前回調査とほぼ同じ傾向にあり、医学部・歯学部では70%強が就職、工学部昼間では半数近くの学生が進学を希望している。

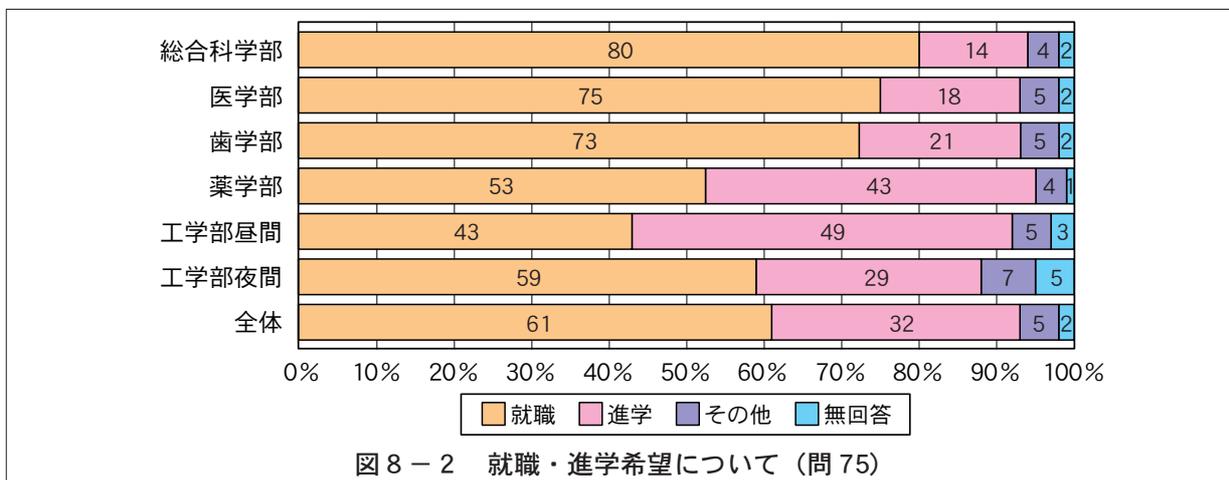
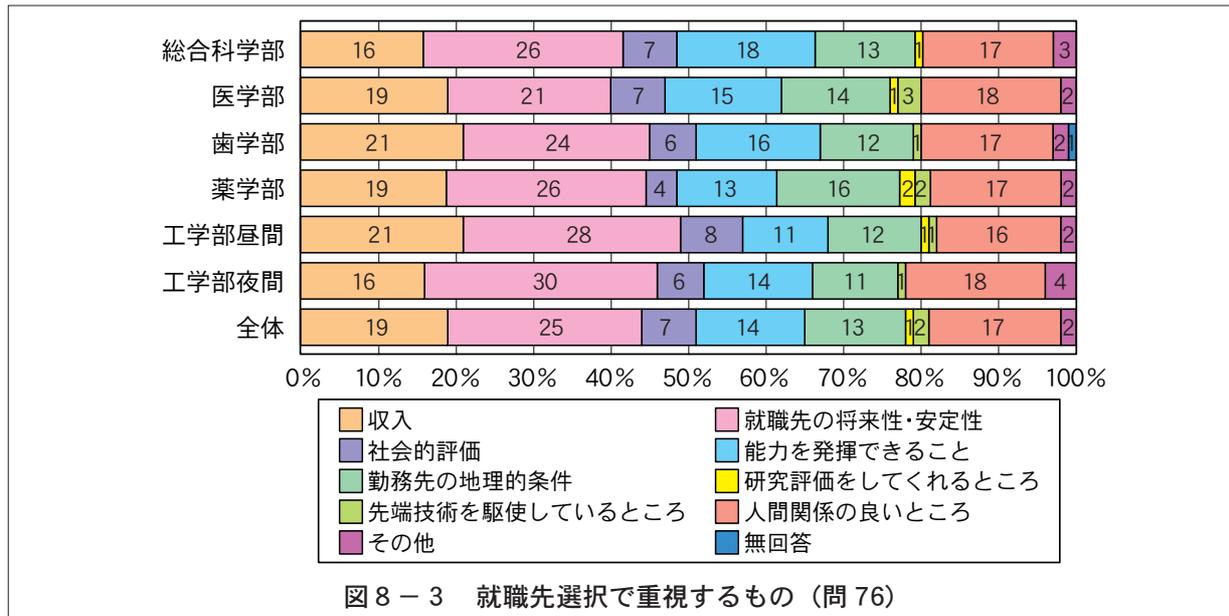


図8-2 就職・進学希望について (問75)

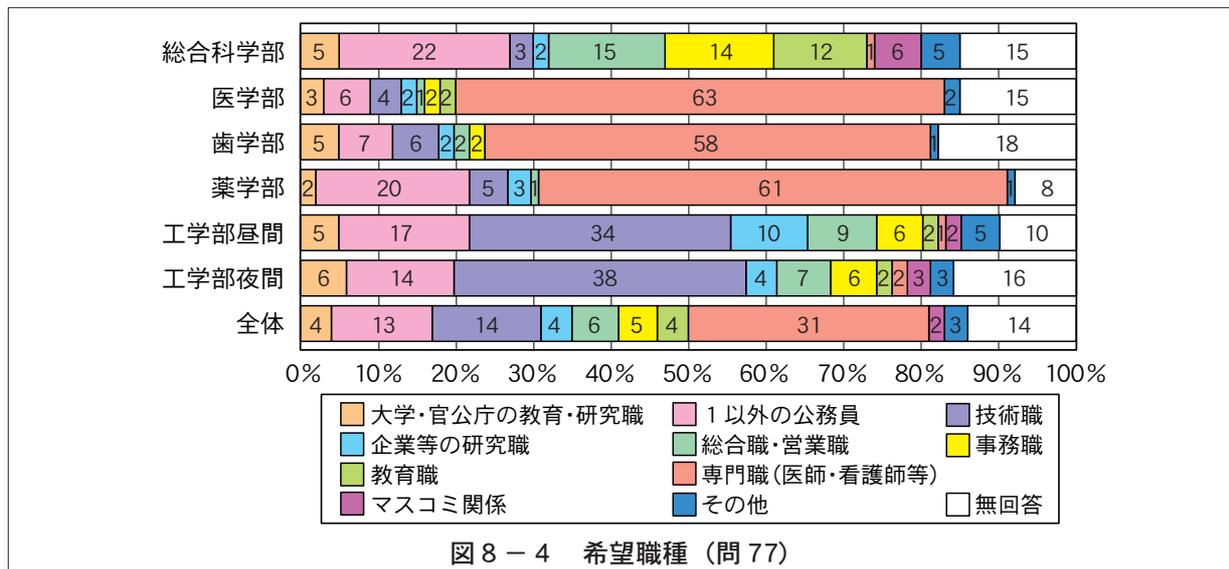
8-3 就職先選択で重視するもの (図8-3)

図8-3は、問75で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともによく似た傾向を示しており、全体的な傾向も前回・前々回と大きくは変わっていない。全体をみると、就職先の将来性・安定性が25%（前回22%，前々回21%）と最も多く、次いで収入19%，人間関係の良いところ17%，能力を発揮できること14%，勤務先の地理的条件13%となっている。就職先の社会的評価は7%と少なく、先端技術を駆使しているところ2%，研究評価をしてしてくれるところ1%はさらに少ない。雇用不安が広がる状況を反映してか、全体的に安定志向にあるといえる。



8-4 希望する職種 (図8-4)

図8-4は、問75で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。医学部・歯学部・薬学部では専門職（医師・看護師等）がそれぞれ63%・58%・61%と高い。前回の80%・87%・79%と比してかなり低い数値になっているが、無回答が15%・18%・8%を数えることも関係していると考えられる。ちなみに、前々回の調査では、専門職（医師・看護師等）はそれぞれ63%・



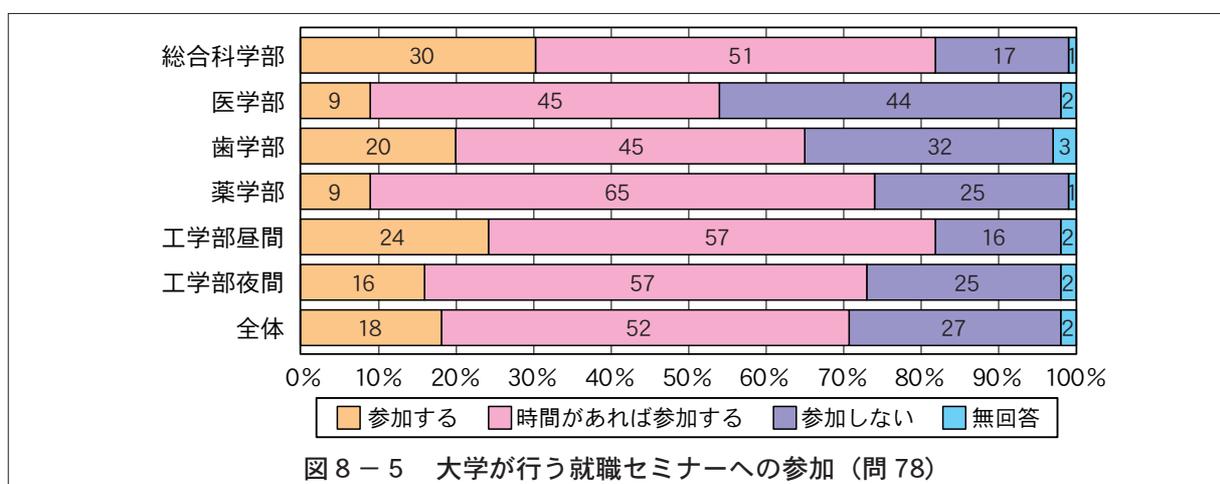
75%・45%であった。薬学部では前々回の21%に比して、前回2%・今回3%と企業等の研究職を希望する学生が激減した反面、公務員志望者が20%を数える。

工学部では、昼夜間とも技術職と公務員とで50%強を占める。これは前々回と同様な傾向にあるが、前回調査では技術職が昼間45%、夜間51%を占めており、技術職を希望する学生の比率はともに10%以上減少した。一方で企業等の研究職や総合職・営業職、事務職などの比率が増えていて、希望職種が多様化する傾向がみられる。総合科学部は従来より希望職種が多岐にわたり、今回の調査でも公務員22%、民間企業の総合職・営業職15%、事務職14%、教育職12%の割合が高かった。

なお、前々回では全体で2%、前回8%であった「無回答」が、今回は14%（薬学部8%以外はすべて10%以上）を数えた。これは、自分の明確なキャリア・デザインを持っていない学生が増えているとも受け取れる数字であり、今後、各学部等においてキャリア・デザイン教育の充実も求められよう。

8-5 就職セミナーへの参加 (図8-5)

図8-5は、大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。「参加する」18%（前回18%、前々回22%）、「時間があれば参加する」52%（前回54%、前々回52%）、「参加しない」27%（前回25%、前々回23%）、「無回答」2%（前回、前々回とも3%）である。前回、前々回調査と比べてほぼ同様の傾向ではあるが、総合科学部、工学部、薬学部が「参加する」、「時間があれば参加する」と回答したものが70%を超えるのに対して、医学部、歯学部の割合は相対的に低い。これは、就職セミナーが主に一般企業希望者を対象に開催されていることとも関係するとみられるが、昨今は就職環境が厳しさを増しており、学生のより積極的な参加が望まれる。



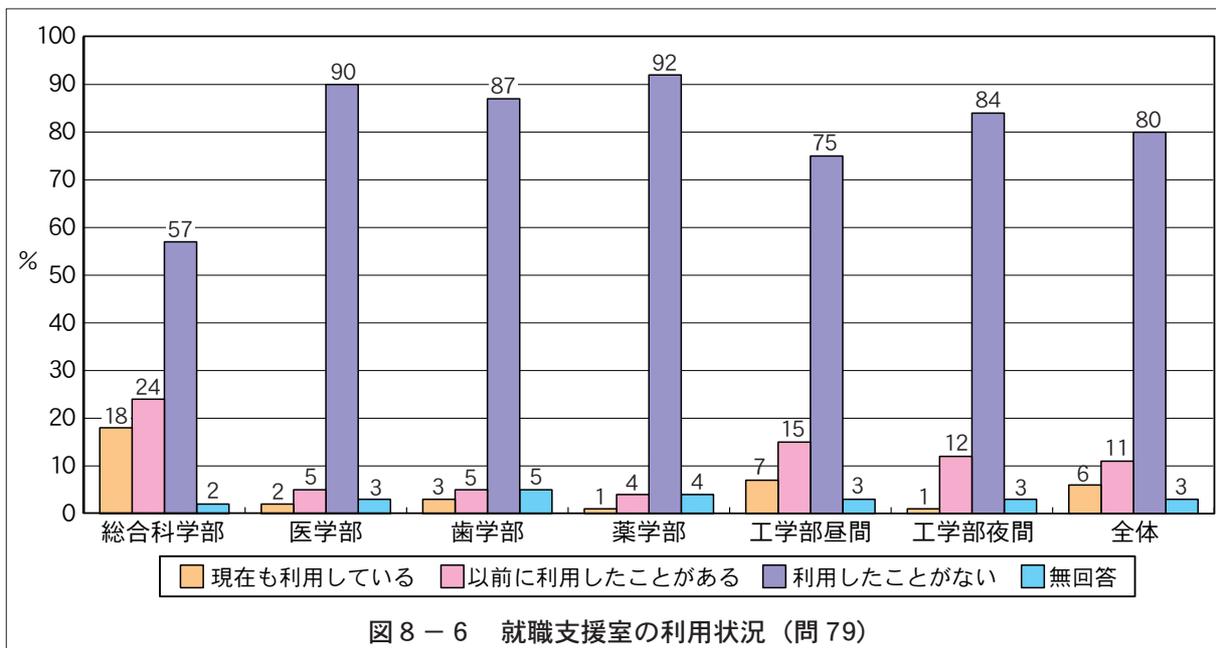
8-6 就職支援室の利用状況 (図8-6)

図8-6は、全員に対して就職支援室の利用状況を尋ねたものである。全体の就職支援室の利用状況を見ると、「就職支援室を利用したことない」80%（前回83%）に対して「現在も利用している」「以前に利用したことがある」の合計は17%（前回14%）となっている。全学年を対象としているため、利用した事がない割合が際立っているが、前回よりは若干ではあるが利用度は増えている。

各学部別に「現在も利用している」、「以前に利用したことがある」の合計を前回調査と比較すると、総合科学部42%（前回31%、前々回33%）、工学部昼間22%（前回16%、前々回12%）、工学部夜間13%（前回21%、前々回12%）で、医学部、歯学部、薬学部は10%未満であった。ただし、就職活動期にあたる総合科学部3・4年生では70%以上、工学部昼間3・4年生でも30%以上が「現在も利用

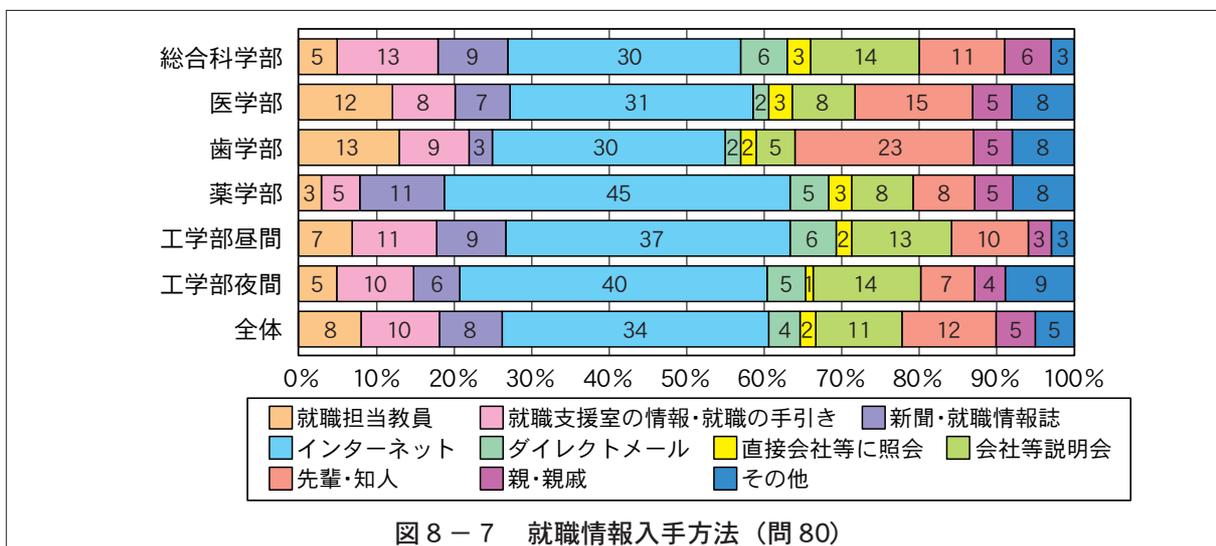
している」「以前に利用したことがある」と回答している。

なお、就職支援室ではすべての卒業・修了予定者に対して冊子『就職の手引』やパンフレット「就職活動スタート」を配付し、希望学生には携帯電話登録で就職セミナーや求人情報を提供している。平成20年10月からは、常三島地区に加えて蔵本地区でも就職相談を週1回開催している。就職支援室を直接利用しなくても、間接的にこうしたサービスを受けている学生は数多いとみられる。



8-7 就職情報の入手方法 (図8-7)

図8-7は、学部卒業予定の就職希望学生に対して、複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。全体の傾向としてはインターネット利用が34%（前回、前々回とも34%）とやはり多く、次いで先輩・知人、会社等説明会、就職支援室の情報等が12～10%で続く。前々回の調査では新聞・就職情報誌が12%を占めたが、前回及び今回は8%に減っている。歯学部・医学部では先輩・知人および就職担当教員の比重が相対的に高いが、これは8-1の進路情報入手手段と似た傾向にある。会社等説明会は総合科学部および工学部昼間・夜間で比重が高いが、「直接会社に照会」は全体の2%に過ぎない。学生のより積極的な行動も望まれる。



第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、人間社会学科と自然システム学科の2学科体制が人間文化学科（一学年100人）、社会創生学科（一学年100人）と総合理数学科（一学年65人）の3学科体制に改組され、教員129名でその指導に当たっている。

「経済状況」について、学生の家庭の年間所得は、250万未満と500万までが33%ある。これは大学全体の平均より1ポイント多い。

保護者等からの援助額は「全くない」及び「3万円未満」を合わせると31%と高い工学部夜間に次いで高い数値である。低所得で援助額も少ないということが考えられる。また、平均支出額は、高いとはいえず、食費も1か月3万未満が77%である。保護者等からの援助が少なく、支出が少ないのは、自宅通学の割合が43%と高いのも理由の一つと考えられる。援助が少ないことと関連するが、アルバイトをしている学生は62%と全学部中工学部夜間に次いで高い割合を示している。そのうち「アルバイトを週3日以上する」が40%あり、アルバイト従事時間がかかなり長い傾向もあり、アルバイトによる勉学への支障が懸念されるが、アルバイトによる勉学への支障は低いと本人達は考えているようである。また、従事時間数が多い傾向にある割にはアルバイトによるトラブルは30%とそこまで高い数値が示されていないのは何よりである。

「健康状態」については、就職や進路、生き甲斐や目標、勉学、交友、異性関係等の悩みや不安が多いようだが、悩みや不安は友人や家族に相談する機会が多いのは良いことである。また主な悩みとして就職・進学問題であると答えた学生が全学で最も高い数値を示している点は注意すべきところで、大学側の支援体制の強化が望まれる。

「学生生活上の問題点」としては、セクハラやアカハラの被害が少なくなっているのは良い傾向であると思われる。また教職員との交流では、「教員と会話をする」や「親しい関係にある」割合が高く、教員と学生のコミュニケーションは良好である。

「修学状況」については、総合科学部を選んだ理由として「国立大学だから」が最も多く、次に「地元の大学だから」と続き、また、他学部 비해「希望する学部・学科があった」や「高校の進路指導による」の比率が高いなど、積極的な目的意識が若干希薄であるように受け取られる。意欲の高い学生の比率を高める努力が必要である。学部としての入口、出口や教育内容の明確化を行い、より鮮明に教育方針を打ち出す必要がある。学部の満足度に関しては64%が満足としているが、授業の満足できない理由に「授業内容がつまらない」が全学で最も高い64%であることも注意を要すると思われる。ここでもより努力が必要である。オフィスアワーの利用状況では、「利用したことがある」(32%)が前回に比べ2ポイント減、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」(56%)が前回に比べて3ポイント増、両者の合計が88%で、オフィスアワーの周知だけはよくできている。

「課外活動」におけるボランティア活動に関しては、毎年3回、学部で取組んでいるアドプト吉野川（吉野川清掃活動）の経験者が多いためか、ボランティア活動の有無で「団体に入っていたことがある」が、21%と全学で最も高い数値を示しており、加えて「個人でしたことがある」18%と併せてボランティア活動に積極的な様子が伺える。これからも吉野川清掃活動は継続していきたい。サークルは、体育系サークル、文科系サークルとも加入率が高いと言える。

「進路・就職」については、就職希望が80%と全学で最も高く、進学希望14%が全学で最も低いなど進学に消極的な様子が伺える。希望する職種としては、公務員、事務職、教育職が多いが、他学部のよ

うに特定の職種に偏らず、多様な職種を希望しているのが特徴で、学部性格を表している。就職先選択で重視するものは、「就職先の将来性・安定性」が多く、人間関係、収入、能力の発揮と続く。他学部と比べて、「収入」を重視する割合が若干少なく、「能力の発揮できる場所」が若干多いことが特徴である。

9-2 医学部

医学部は、医学科、栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科496人(84.6%)、栄養学科180人(88.2%)、保健学科366人(68.4%)であり、医学部全体では1042人(78.6%)であった。大学全体の回収率(54.4%)と比較すると回収率はよくなっている。また、医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験(医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、助産師等の国家試験)を受験して免許を得て、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中も目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して以下に現状と課題を考える。

まず経済的な面であるが、「家庭の年間収入」では、750万円以上の収入がある家庭が約50%で、他の学部と比較して、歯学部とともに割合が多くなっている。しかしながら、500万円以下の収入の家庭も25%いて、必ずしも裕福ではなく苦学している学生も多いことがわかる。このことは、自宅外通学者の1か月の平均収入にも表れている。1か月に10万円以上収入がある学生の割合は約40%で歯学部とともに割合が多いが、逆に5万円未満しか収入がない学生の割合が20%あって生活が苦しい学生も多いことが分かる。また、「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が38%で、この割合は全学の平均(38%)と同じであった。このように、医学部でも経済的にゆとりがない学生が、他の学部と同様に多くいて、今後は、経済的に困窮している学生に対して、奨学金の受給率の向上、授業料免除の拡大、学業に支障をきたさないアルバイトの斡旋などを通して、学生への経済的な支援を強化する必要がある。

次に、「健康状態」であるが、「気になる症状」では、他の学部とほぼ同じ内容で、「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」、「下痢・便秘」などの項目があがっている。「おもな悩みと不安」では、「勉強」に関する悩みが最も多く、次いで「就職や進路」、「交友・異性関係」、「経済状態」、「自分の性格」などがあがっている。「悩みの相談相手」では、「友人」が最も多く約70%になっている。「誰にも相談しない」は男子で21%、女子で12%いて、これらの学生への対応が必要である。

「食事」では、「昼食の利用場所」で最も多いのが「弁当を購入」で37%、次いで「常三島食堂を利用」13%(1,2年生)、「自宅」11%、「蔵本会館食堂を利用」8%、「その他」30%であった。「弁当を食べる場所」は「教室」が約70%である。学生食堂を利用している学生が割と少なく、昼食は弁当を購入して教室で食べている学生が多いことが分かる。「学生食堂について感じていること」では、「メニューが少ない」、「昼食時の混雑がひどい」などがそれぞれ約40%近くあり、蔵本地区の学生食堂の充実が必要と思われる。

「就学状況」では、「本学を選んだ理由」で「希望する学部・学科があったから」が48%で最も割合が多く、これは歯学部、薬学部と同じ傾向で、その他の学部と比較して割合が多くなっている。また、「所属学部満足度」では、「満足している」、「やや満足している」を合わせると77%になり他の学部と比較して満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」では、「全部取得できた」が79%で、他学部と比較して割合が多い。医学部では、卒業時に国家試験を受けて取得できる免許の種類や卒業後の進路(職種など)が明確であるので、学生は本学を選ぶときから将来の職種を考慮している学生が多く、学部に対する満足度も多いことが分かる。しかしながら、「授業に対する満足度」では、「満足している」、

「やや満足している」を合わせた割合は55%で割合が減少しており、全学平均の52%とほぼ同じ割合になっている。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が43%になっており、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」では、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせると割合が約70%になっており、歯学部、薬学部と同様にサークルへの加入者が多いことが分かる。「大学祭への参加」では、医学部では71%になっており、他学部と比較して積極的に参加している学生が多い。

「進路・就職について」では、「希望職種」で「専門職（医師、看護師等）」が68%になっており、歯学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が多い。その他では、研究職や公務員などがある。「大学が行う就職セミナーへの参加」では、「参加する」や「時間があれば参加する」と答えた学生の割合が54%で全学の平均70%と比較すると少ない。これは医学部の特殊性によるものであるが、看護師や診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生数も多いので、これらの学生に対して病院等の医療機関についての就職情報の提供や、医療機関への就職に関するセミナーの開催などの就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は、歯学科と平成19年開設の口腔保健学科の2学科から構成されており、各学科の回収者数と回収率は、歯学科179人(62.4%)、口腔保健学科45人(95.7%)であり、歯学部全体では224人(67.1%)であった。大学全体の回収率(54.4%)と比較すると回収率は良いが歯学科については前回の回収率(76.6%)より14ポイント悪くなっている。口腔保健学科は1学年の定員が15名と徳島大学の中では最小の学科であり、比較的まとまりが良い為、回収率も良い。

まず経済的な面であるが、「家庭の年間収入」では、750万円以上の収入がある家庭が約60%で、全学部の中で最も多く、500万円未満の収入の家庭も16%と全学部の中で最も少なく、裕福な家庭が多いことがわかる。このことは、自宅外通学者の1か月の平均収入にも表れている。1か月に10万円以上収入がある学生の割合は43%で医学部よりも割合が多く、5万円未満しか収入がない学生の割合も18%と最少である。また、「経済的状況」では、「ゆとりがある」と「普通」を合わせて67%で最も高く、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が31%で、この割合は全学の平均(38%)より7ポイント低く比較的恵まれていると考えられる。しかし、年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では「申請していない」が41%と最も少なく「制度を知らなかった」の16%と合わせても57%で、全学免除、半額免除の合計19%も最も少ない。同様に年収500万円未満の家庭で5万円以上の奨学金を受けている割合は、25%で最も少なく、全学の平均値35%より10ポイントも低い。1週間のアルバイトも5時間未満が薬学部の48%について36%と多く、10時間未満と合わせると75%となり、薬学部の73%よりも多くなり、アルバイトに従事する時間は少ないといえる。このため、15万円未満が74%と薬学部の78%に次いで多いが、その一方で15万円以上が2%もいることが分かる。

次に、「健康状態」であるが、睡眠時間では4時間未満がどの学部にも少数いて、歯学部では男子で5%と最も多いことが示されている。慢性的な睡眠不足の状況と考えられるが実状はどうか、更なる検討が必要かもしれない。「気になる症状」では、他の学部とほぼ同じ内容で、「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」、「下痢・便秘」などの項目があがっていて歯学部として突出した項目は無い。「おもな悩みと不安」や「悩みの相談相手」でも、特徴的な傾向は見られない。「喫煙」に関しては、「喫煙歴がない」が男女とも最も低く男子が56%、女子が87%であり、特に男子の「ときどき喫煙している」22%と他学部の約3倍で、医療系の学部としては禁煙意識が低いことが示された。飲酒では

男子で「1週間に5日以上飲酒している」が8%と群を抜いて多いことが示されている。これはほぼ毎日飲酒している状況と思われる、酒量も検討する必要がある。

「食事」では、「昼食の利用場所」で最も多いのが「弁当を購入」で42%あり、他学部と比較しても歯学部が最も多く、「その他」の18%の多くは弁当持参が居ることから、弁当派が半数以上と推測される。

「学生食堂について感じていること」では、「メニューが少ない」29%、「昼食時の混雑がひどい」37%で、蔵本地区の学生食堂の充実が必要と思われる。

「学生生活の意義」では、「勉強や研究」が歯学部は前回40%と1位を占めていたが今回は35%と下がり、薬学部に1位の座を明け渡している。それ以外では、他学部との顕著な差は見られない。「迷惑行為」では、「クーリングオフの認識」「迷惑行為を受けたことが無い」の項目は他学部とほぼ同じ傾向である。「悪徳商法の被害を受けたことがある」は、歯学部男子の4%で工学部夜間男子と並んで被害者が多い。「いたずら電話の被害を受けたことがある」男子が7%、女子が9%と他学部に比し、男子が多い。「ストーカーの被害にあったことがある」は、2%前後で少ないほうに属している。昨年問題になった「大学内でセクハラ被害にあったことがある」は、女子で1名・1%、男子は0であるが、「大学内でアカハラの被害にあったことがある」は男子が7%、女子が2%、歯学部全体で4%と他学部に比し多い。技工物の作成実習が不可欠で教官と学生とのマンツーマンの実習が多いことや、技工の上手・下手など、歯学部特有の体質的な土壌が存在している点や、アカハラ・パワハラの認識が少ない教官が存在している可能性がある。一方、「迷惑行為を受けた際の相談先」では、「教員」が25%と比較的多い。今回のアンケートで学部間の差異が最も現れた結果である。

「就学状況」では、「本学を選んだ理由」で「希望する学部・学科があったから」が44%で最も割合が多く、これは医学部、薬学部と同じ傾向である。また、「所属学部満足度」では、「満足している」、「やや満足している」を合わせると71%になり医学部の次に満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」では、「全部取得できた」が63%で、他学部と比較して割合が多い。「授業欠席理由」で気になるのは、歯学部1年の「授業が理解できない」33%、歯学部6年の「授業に魅力が無い」50%、「授業が理解できない」50%でこれは薬学部2年と同じであるが、歯学部の方は最終学年であり不安を覚える。「授業に対する満足度」では、「満足している」、「やや満足している」を合わせた割合は60%で、「やや不満足」と「不満足である」を合わせた割合は7%と最も低い。「オフィスアワーの利用状況」では、歯学部では「利用したことがある」が39%と高い部類に入る。「図書館の利用状況」では、今回のアンケートで歯学部に特徴的なことは見られない。しかし、仄聞するところによると、蔵本分館での時間外利用登録者は歯学部学生が最も多く、主に自習勉強に利用している。

「課外活動について」では、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせると割合が約71%になっており、医学部、薬学部とほぼ同様である。「大学祭への参加」では、歯学部では55%と全学の平均57%をやや下回っている。

「進路・就職について」では、「希望職種」で「専門職（歯科医師、歯科衛生士等）」が58%になっており、医学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が多い。その他では、公務員や研究職などがある。口腔保健学科は卒業生をまだ出していないが、内部調査では病院の歯科・口腔外科で歯科衛生士として働くことを希望する者が半数以上である。「大学が行う就職セミナーへの参加」では、歯学部は従来から就職支援室の利用は殆ど無く、歯学部独自で研修医のマッチング説明会や、同窓会の協力を得て卒業生・開業OBによる就職説明会を年に2回開催している。また、同窓会総会の後の懇親会に6年生も参加して、全国各地の支部会員に直接各地の歯科医需給状態などを聞くことが出来る機会を設けている。今後、口腔保健学科が卒業生を送り出すようになると、就職支援室のお世話になる機会が増えると考えられる。

9-4 薬学部

今回の調査は対象者329名に対して166名からの回答が得られ、回収率は50.5%であった。前回の調査の回収率(36.3%)と比べて、大幅に上昇した。この理由として、薬学部教育の6年制学科と4年制学科の目的別2学科への移行が影響したと思われる。前回の調査では、旧4年制学科(薬学科および製薬科学科)の回収率はそれぞれ、36.8%および26.7%であったのに対し、前回の時点で入学の始っていた新学科(薬学科・創製薬科学科)の回収率は51.7%であった。この新学科制学生の回収率が今回の調査の回収率になったと考えられる。

まず、薬学部への進学理由であるが、志望学部として薬学部を挙げる学生が最も多く、続いて国立大学であるということが主要理由であった。薬学部を志望した学生の割合が高いことは前回の調査からも続いており、目的意識の高い学生が多く入学していると考えられる。このことが良好な授業出席状況、および、単位取得状況に繋がっていると考えられる。更に、大学生生活の意義を勉強や研究に挙げる学生(45%)が全学部の平均(31%)と比べて高い結果になっていると考えられる。しかし、薬学部に対する満足度では全学部の平均と同レベルであり、更に、授業の満足度は全学部平均を下回っており、解決すべき問題点が残っている。

大学入学後自宅からの通学学生(17%)が全学部で最も低く(全学部平均31%)、他府県出身者の多いことが分かる。この理由は国立大学薬学部の数が少ないことに起因すると考えられる。そのために生活費用が多くかかると考えられるが、個々の学生の収入額、支出額、食費、および、保護者からの援助額などにおいて、全学部の平均と大きな違いが認められなかった。その理由として、薬学部に入学した学生の家庭の収入は全学部の学生の家庭の平均と同レベルであり、多くの援助が得られないこと、アルバイトの回数が他学部の学生より少ないことなどから、一定の収入による切り詰めた生活を行っている可能性が考えられる。

睡眠時間について、薬学部学生は男子、女子共に殆どが4時間~8時間の睡眠時間であった。全学部の平均よりやや短い印象もあるが、それほどかけ離れてはいない。身体症状において、薬学部男子学生は頭痛・めまい、アトピー、動悸・不整脈などの症状が他の学部比べて多かった。女子学生は薬学部のみならず全学部において身体症状が男子学生より多いが、薬学部的女子学生が突出することはなかった。精神的な悩みとして、薬学部学生は他学部比べて勉学の悩みが突出して多かった。悩みの相談相手は男子、女子共に第一が友人、第二が家族。相談しないが第三であることは他学部と差はなかった。

迷惑行為については、薬学部の突出はなかった。個々についても悪徳商法、いたずら電話、セクハラ、アカハラなどは他学部との差はなかった。しかし、ストーカー被害は女子学生にやや多かった(5%)。ところがそのすべてが友人に相談しており、他学部の場合と明確に異なった。

薬学部学生の卒後の進路については43%が進学希望であるが、将来の希望職種は61%が薬剤師としての専門職を希望している。公務員を希望する者も20%と他学部と比較しても高かった。ところが、大学が行う就職セミナーへの参加は医療系学部比べて高い割合を示した。インターネットを利用した就職情報入手の割合も他学部比べて高かった。これらのデータに医療系と製薬企業を中心とする就職状況における薬学部の特長が見られると思われる。これらの数値は6年制・4年制の2学科制の進行に伴い数年は変化すると思われる。特に、6年制学科の卒業生の進学が危ぶまれており、進学率の低下が懸念される。卒後、大学院への進学や社会人大学院学生などのカリキュラムを利用して高度の研究背景を持つ薬剤師の輩出が期待される。4年制学科についても、医療系学科へのシフトを明確にした薬学部教育を行うことが多方面に期待される卒業生を輩出できると考えられる。

9-5 工学部

「工学部を選んだ理由」としては、「国立大学だから」、「地元の大学だから」、「希望する学部学科があったから」の比率が高く、前回の調査結果と同様である。目的意識を持った積極的理由として「希望する学部学科があったから」、「就職等将来を考慮して」の合計比率は、過去2回の調査からも医学部、歯学部、薬学部に比べてかなり低い。この傾向は、工学部受験生が全国的に減少してきており、本学工学部だけの問題ではない。日本の社会構造が財を生産する部分からサービスを提供する部分へシフトしていることに関係がある。しかし、日本の将来を考えるとこの傾向は危ういので、入学後、意欲を持って勉学に取り組む学生を確保するためには、学部・学科の特徴、学ぶ内容に加えて自分の将来像を描きやすいように卒業後の進路・仕事の具体的内容についてわかりやすく広報することが必要である。一方、工学部に所属することの満足度のうち「満足している」、「やや満足している」の合計比率は、前々回調査から今回へと昼間コースではほとんど変わらず、夜間では増大してきており、上の工学部を選んだ積極的理由の比率とは必ずしも対応していない。

「修学状況」のうち授業に対する満足度は、「満足している」、「やや満足している」の合計比率高い。一方、これまでの単位取得状況のうち、「全部取得できた」、「ほとんど取得できた」の合計比率は他学部比べて低い。特に夜間では「半分程度取得できた」、「あまり取得できなかった」が多い。これらの結果は、授業が満足できない理由のうち「授業内容が難しすぎて理解できない」が他学部より高く、現在の入学学生の学力程度では工学部の授業内容が理解できず、教師が教え方を工夫する程度ではどうにもならないことを示している。学生自身の自覚と学習意欲の増大と努力が必要である。また授業が理解できない場合の対処法として「気になるけど何もしない」、「気にしない」が多くなっているが、オフィスアワーを利用しない理由で「教員に相談するのが面倒である」、「オフィスアワーが利用しにくい」の回答が多いことと関連させると、オフィスアワーをさらに充実が役に立っていないとともに、学生自身の積極性が必要である。「家庭の年間所得」が500万円未満の比率は多く、家庭からの仕送りは多くが3万円未満であり、それに関連してアルバイトをしている学生の多くが週15時間以上従事しており、アルバイトが「勉学の支障になっている」との答えが他学部比べて高いことの一因になっていると思われる。経済状況が「やや苦しい」、「大変苦しい」と答えた学生が少なくなく、奨学金制度等を用いてどのように支援していくかを検討するとともに勉学に対してバランスの取れたアルバイトをするようにアドバイスをする必要がある。「健康」について何らかの「気になる症状」があると答えたのは男子、女子ともに多く、何らかの「悩みや不安」があるという回答も多い。悩みの内容は、「勉学」、「就職や進路」、「経済状態」、「生き甲斐や目標」となっており、悩み事の「相談相手」はほとんどが「友人」で、「教員」及び「学生相談室」は極めて少ない。また「誰にもしない」も高比率である。さらに「現在の精神状態」で約半数が精神的不安定さを持っている。しかし、保健管理センターの「健康診断以外の利用」は低く、「知らない」、「行ったことがない」の回答も多い。保健管理センターの活動の周知徹底が必要である。健康面で気になる症状、悩み、精神的不安定さを抱いている学生は多いが、その相談先として現状では学生相談室、保健管理センターの利用は少なく、友人が相談相手になっており、健全な大学生活を送る上で友人の果たす役割が大きいといえる。

「昼食の利用場所」は、昼間では「第1食堂」、「自宅（下宿）」、「弁当を購入」で、「第2食堂」の利用率は依然として低い。「昼食時の混雑がひどい」と答えた学生は前回調査と同じ程度であり、混雑を避ける意味からもさらに第2食堂の利用率を増やす方策が必要である。

「学生生活上の問題点」のうち迷惑行為を受けたと答えた学生は、悪徳商法、いたずら電話、ストーカー、セクハラ、アカハラなどとなっているが、主観的な指摘も多く、どれほどの実害があるかはよく分からない。このうち、相談相手として「友人」、「誰にもしない」を挙げた学生が多く、「学生相談室」

を挙げた学生は少数で、いまだ「学生相談室を知らない」学生がおり、学生相談室の活動の周知徹底が必要である。

「課外活動」に関して、学内のサークルへの加入率は他学部に比べて低い。加入しない理由は、昼間で「特に理由はないが何となく」が多く、夜間で「アルバイトをしているので時間的余裕がない」が多い。サークル活動は、学生のコミュニケーション能力を増進し、社会性を育てる上でも重要であり、サークル活動への加入を促すことが必要と思われる。

「進路・就職」に関して、進路を考える上で情報入手手段はインターネットが多く、次いで先輩・知人、就職担当教員、就職支援室の情報等となっている。希望職種は、「技術職」が最も多く、次いで「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」、「企業等の研究職」で、技術職指向が強く、研究職指向が少い。「就職や進路」について悩みを抱えている学生は多いが、工学部では各学科に就職担当教員が配置され、就職支援室利用者も増えてきていることから就職に関して大きな問題はないと考えられる。

第10章 総括と提言

第24回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員(5,879名)を対象として実施され、3,198名(54.4%)から回答を得た。調査項目は、「基本的事項」、「家族・住居、通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「生活上の問題」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目であり、過去の調査との継続性を考慮しつつ、総設問数は80問とした。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的立場からの学生生活支援を推進するにあたり、以下の総括と提言を取りまとめた。

1. 経済状況について

各学部により「家庭の年間収入」にばらつきは見られるが、年収500万円未満と回答した学生が32%であり、加えて11%の学生が現在の経済状況を「大変苦しい」と回答していることから、経済的に必ずしもゆとりのない学生の存在が伺われる。今後はこれらの学生の授業料免除や各種奨学金の受給状況を的確に把握したうえで、経済的支援策の一層の強化を図る必要がある。

2. 健康状態について

充実した学生生活を送るためには、身体的かつ精神的、社会的に良好な状態を維持することが不可欠である。しかしながら、「気になる症状や悩み・不安」を訴える学生が少なからず存在する。こうした悩み・不安の解決策のひとつとして、保健管理センターや学生相談室の積極的な活用を学生に周知徹底する必要がある。学生相談室の認知度はかなり向上しているが、なお一層の広報・啓蒙活動を展開するとともに、保健管理センターと学生相談室、各学部の連携を一層強化し、三者が一体化した総合的支援体制の確立を目指さなければならない。

3. 食事について

前回調査と比較して朝食の欠食率の顕著な改善は見られず、1割程度の学生は昼食や夕食を毎日ではなく「時々食べる」と答えていることから、食育への取組をさらに強化する必要がある。また、本年度は学生食堂についてのアンケートを別途に実施しており、アンケート結果をふまえたうえで、大学が提供する施設面の問題として、食堂運営者と大学が一体となった学生食堂の改善へ向けた早期の取組が不可欠である。

4. 通学について

学生全体の7割近くが自転車で通学していることと、約1割の学生が「通学中に交通事故をおこしたことまたは交通事故の被害にあったことがある」と答えていることから、自転車通学時の安全確保に対するしっかりとした自覚を促すとともに、キャンパス内の駐輪場の整備等も一層充実させなければならない。

5. 学生生活上の問題点について

クーリングオフ制度の認知度の向上や悪徳商法・ストーカーによる被害の減少は、大学入門講座等による教育効果の現れと考えられる。今後は、さらに継続して注意喚起や防止対策を行うとともに、薬物乱用問題やカルト問題等についても十分な取組を進める必要がある。また、セクハラやアカハラの被害者を出さないために、教員はより一層の意識向上に努めなければならない。

6. 修学状況について

所属学部への満足度については7割近くの学生が「満足している」あるいは「やや満足している」と答えているが、「勉学への意欲がわからない」や「授業が理解できない」などの理由から、1割程度の学生は授業への出席状況が不十分となっている。したがって、勉学への意欲をかき立てる魅力ある授業の提供へ向けた教員の不断の努力が強く望まれる。

7. 課外活動について

サークル活動や各種学生行事（新入生歓迎行事、大学祭など）、ボランティア活動等は学生の自主性ならびに主体性を基盤として行われるものであるが、学生が積極的に安心してこれらの課外活動に参加できるような環境づくりは大学としての責務である。したがって、サークル活動等の活動状況を的確に把握するとともに、活動状況に応じた組織的かつ継続的支援が望まれる。

8. 進路・就職について

大学が実施する就職セミナーについて、7割程度の学生は「参加する」あるいは「時間があれば参加する」と回答している。昨今の厳しい就職環境下にあって、各学部と就職支援室との連携のもと、学生のニーズに合わせた組織的な就職支援策の一層の充実が求められる。

学生支援室では、今回の調査結果が徳島大学での学生教育ならびに学生支援、大学運営への的確に反映されるよう、全学的な連携・協力体制下に実効性のある支援策を講じていきたい。

あ と が き

2006年度の前回調査から3年後の2009年11月に、学部学生を対象とした学生生活実態調査を実施し、ここに第24回の調査報告書としてまとめることができました。徳島大学において最初の「学生生活実態調査」（当時は「学生生活状況調査」と呼ばれていました）が行われた1953年より、実に半世紀を越える長きにわたって本調査は継続的に実施されていることとなります。これらのデータの蓄積は学生生活の変遷を知るうえでたいへん貴重な資料であり、2005年度からは大学院生生活実態調査も実施されるに至り、学生生活実態調査はより一層充実したものとなりました。学生生活実態調査報告書「キャンパスライフ」には学生生活を伺い知ることのできる興味深いデータが満載されています。ともすれば主観的にとらえてしまいがちな学生生活の印象ですが、多くの学生のみなさんからの生の声を数値化し、客観的に解析した実態調査報告書をご覧いただければ、学生生活の現状とその問題点を的確に把握することができるのではないのでしょうか。今回の調査結果が、徳島大学での学生教育ならびに学生支援、大学運営への的確に反映され、より良い学生生活環境の整備に向けて有効に活用されることを願ってやみません。また、今後もより一層充実した学生生活実態調査を継続して実施するため、改善すべき点などご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後に、今回の調査にご協力いただきました学部学生のみなさんに心より感謝の意を表しますとともに、本調査の実施と分析にご支援・ご協力を賜りました委員の方々、報告書の作成作業をご支援いただきました学務課職員の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

学生支援センター 学生生活支援室長
佐野茂樹



キャンパスライフ

24th Tokushima Univ. Campus Life
第24回学生生活実態調査報告書



平成 22 年 3 月

徳島大学